

SynchRoid 11.3.0.2について

アジェンダ

- **11.3.0.2について**
- 不具合解決した事象
- 新機能について
- 11.3.0.2への移行と顧客への影響
- 11.3.0.2の既知の事象について

新機能追加・不具合修正により利便性が向上

コンポーネント	機能追加	不具合修正
Design Studio	35件	1件
Kapplets	9件	3件
Management Console	10件	5件

アジェンダ

- 11.3.0.2について
- 不具合解決した事象**
- 新機能について
- 11.3.0.2への移行と顧客への影響
- 11.3.0.2の既知の事象について

前バージョンで発生していた下記の不具合が解決

対象	解決した事象
1 DA	DAワークフローでウィンドウステップを利用してExcelファイルを起動した場合、Excelが非アクティブになり、後続ステップでエラーとなる場合があります。（ウィンドウステップはv11より登場）
2 MC	ログビューのDASメッセージに表示されている時刻は、UTC（協定世界時）で表示されています。日本時間に変換するには9時間を加える必要があります。（v10.7.xから発生）
3 MC	「ユーザーおよびグループ」タブの「ユーザー」リストで「電子メール」値が表示されません。ユーザー登録時に設定した電子メールの情報は保持されています。ユーザーの編集画面で確認できます。
4 MC	[スケジュールの編集]ダイアログを開くと、スケジュールサイクルの単位は、分または時間で登録した場合でも、常に秒で表示されます。
5 MC	権限の「パスワードストアクライアント」は、v11.1MCで旧バージョンのバックアップからの復元時にプロジェクトとグループの設定が解除されます。復元後にユーザグループとプロジェクトの権限を再設定が必要です。
6 MC	LDAP連携をして環境を構築した場合、以下の事象が発生することから利用を推奨できません。MC上で変更した設定がMCの画面上に反映されません。MCにログインしたユーザと違うユーザとしてMCの画面が表示されます。ユーザ名称やMCのメニューが正しく制御されません。
7 Kapplets	新Kappletsでバックアップファイルからユーザとグループを復元すると、ユーザとグループの紐づきが解除される場合があります。バックアップからデータ復元後、新Kappletsでユーザとグループの再設定を行う必要があります。
8 Kapplets	Kappletを新規作成時に名前と説明を入力後にワークスペースを選択した場合、名前と説明がワークスペースの名前と説明で上書きされます。ワークスペース選択後にKappletの名前を説明を入力することで任意の入力が可能です。
9 Kapplets	新Kappletsではスケジュール実行の提供はありません。（v10.xではスケジュール実行が可能）

アジェンダ

- 11.3.0.2について
- 不具合解決した事象
- 新機能について**
- 11.3.0.2への移行と顧客への影響
- 11.3.0.2の既知の事象について

Design Studioベーシックエンジンロボット (DSロボット)

11.3.0.2の新機能 Design Studio(DSロボット)

1. ロボット名が変更されました
2. デバックモードでロボットを同時に実行する機能
3. 「ロボットを呼び出す」ステップからロボットを新規作成する機能
4. ファイルの依存関係を確認する機能
5. 「REST Webサービス呼出」でサポートされている認証のネゴシエーション
6. ウェブサイトを開くためにサポートされているSSLタイプの自動ネゴシエーション
7. RESTおよびSOAP呼び出しでサポートされるプリエンティブ認証
8. 動的デバイスマッピングを静的デバイスマッピングに渡す機能
9. Exampleフォルダに新しいロボットが追加
10. ロボットファイルをURLで開く機能
11. データベースマッピングをDAロボットへ渡す機能
12. クライアント証明書のエイリアス変数を追加する機能
13. 大文字と小文字を区別して検索する機能

1.ロボット名が変更されました

- 従来の[Web Automationロボット]は[ベーシックエンジンロボット]に[Desktop Automationロボット]は[ロボット]に名称が変更されました。
- 本資料は[ベーシックエンジンロボット]を[ベーシックエンジンロボット]、[ロボット]を[DAロボット]と表記します。



	v11.3	v11.1	v10.7
	ベーシックエンジンロボット	Webオートメーションロボット	ロボット
	ロボット	Desktop Automationロボット	(Desktop Automationステップ)

2.デバックモードでロボットを同時に実行する機能(1/2)

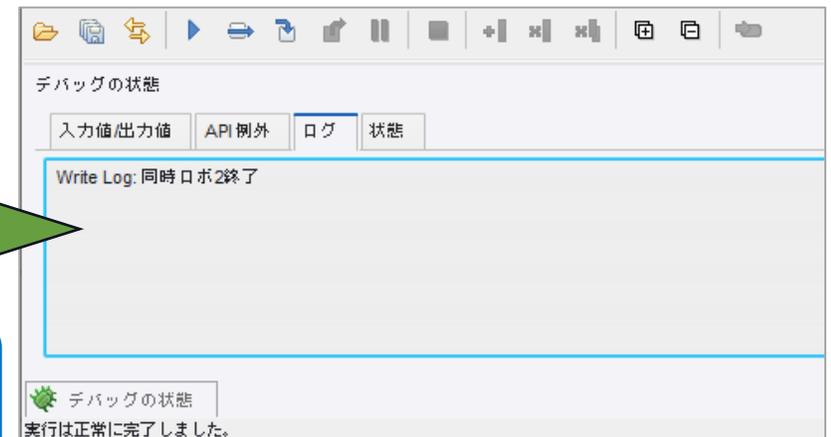
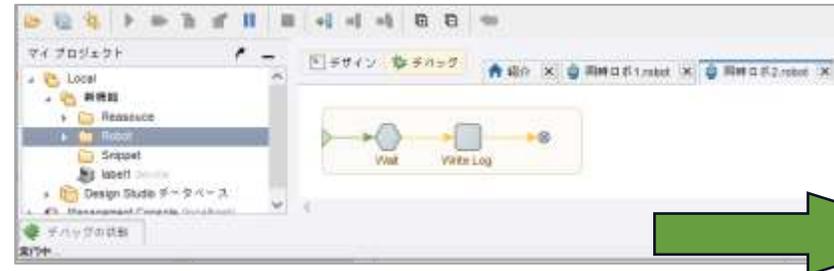
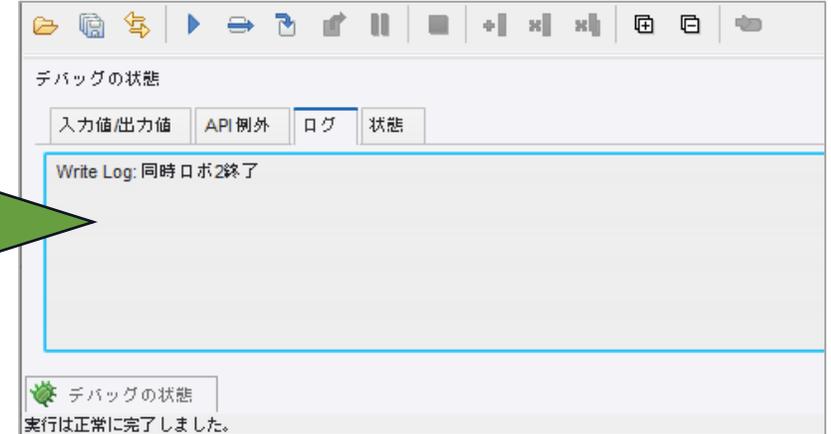
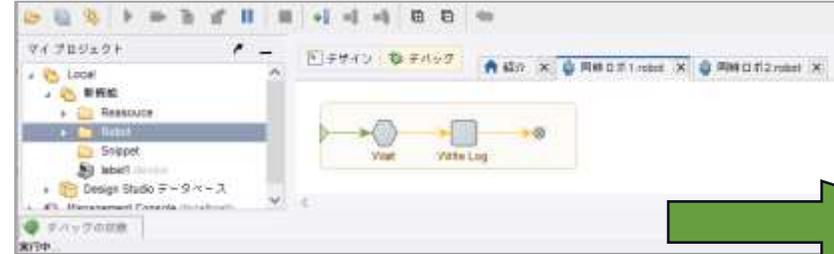
・同時に複数のベーシックエンジンロボットをデバックモードで実行できるようになりました。

※注意点

(1) デザインモードでは実行準備をしたロボットのみ実行可能です

(2) 複数のロボットから同じDAS接続を利用することはできません

・v11.1のデバックモードでは1つのロボットのみ実行可能です。



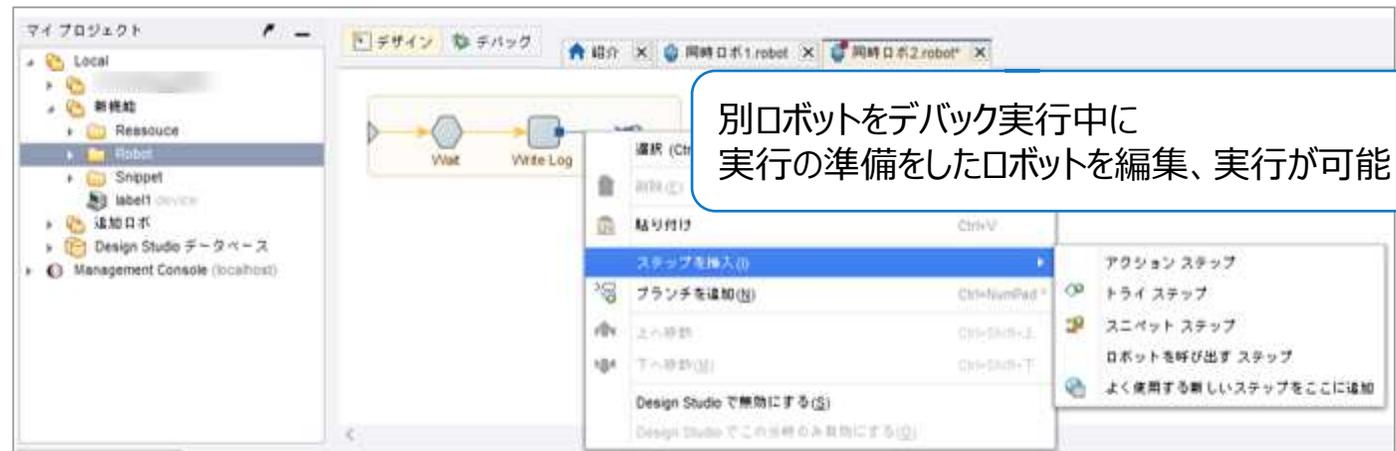
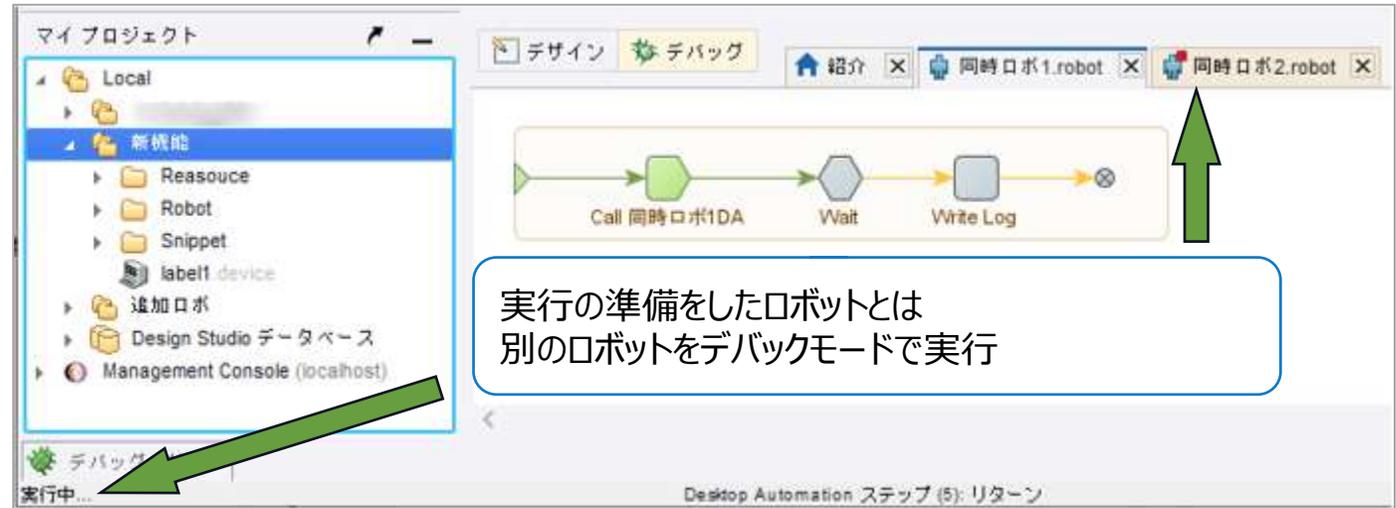
上記は2つのロボットがデバックモードで同時に実行可能な例になります。

2.デバックモードでロボットを同時に実行する機能(2/2)

・デバックモードでベーシックエンジンロボットを実行中に別のベーシックエンジンロボットを編集、ロボット実行できます。

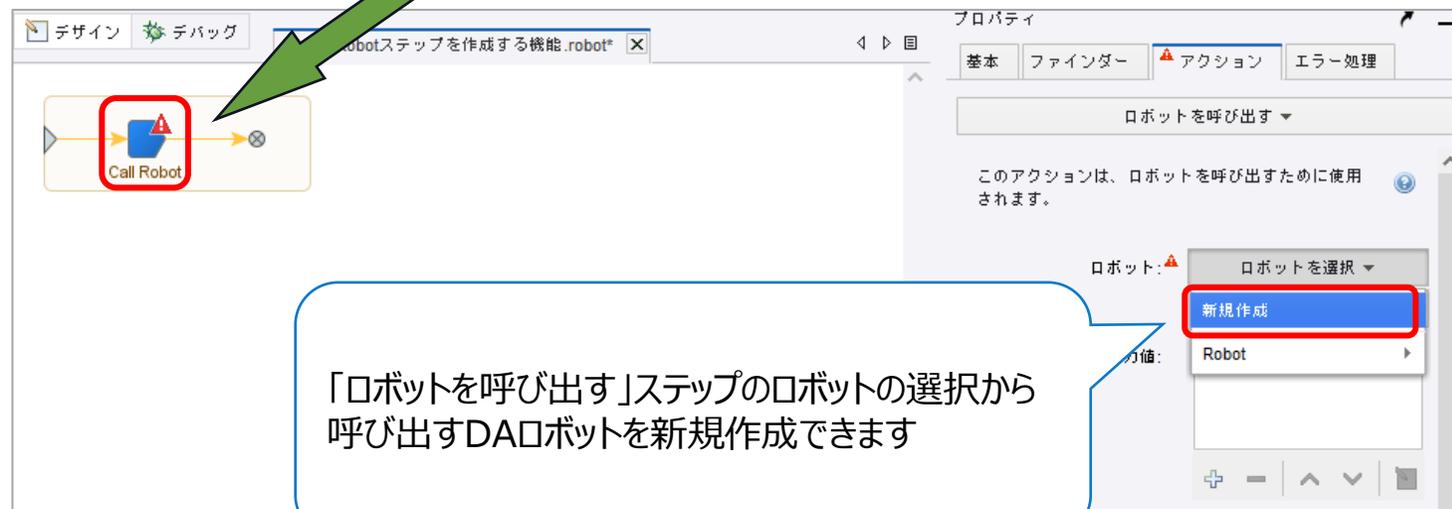
(実行の準備をしたロボットはデザイン、デバック共に実行可能)

・ベーシックエンジンロボットをデバックモードで同時実行、デバック実行しながら別ロボットを編集できることにより作業効率が上がります。



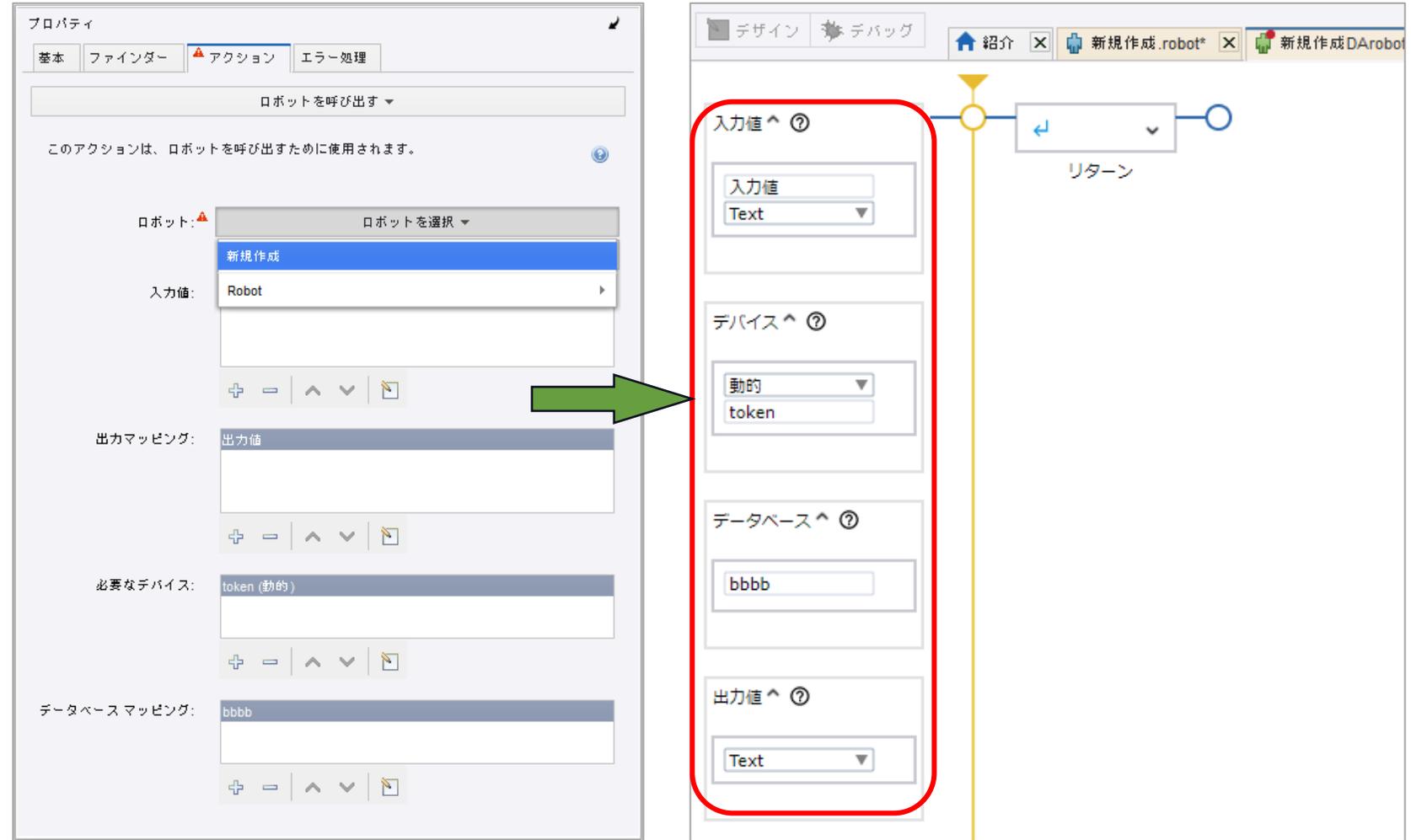
3.「ロボットを呼び出す」ステップからロボットを新規作成する機能(1/2)

・「ロボットを呼び出す」ステップから呼び出すDAロボットを新規作成できるようにしました。



3.「ロボットを呼び出す」ステップからロボットを新規作成する機能(2/2)

・ベーシックエンジンロボットで設定した入力値、デバイス、出力値、データベース等の設定値がDAロボットの左ペインに自動で設定されます。



The image displays two side-by-side screenshots of a software interface. The left screenshot shows the 'プロパティ' (Properties) pane for the 'ロボットを呼び出す' (Call Robot) action. It includes tabs for '基本' (Basic), 'ファインダー' (Finder), 'アクション' (Action), and 'エラー処理' (Error Handling). The 'アクション' tab is active, showing a dropdown for 'ロボット' (Robot) with '新規作成' (New Creation) selected, and an '入力値' (Input Value) field containing 'Robot'. Below this are sections for '出力マッピング' (Output Mapping) with '出力値' (Output Value), '必要なデバイス' (Required Devices) with 'token (動的)' (Dynamic), and 'データベースマッピング' (Database Mapping) with 'bbbb'. A green arrow points from the 'Robot' dropdown in the left pane to the 'デバイス' (Device) dropdown in the right pane. The right screenshot shows the 'デザイン' (Design) view of a flowchart. A yellow vertical line represents the 'Call Robot' action, with a red rounded rectangle highlighting its configuration. The configuration includes: '入力値' (Input Value) set to 'Text', 'デバイス' (Device) set to '動的' (Dynamic) with 'token' selected, 'データベース' (Database) set to 'bbbb', and '出力値' (Output Value) set to 'Text'. A 'リターン' (Return) node is connected to the right of the action.

4.ファイルの依存関係を確認する機能

•ベーシックエンジンロボット、スニペット、およびDAロボットに新しい依存関係の表示オプションが追加されました。

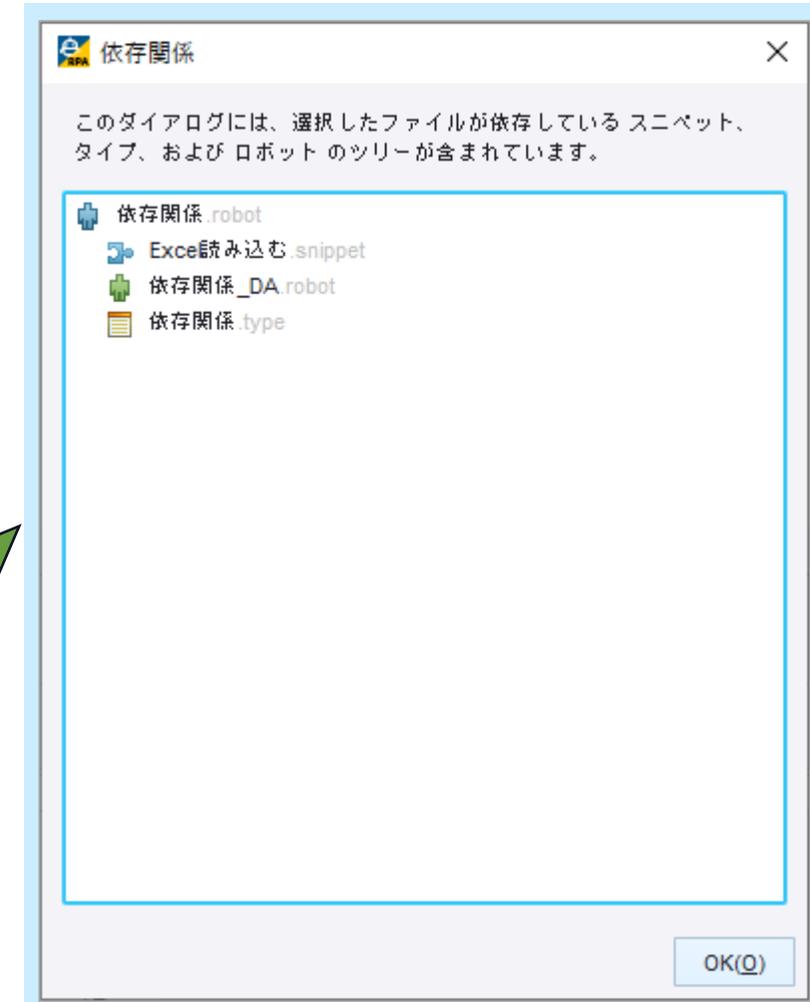
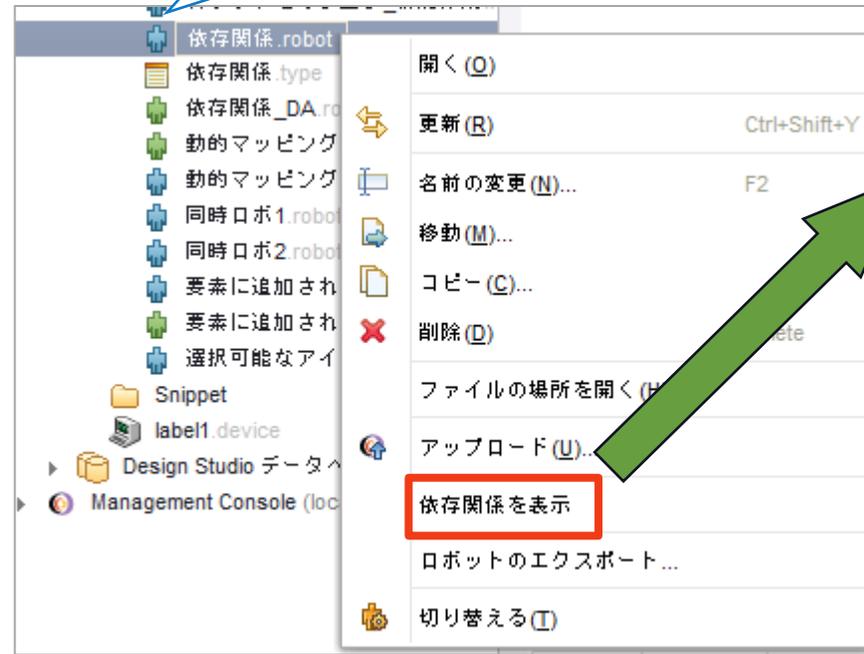
•このベーシックエンジンロボットやDAロボットファイルに関連付けられているすべてのタイプ、スニペット、DAロボットなど、既存のファイルの全ての依存関係を確認できます。

•ベーシックエンジンロボットをManagement Consoleへアップロードする際、一緒にアップロードされるDAロボット、タイプ、スニペットの依存関係の視認性が高まりました。

※注

タイプから依存関係を表示することはできません。

指定したベーシックエンジンロボットファイルの依存関係のあるファイルを表示

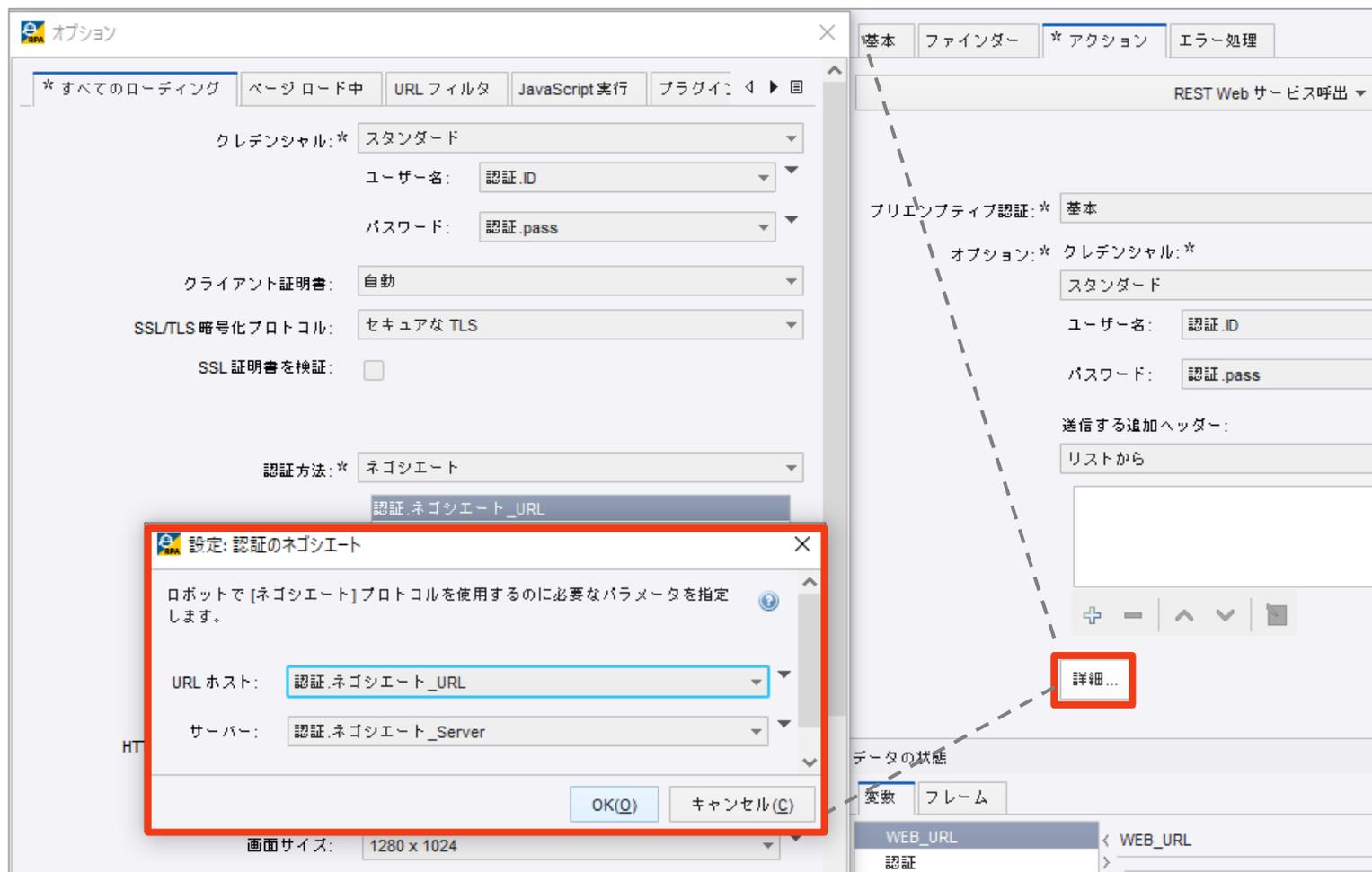


5.「REST Webサービス呼出」でサポートされている認証のネゴシエーション

・「REST Webサービス呼出」「SOAP Webサービス呼出」ステップでWindowsサーバーのKerberos認証をサポートします。

・「REST Webサービス呼出」ステップの「詳細」をクリックすると「すべてのローディングタブ」で設定できます。

認証のネゴシエートはプロキシサーバーでも使用できません。



6. ウェブサイトを開くためにサポートされるSSLタイプの自動ネゴシエーション

SSL/TLS暗号化プロトコル

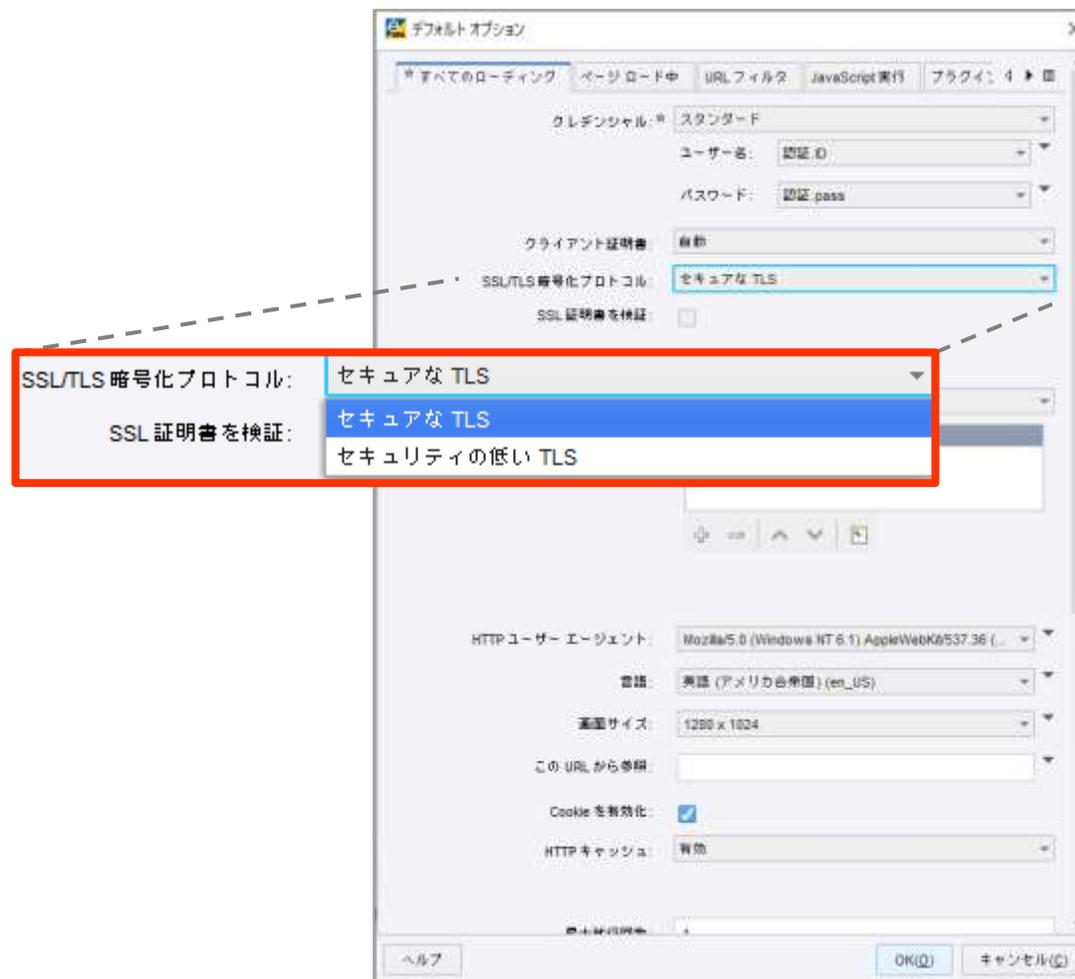
デフォルト：セキュアなTLS

このプロパティは、HTTPS URLからロードするときに使用するモードを指定します。アクセスするサイトによって、表示結果が変わるため、サイトの状況により設定する必要があります。

例：サイト自身が最新のTLSプロトコルをサポートしていない場合は、[セキュリティの低いTLS]に変える必要があります。

[セキュアなTLS]：安全なプロトコルと暗号のみを使用するように、暗号化された接続を制限します。このオプションは、TLS 1.3 および TLS 1.2 をサポートします。

[セキュリティの低いTLS]：制限を適用しないで、サポートされているすべてのプロトコルと暗号を使用します。このオプションは、TLS 1.3、TLS 1.2、TLS 1.1、TLS 1.0、および SSL3 をサポートします。



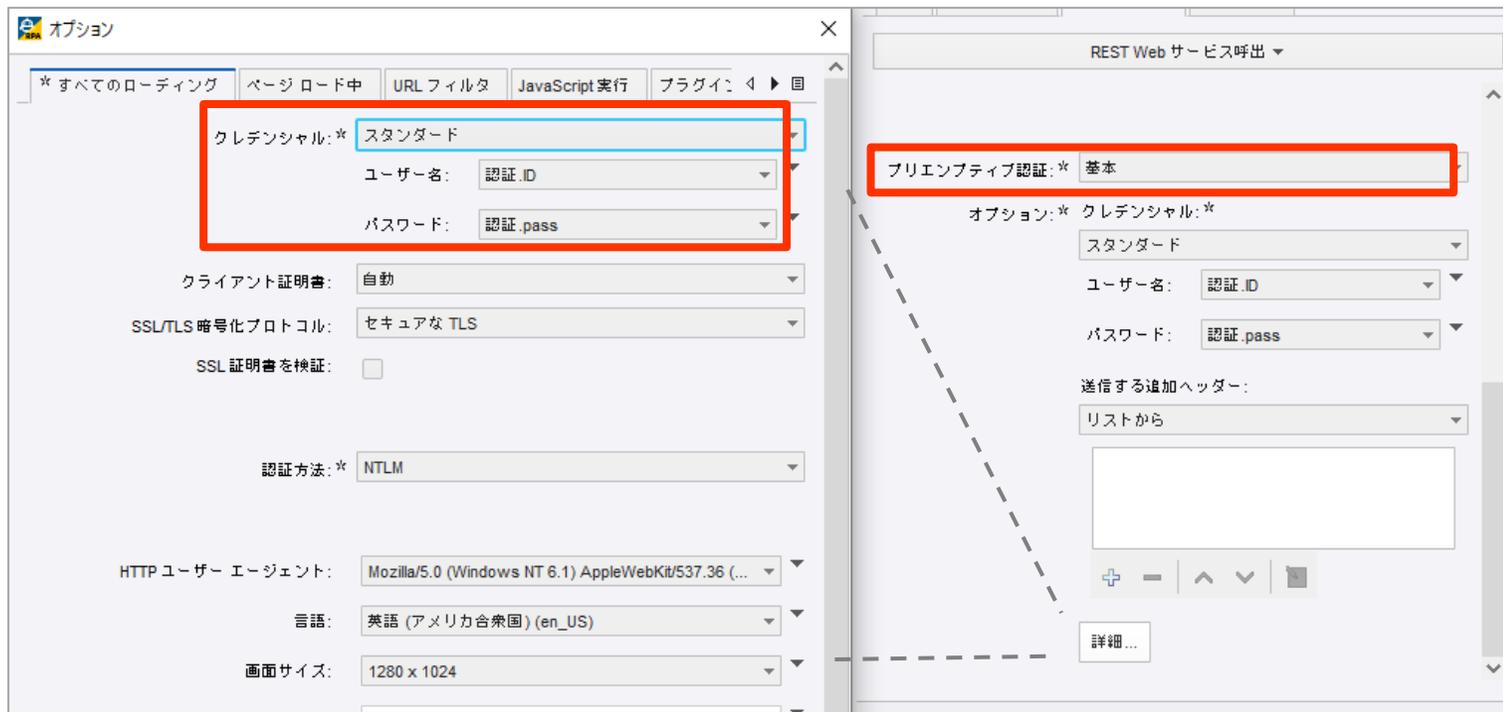
7.RESTおよびSOAP呼び出しでサポートされるプリエンティブ認証

プリエンティブ認証

認証ヘッダーの事前送信を有効にして、認証プロセス時間を短縮します。

プリエンティブ認証が有効になっている場合は、サーバーが「401未承認」応答を返す前に、Design Studioから基本認証またはダイジェスト認証応答が送信されます。

プリエンティブ認証を使用するには、[詳細]>[オプション]でデフォルトのクレデンシャルを設定する必要があります。

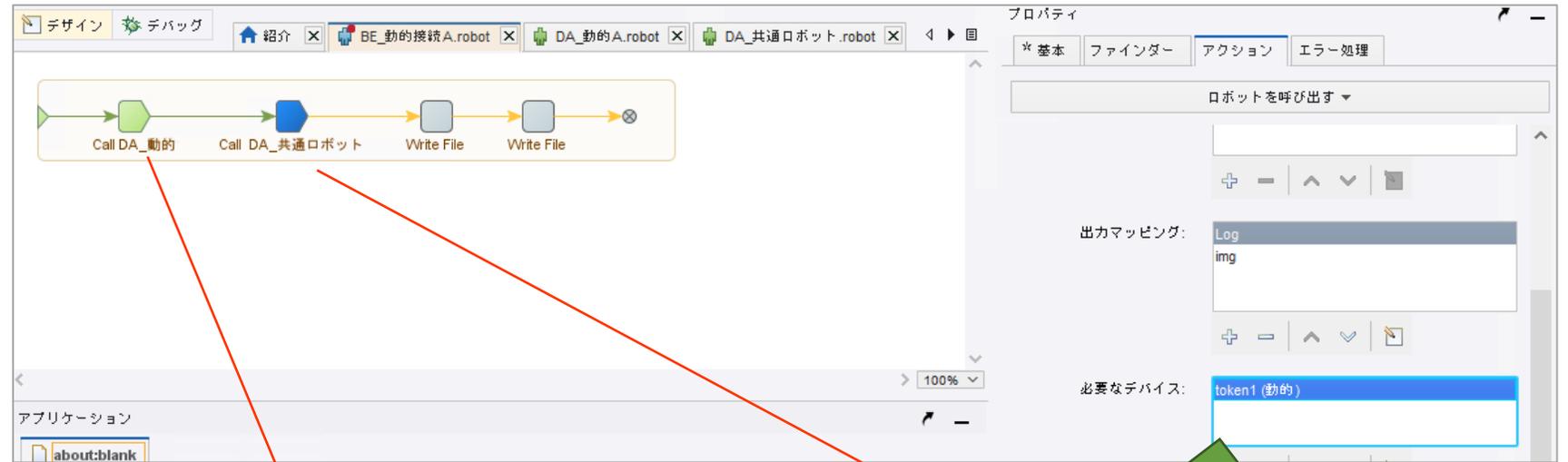


8.動的デバイスマッピングを静的デバイスマッピングに渡す機能

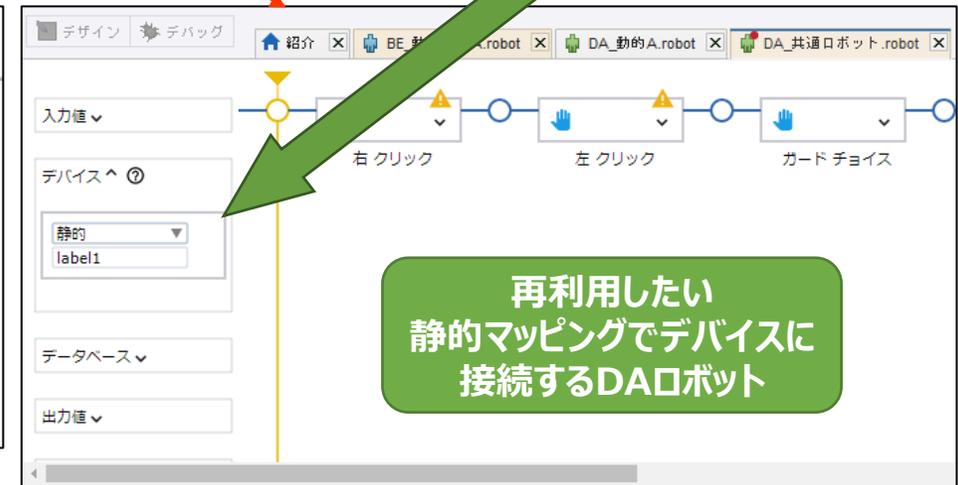
すでに作成された静的デバイスマッピングのDAロボットを「動的デバイスマッピングで接続している端末」で再利用できる新しい仕組みが追加されました。

- 前提として、ベーシックエンジンロボットのはじめは動的デバイスマッピングDAロボットでデバイスに接続します。

- その後、「ロボットを呼び出す」ステップで「必要なデバイス」に「動的デバイス」を指定し、呼び出すDAロボットは再利用したい静的デバイスマッピングDAロボットに設定します。



はじめに、動的マッピングでデバイスに接続するDAロボット

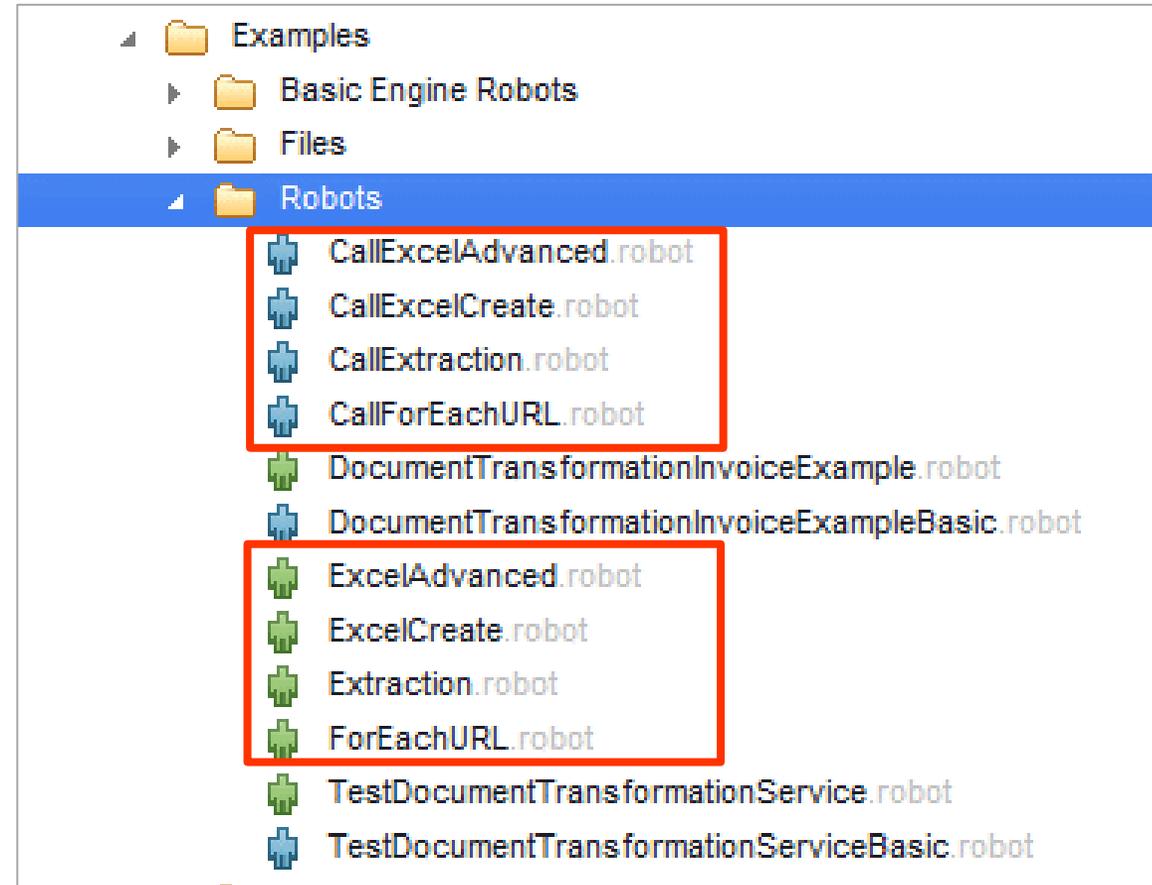


再利用したい静的マッピングでデバイスに接続するDAロボット

機能のより詳細な解説や活用事例などは動画で解説していますので、こちらも併せてご覧ください。
・『動的マッピングを静的デバイスに渡す機能』
(Youtubeの『BizRobo! TV』チャンネル)

9.Exampleフォルダに新しいロボットが追加

•Exampleフォルダに新しいサンプルロボットが追加されました。Webサイトからデータを抽出してBuiltinExcelへ転記する新しいサンプルロボットが追加されました。



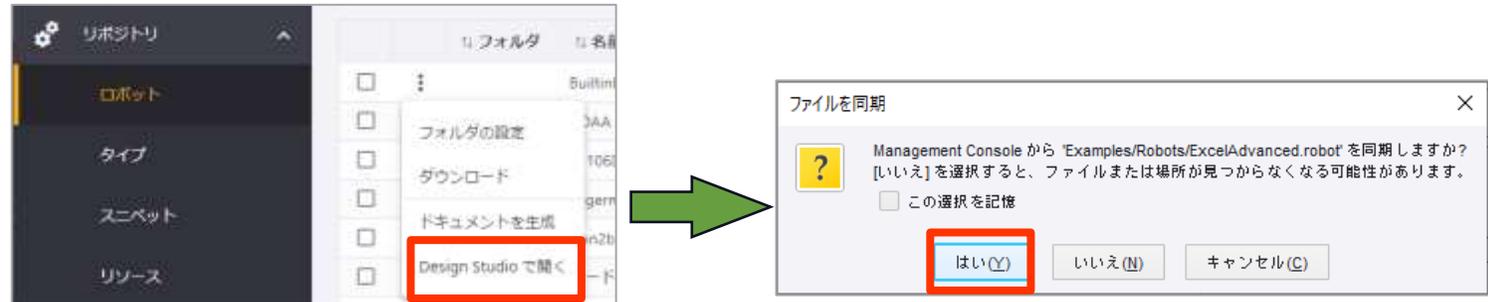
10.ロボットファイルをURLで開く機能(1/3)

• Management Console上のロボット、タイプ、スニペットファイルをURLを経由してDesign Studioで開けるようになりました。

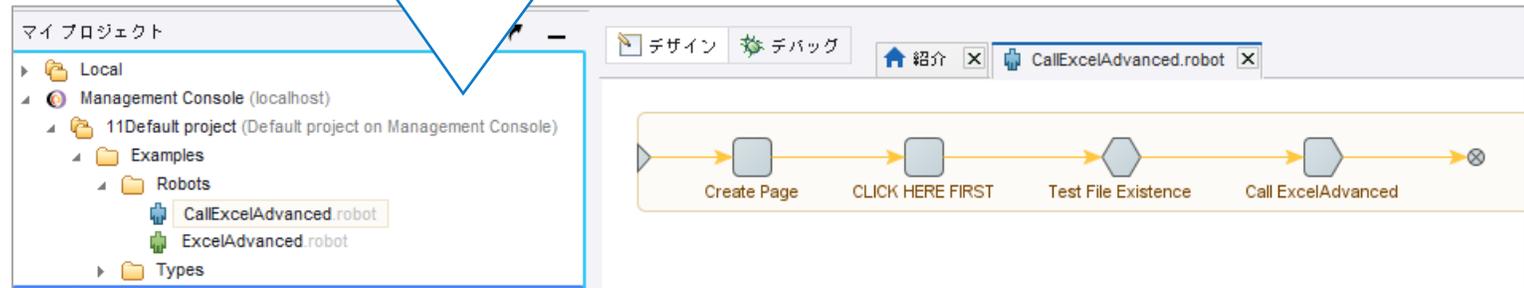
• 「Design Studioで開く」を押下すると、Management Console上のファイルと同期確認のポップアップが表示されます。

[はい]（同期する）を選択すると、Design Studioでファイルを編集、保存した場合にManagement Console上のファイルも変更、保存されます。

• [Design Studio設定]>[一般]タブに「URL経由で開いたリモートファイルを同期」の項目が追加されました。URLで開いたファイルをManagement Console上のファイルと同期するかどうかを指定できます。



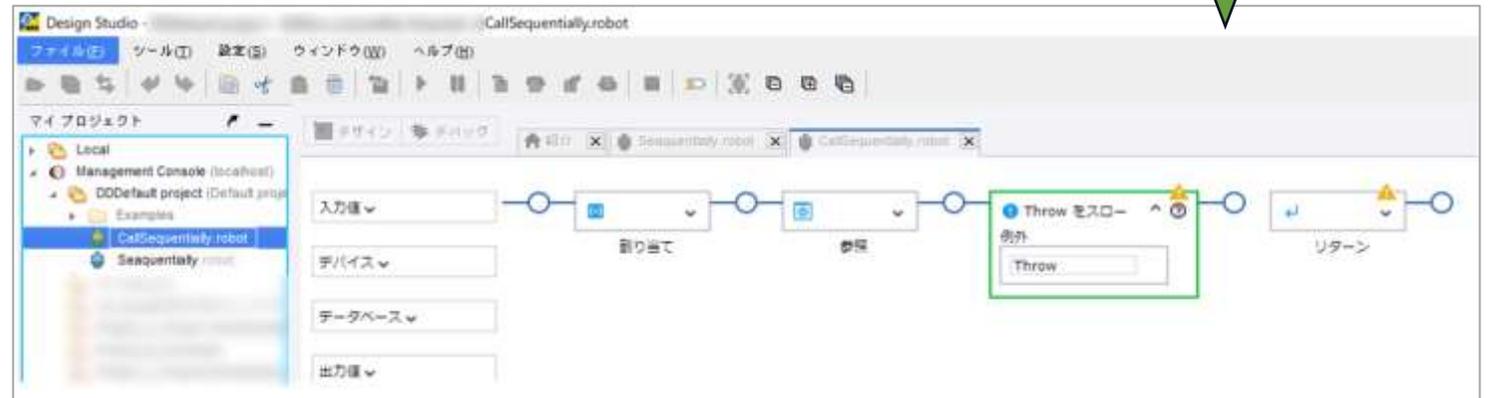
Management Console上のファイルと同期した状態でファイルが開かれます



10.ロボットファイルをURLで開く機能(2/3)

• Management Consoleのエラーログからエラー箇所を Design Studioで開けるようになりました。

• [ログビュー]>[ロボットメッセージ]タブのエラーログのロケーションコードを押下すると、ロボットファイルがManagement Consoleからダウンロードされ、Design Studioで開かれます。

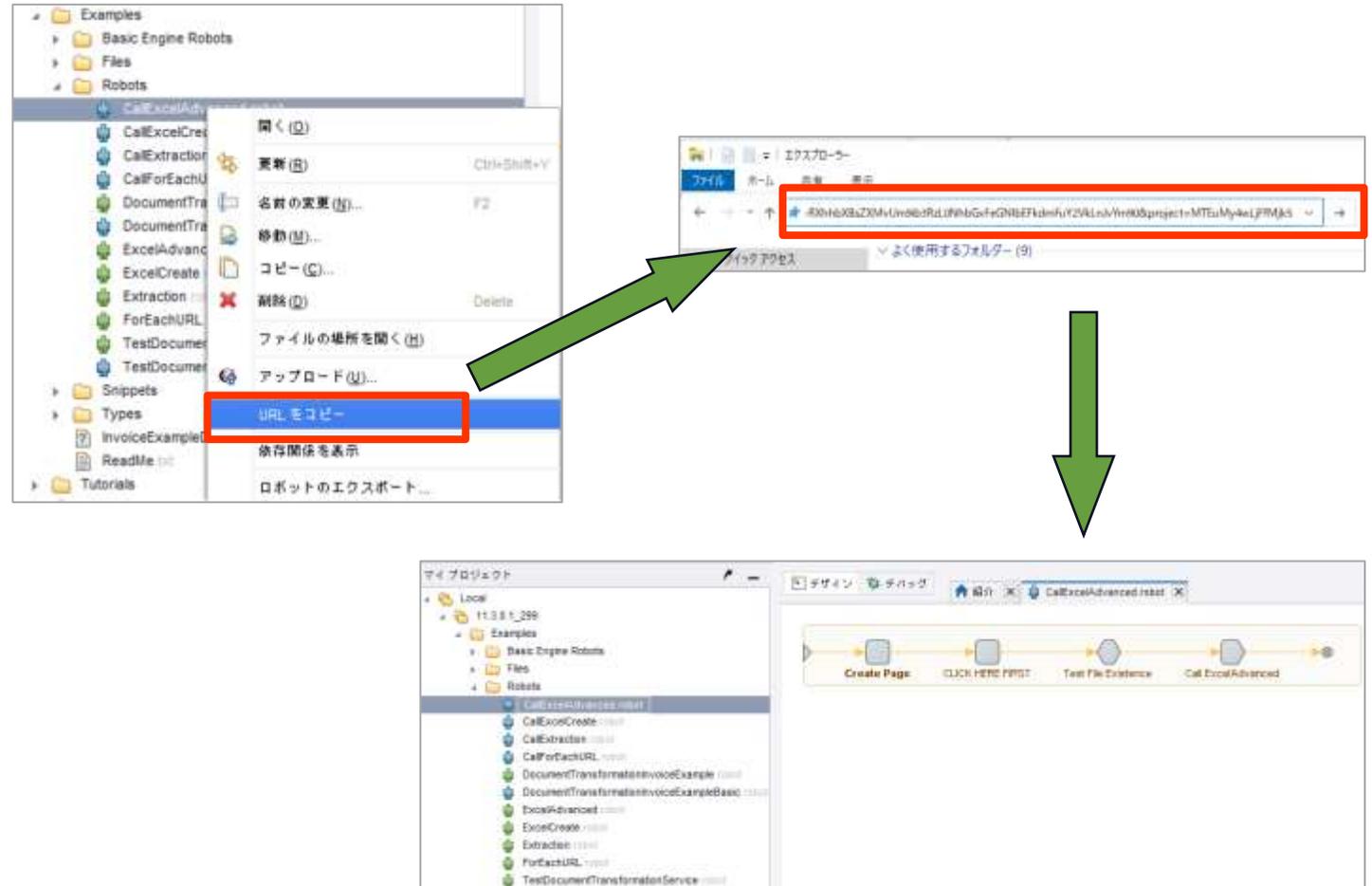


10.ロボットファイルをURLで開く機能(3/3)

• Design Studioで開発中のロボット、タイプ、スニペットファイルをURLを経由して開けるようになりました。

• エクスプローラー、Webブラウザ(Chrome、Edge)で Design Studioから取得したURLを指定して直接各ファイルにアクセスできます。

• ローカルファイルをURLを経由して開くためには、プロジェクトが Design Studioで開かれている必要があります。



11.データベースマッピングをDAロボットへ渡す機能(1/2)

•v11.1以前はベーシックエンジンロボットでデータベースステップが使用できませんでしたが、v11.3よりデータベースマッピングをDAロボットに渡し、DAロボットで各データベースステップを使用できるようになりました。

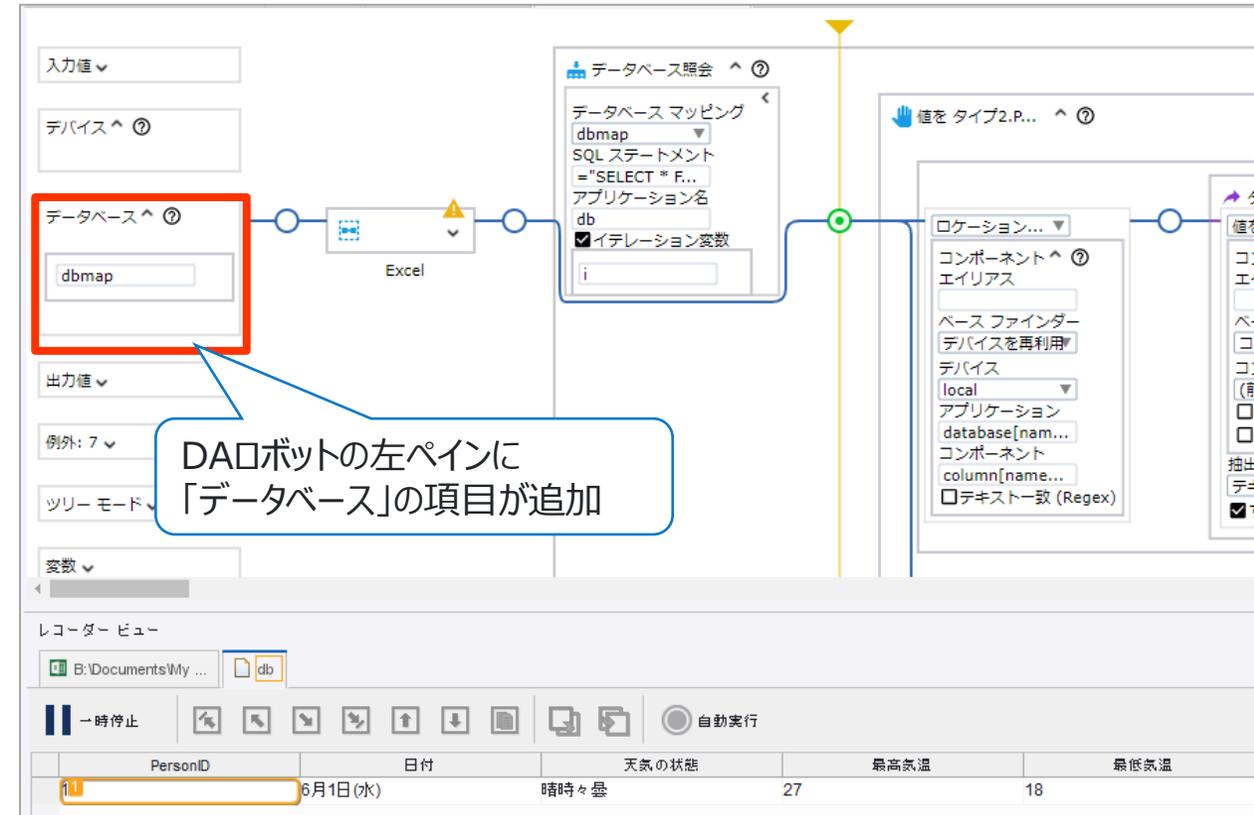
•「ロボットを呼び出す」ステップにデータベースマッピングの項目が追加されました。

データベースマッピングを指定してDAロボットに渡し、DAロボットで各データベースステップを使用できます。

The screenshot displays a workflow diagram on the left and a configuration panel on the right. The workflow diagram shows a sequence of steps: a green box labeled '1' with 'For Each Tag Path' below it, followed by a green box labeled 'Extract 日付', and then a blue box labeled 'Call DBをExcelへDA'. The configuration panel is titled 'ロボットを呼び出す' and contains several fields: 'ロボット:' with a dropdown menu showing 'DBをExcelへDA', '入力値:' with a text box containing 'スキーマ' and 'table', '出力マッピング:', and '必要なデバイス:'. At the bottom of the panel, a field labeled 'データベース マッピング:' contains the value 'dbmap', which is highlighted with a red rectangular box. A blue callout bubble points to this field with the text: 「ロボットを呼び出す」ステップに「データベースマッピング」の項目が追加

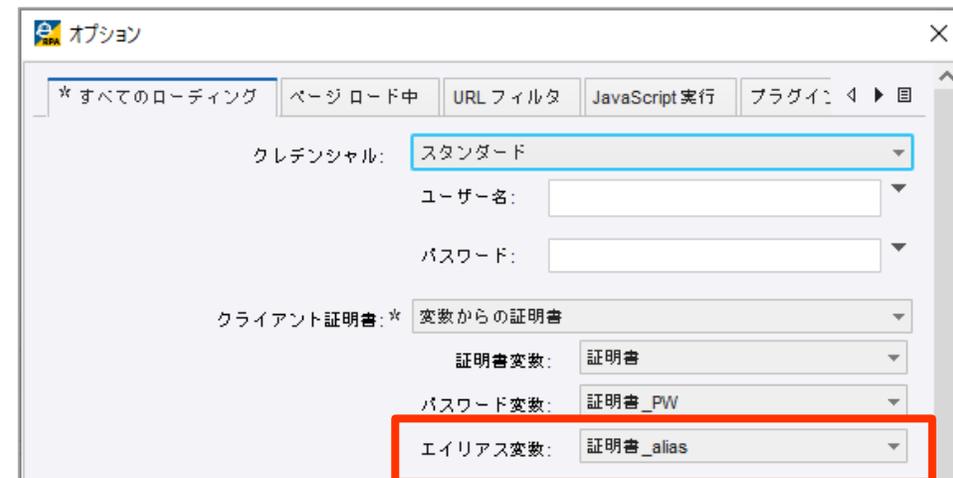
11. データベースマッピングをDAロボットへ渡す機能(2/2)

- DAロボットにも左ペインに「データベース」の項目が追加されました。
DAロボット内で指定したデータベースマッピングへの入力として使用されます。
- ベーシックエンジンロボット側で設定したデータベースマッピングとは別名で設定できます。
- 2つのデータベーススキーマに対して同じ処理をする場合、ベーシックエンジンロボット側のデータベースマッピングを変更すれば同じDAロボットを共通部品として使用できます。



12.クライアント証明書のエイリアス変数を追加する機能

- 証明書ファイルに複数の証明書が含まれている場合に使用するエイリアス証明書を選択できます。
- エイリアスが空欄の場合証明書は自動的に選択されます。

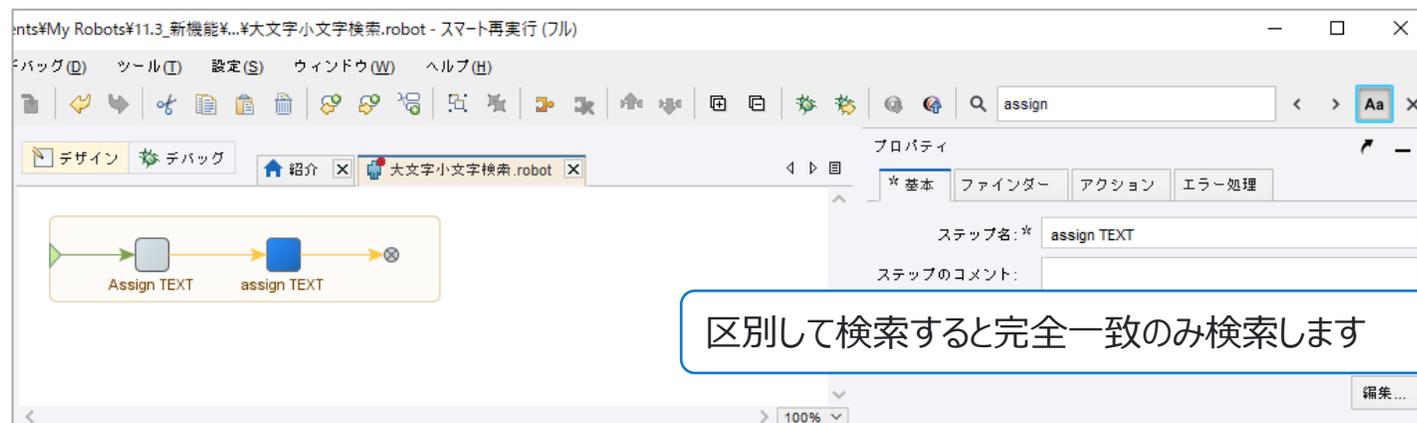
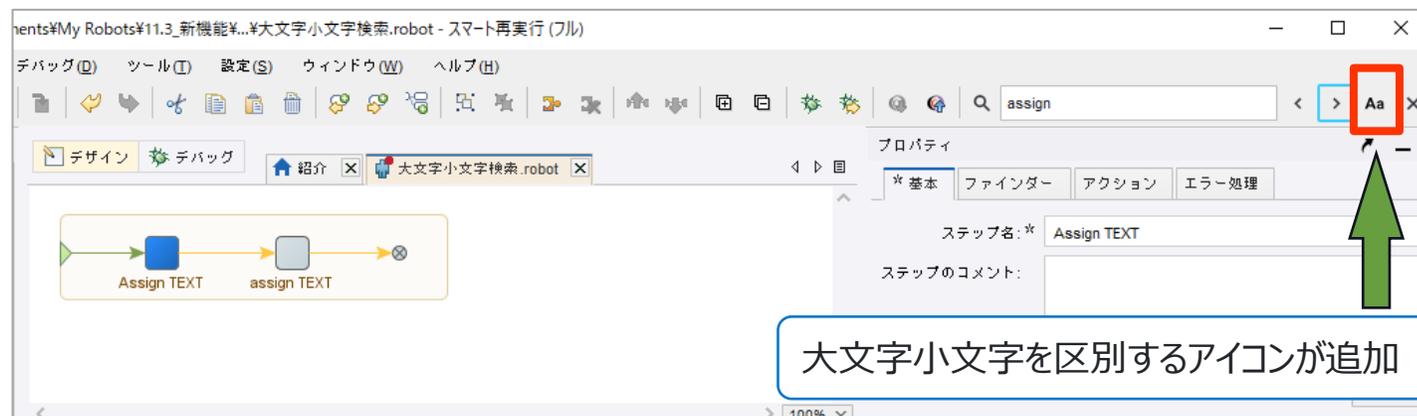


13.大文字と小文字を区別して検索する機能

•ベーシックエンジンロボットの検索画面に大文字と小文字を区別して検索を実行する機能が追加されました。

•「Aa」アイコンを押下すると、大文字と小文字は区別して検索され、検索文字列と完全一致した文字列のみ表示します。

•デフォルトは区別せずに検索します。



Design Studioロボット(DAロボット)

11.3.0.2の新機能 Design Studio(DAロボット)

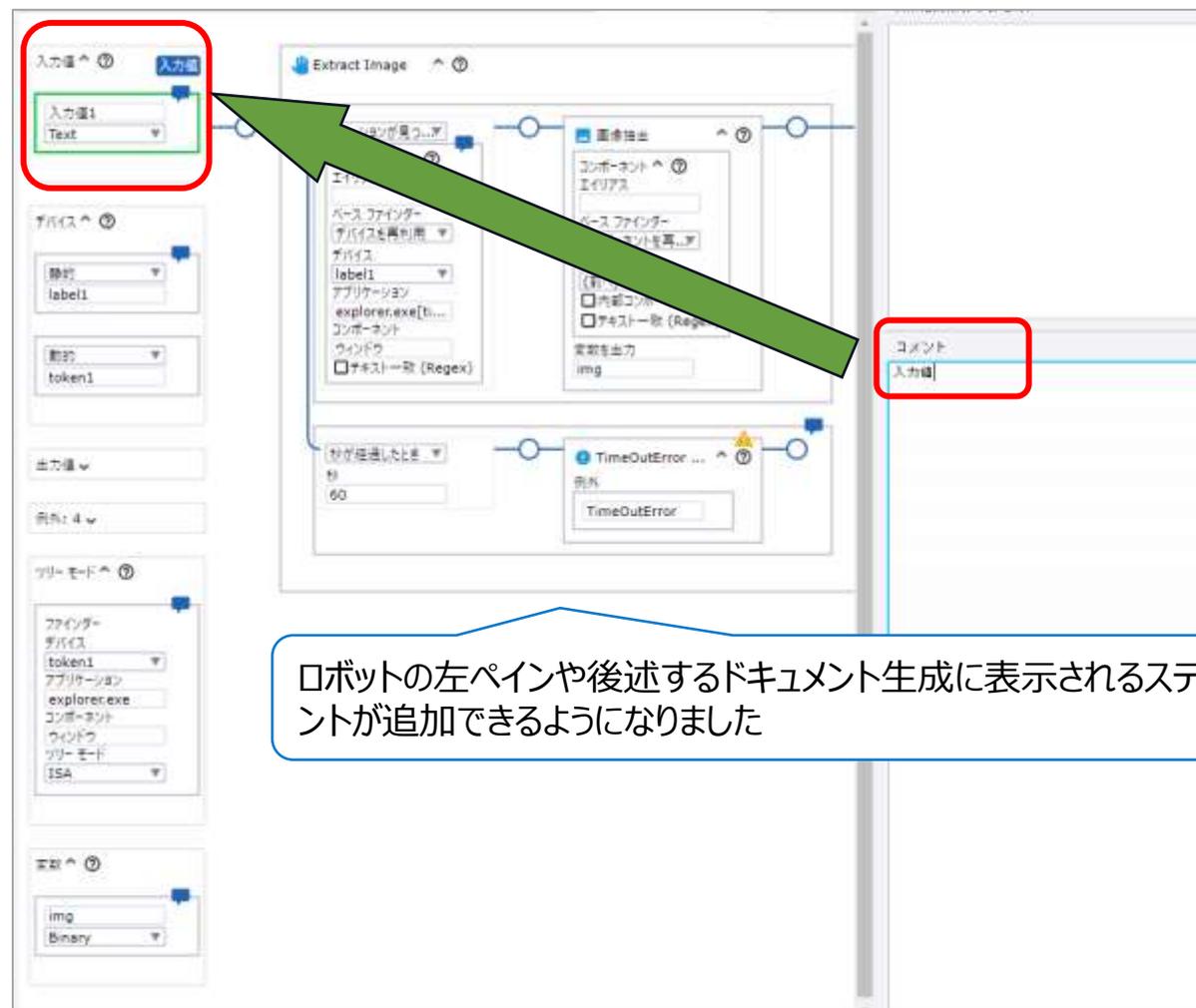
1. ロボットのステップにコメントを残す機能
2. ステップの場所に移動する機能
3. ステップや設定に追加されたヘルプリンク
4. 実行せずに参照ステップを追加する機能
5. DAロボットの検索機能が強化されました
6. 要素の使用量を確認する機能
7. 「PDF」ステップの機能強化
8. 「画像の抽出」ステップの機能強化
9. ファインダーの機能強化
10. 「クラウドAI」ステップ
11. 「電子メール」ステップ
12. 組み込みChromiumの改善
13. Built in Excelの改善
14. 参照ステップの追加機能
15. 新しいパスワード機能
16. ファイルシステムアクションステップ
17. DAロボットで変数型（DateTime、Date、Time）の追加
18. DAロボットでデータベースを操作するステップ
19. 行を抽出するステップ
20. ロボットエディタのコンテキストメニューの改善
21. クリックステップの変更
22. DAS設定：端末起動時にスクリーンロック機能を追加

1. ロボットのステップにコメントを残す機能

• v11.1ではロボットのステップ、グループにコメントをポップアップ表示できました。

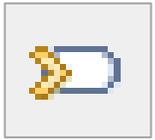
• v11.3よりロボットの左ペインの入力値、デバイス、ツリーモード、変数やステップ内のファインダー、条件分岐にもコメントが追加でき、より視認性が高まりました。

• 後述するManagement Consoleのロボットドキュメントを生成する機能でもステップのコメントが反映されます。



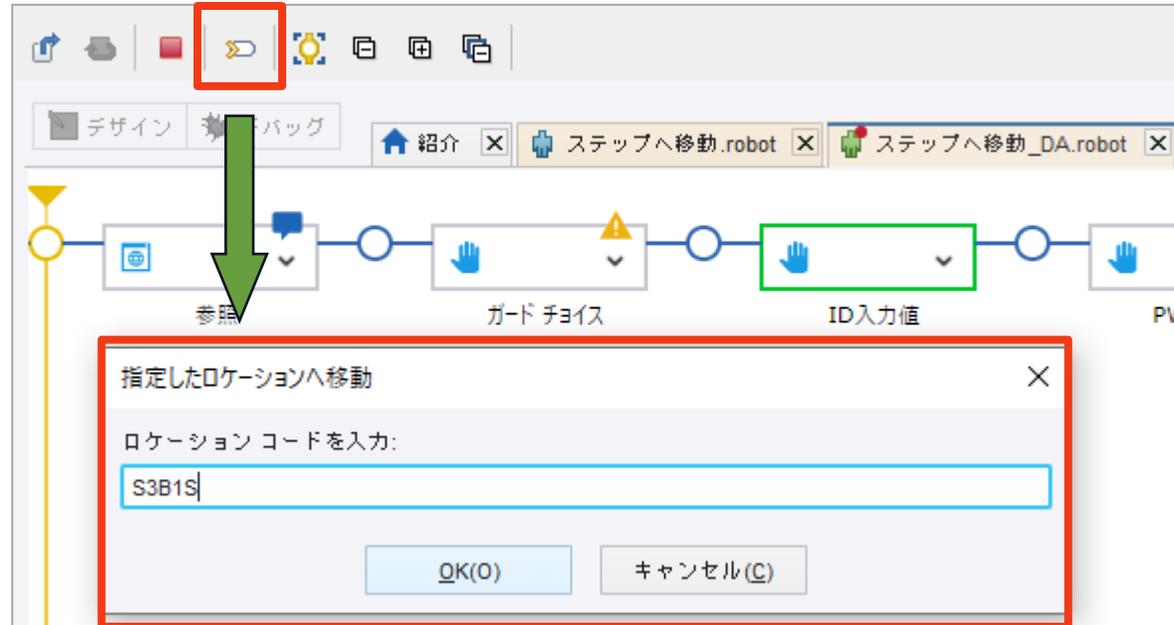
2.ステップの場所へ移動する機能(1/4)

・DAロボットエディターに新しいボタンが追加され、指定したロケーションへ移動するダイアログボックスが開き、ステップ位置コードを貼り付け、ステップに直接移動できます。



・デバック実行のエラーログ、MCの実行ログからDAロボットのエラー箇所を容易に特定できます。

・v11.1まではベーシックエンジンロボット内でロケーションを指定して移動できましたが、v11.3よりDAロボットでもロケーションを指定して移動できるようになりました。



デバック実行のエラーログ

ステップへ移動 **DA:S2B1S**

[-a3

DAロボットの
ロケーションコード

2.ステップの場所へ移動する機能(2/4)

・使用方法としては、DAロボットエディターで新しく追加されたアイコンもしくは「Ctrl+G」を押下して、指定したロケーションへ移動するダイアログボックスを開きます。



・ダイアログボックスで、ステップ位置コード、DAロボットのエラーログを貼り付け、ステップに直接移動できます。

・ステップを選択して「Ctrl+G」を押下すると、ステップ位置コードが表示されます。

指定したロケーションへ移動

ロケーションコードを入力:
S3

OK(O) キャンセル(C)

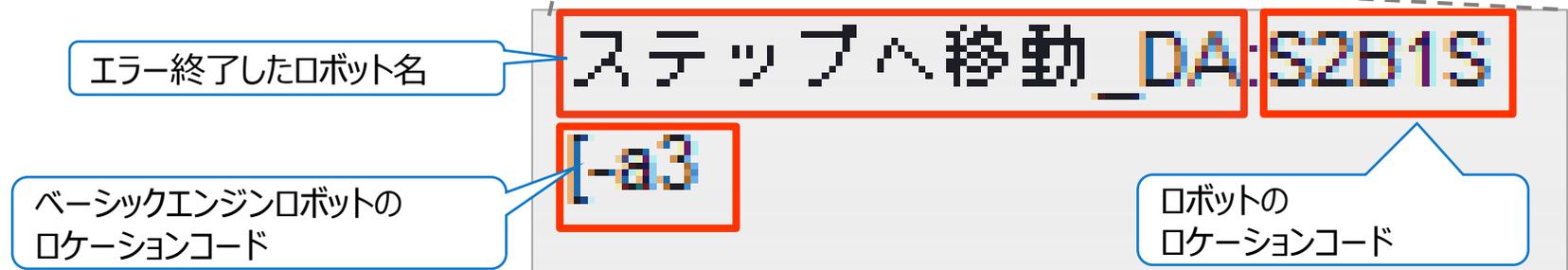
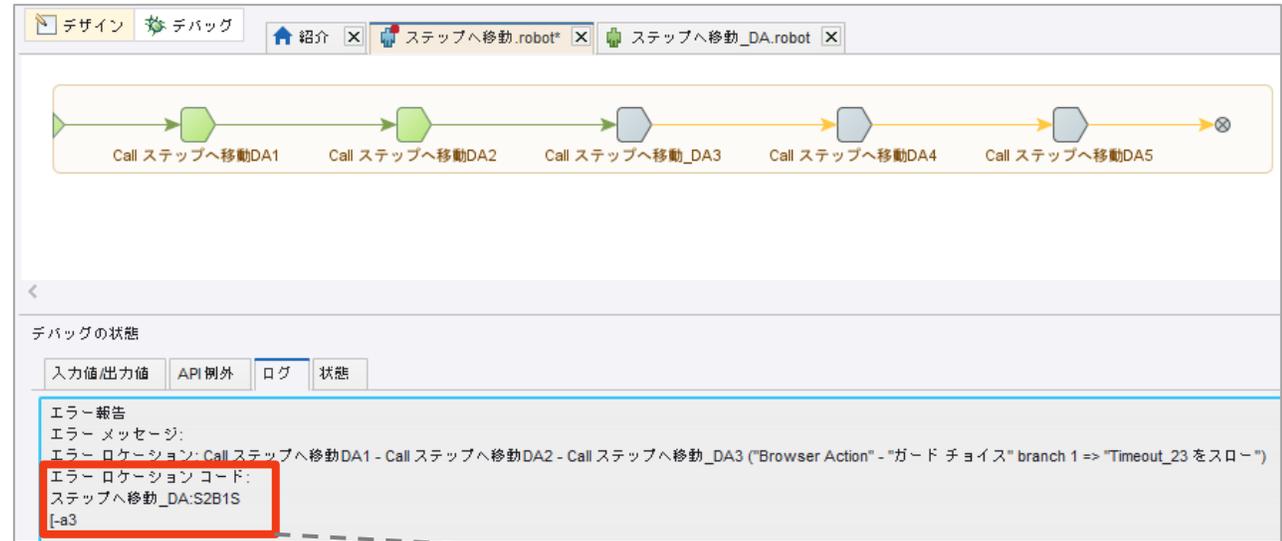
3ステップ目を指定します

3ステップ目に移動します

2.ステップの場所に移動する機能(3/4)

• DAロボットを含むベーシックエンジンロボットのデバック実行時のエラー箇所の特定が容易になりました。

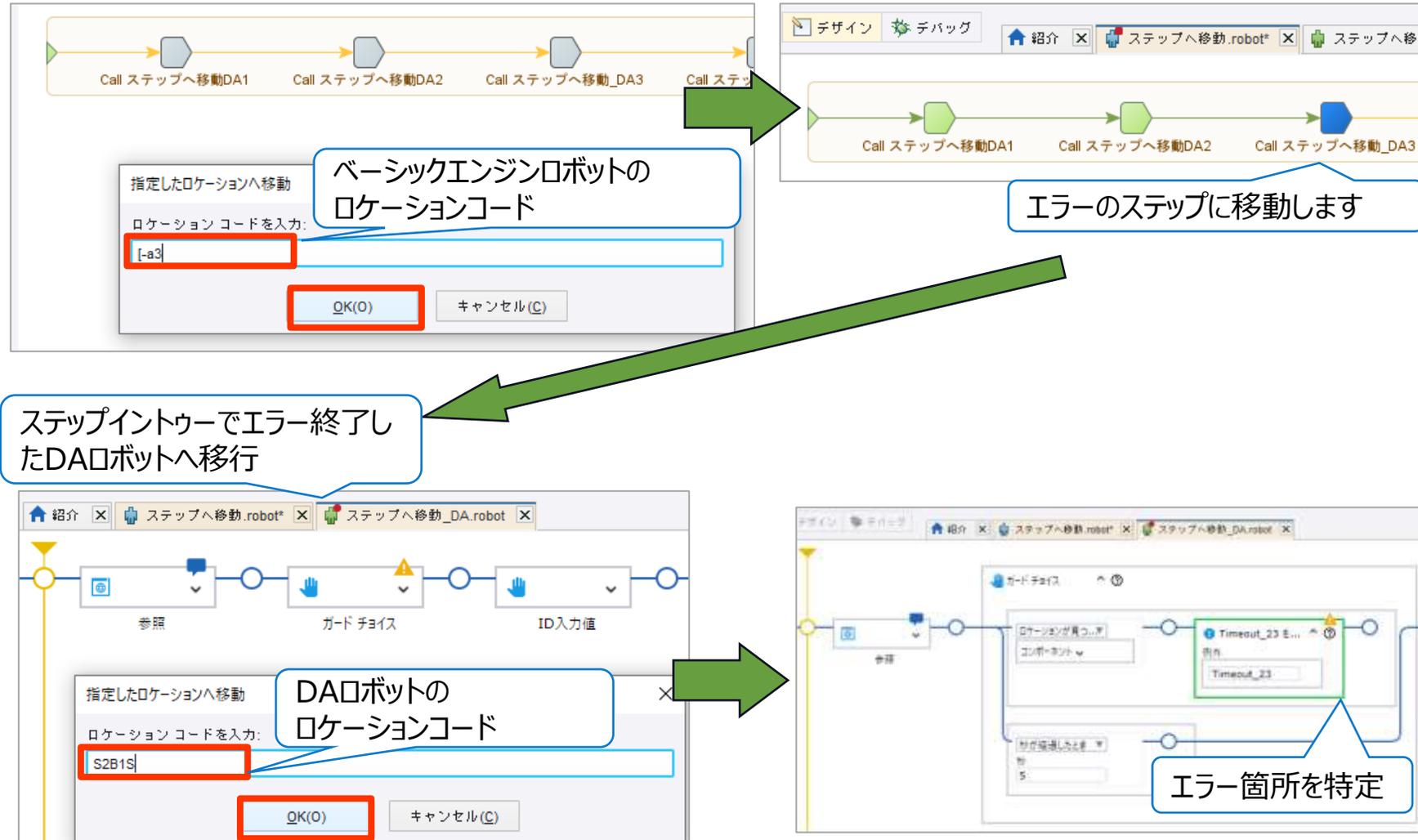
• デバック実行でのエラーログ（デバックの状態>ログタブ>エラーロケーションコード）からエラーになったロボット名、ロボットのロケーションコードを特定します。



2.ステップの場所に移動する機能(4/4)

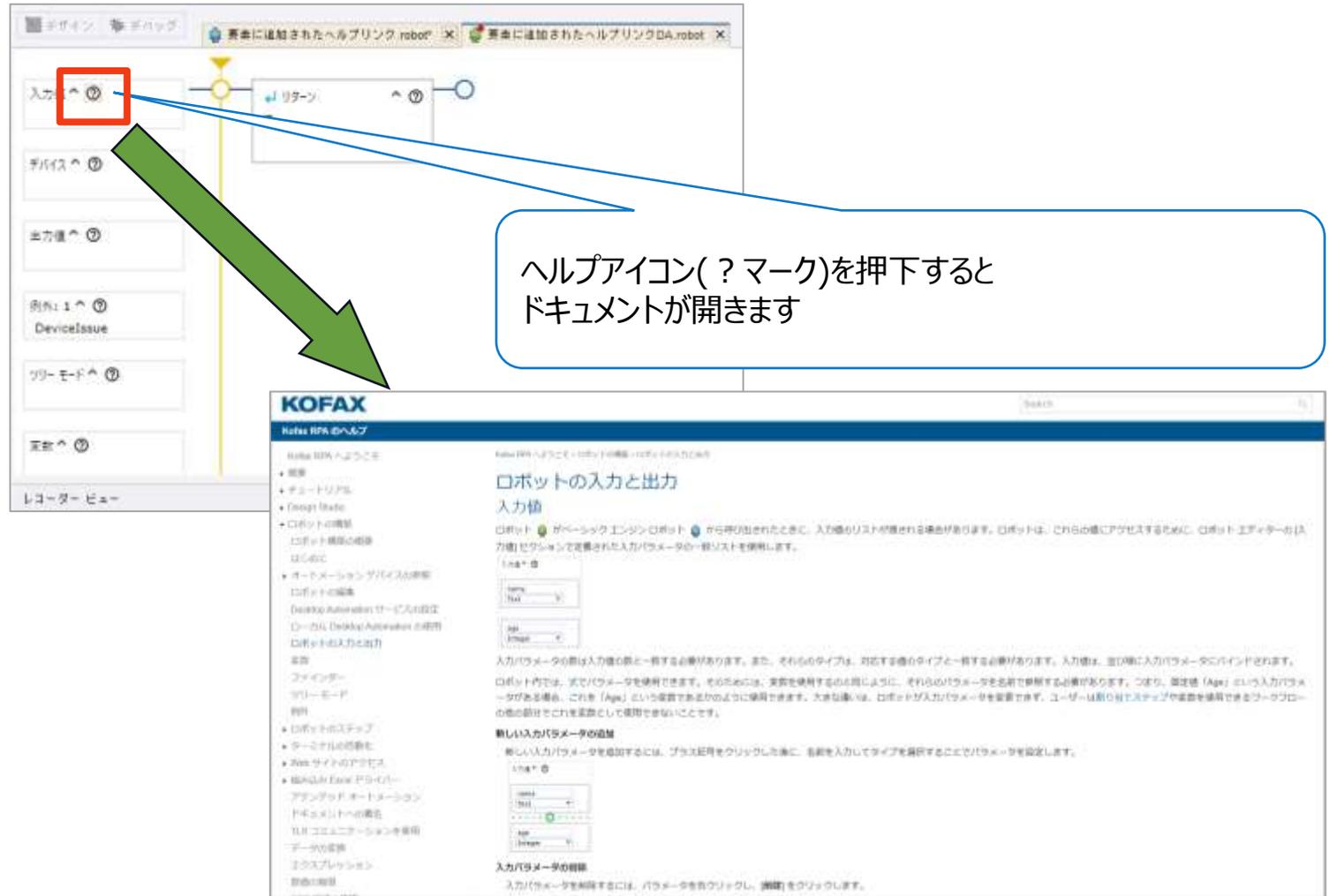
・デザインモードに変更し、「Ctrl+G」または[編集>ステップを移動>指定したロケーションへ移動]を押下して、[指定したロケーションへ移動]のダイアログボックスにベーシックエンジンロボットのロケーションコードを入力しエラーステップへ移動します。

・[ステップイントゥー]でDAロボットに移動し、「Ctrl+G」または追加されたアイコンで[指定したロケーションへ移動]にロボットのロケーションコードを入力し、エラー箇所を特定します。



3.ステップや設定に追加されたヘルプリンク

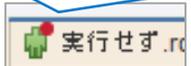
- ステップや設定など、DAロボットのさまざまな要素に、ヘルプアイコンが含まれるようになりました。
- ヘルプアイコンを押下するとドキュメントが開きます。



4.実行せずに参照ステップを追加する機能

- ・ベーシックエンジンロボットから[ステップイントゥー]でDAロボットに移動せずに「参照」ステップが挿入できるようになりました。
(実行するにはベーシックエンジンロボットから[ステップイントゥー]が必要)

DAロボットが実行可能な
実行ステータスの赤丸

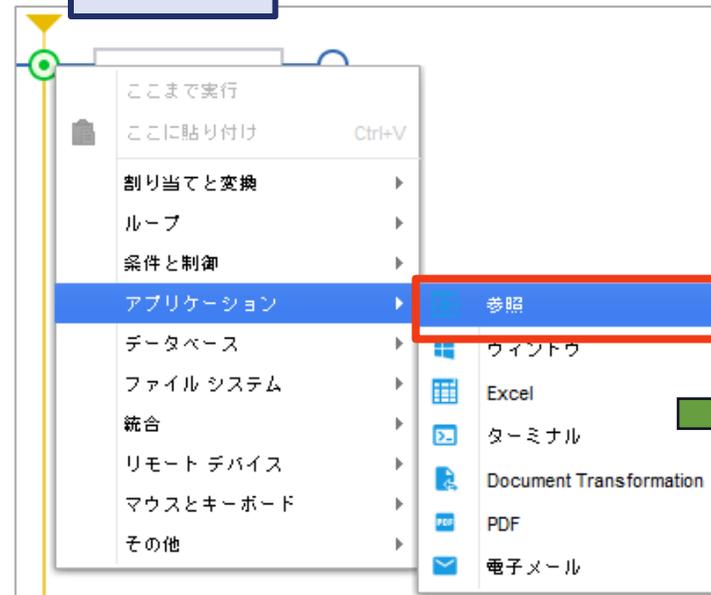


実行ステータスの
赤丸がない状態で追加すると項目の
入力ができない

v11.1



v11.3



実行ステータスの赤丸がない状態でも
「参照」ステップが追加可能
(DAロボットを実行するためには
ステップイントゥーが必要)



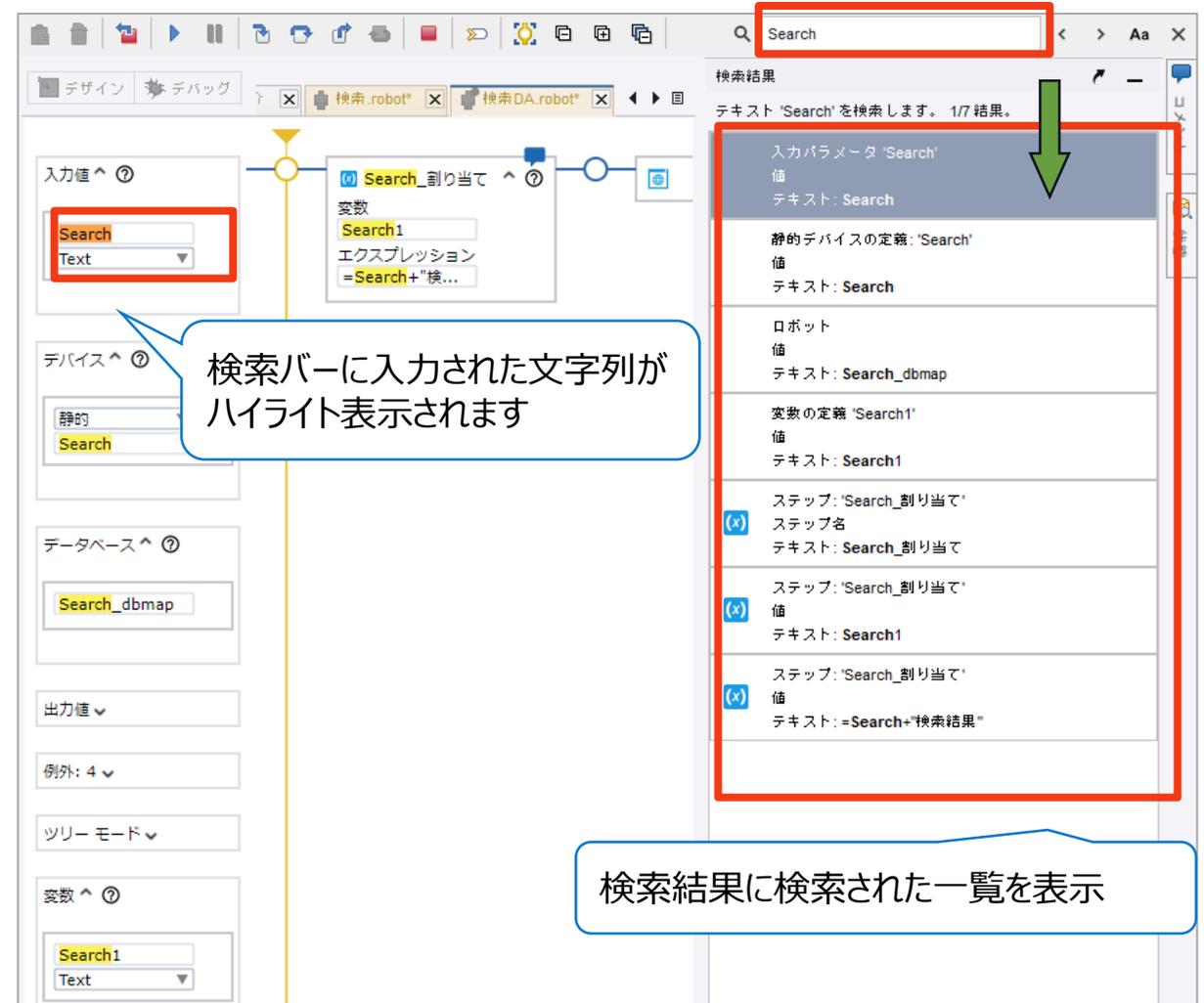
5.DAロボットの検索機能が強化されました(1/3)

• DAロボットのテキスト検索では、キーワードで検索すると一括で変数、ステップ名、デバイスのラベル、コメント等のテキストがすべて検索され、構築、ナビゲート、修正が容易になります。

• 同様のプロセスで既存DAロボットを再構築する際、変更箇所の特定が簡単にできます。

• すべての検索結果は黄色でハイライト表示され現在の結果はオレンジ色でハイライト表示されます。

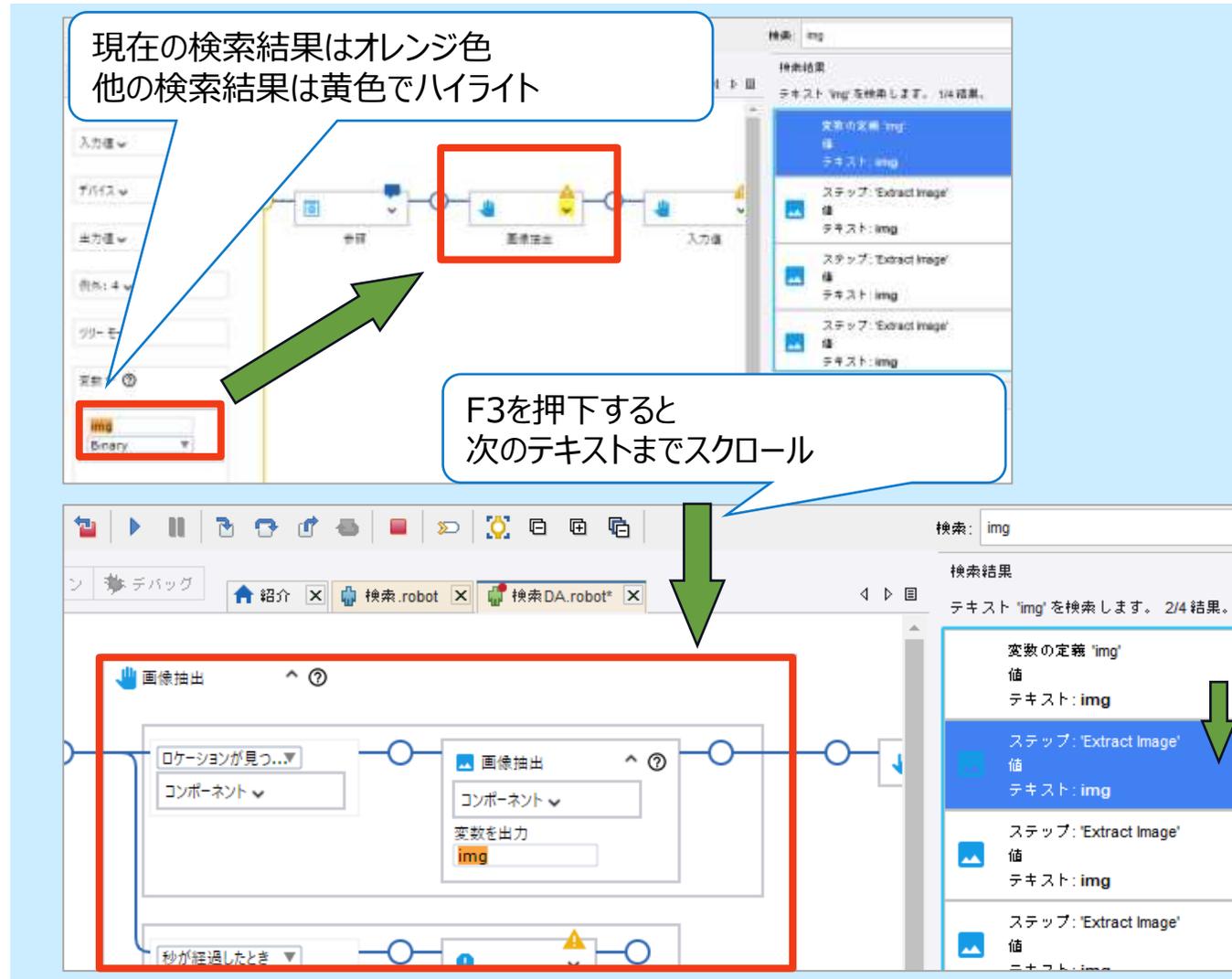
• 検出されたテキストをロボットグラフに表示できない場合は、この結果を含むコンポーネントの展開ボタンがハイライト表示されます。



5.DAロボットの検索機能が強化されました(2/3)

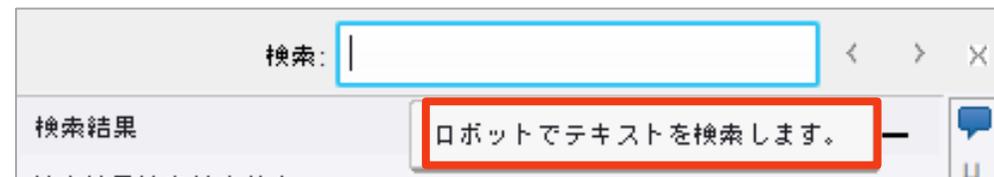
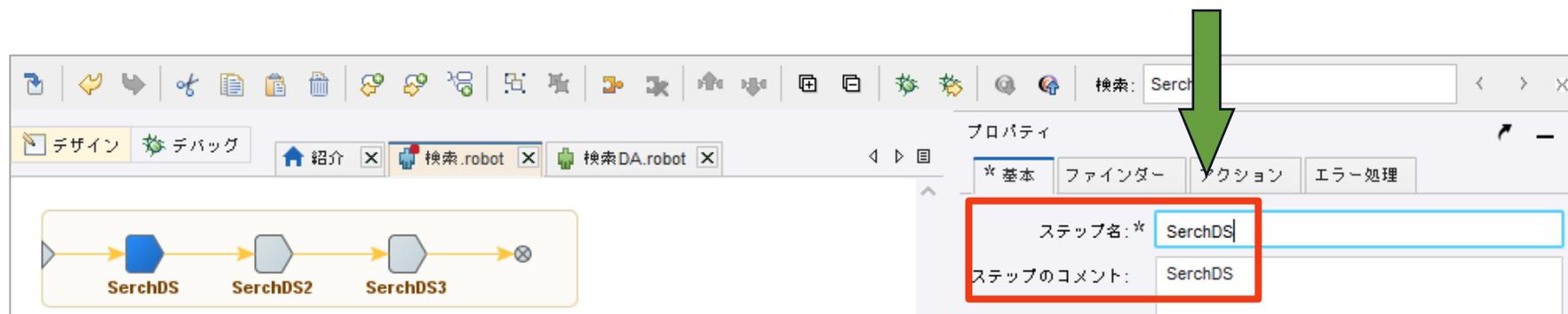
・「F3」キーで次の検索結果へ移動します。検索結果一覧から表示させたい結果を押下することで、指定したテキストまでスクロールします。

・DAロボットを変更すると検索が更新され、現在の検索結果がハイライト表示ではなくなります。更新後に「F3」キーを押下することで、再びハイライト表示されます。



5.DAロボットの検索機能が強化されました(3/3)

・ベーシックエンジンロボットではステップ名、アクション名、ステップのコメントが検索対象になりますが、DAロボットではすべてのテキストを検索します。



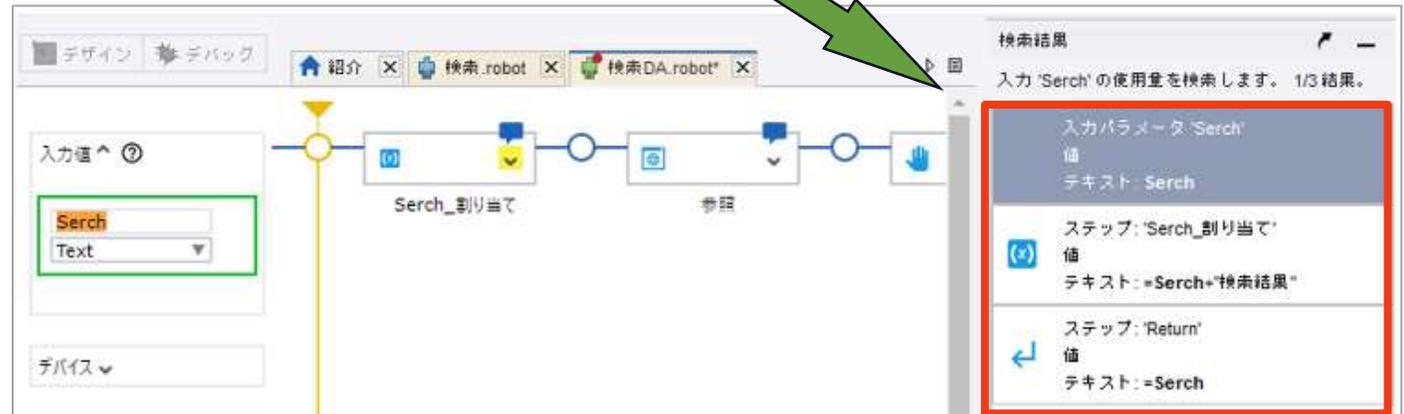
6.要素の使用量を確認する機能

・DAロボットの入力値、デバイス、変数、および例外について、「使用量の検索」の検索機能を使用して、それらが使用されている場所、個数を検索できます。

(デバイスの「使用量の検索」を使用すると、デバイスとして指定している箇所のみ、検索結果に表示されます)

・使用方法としては、検索したいボックス(右図では入力値)を右クリック> [使用量の検索]を押下すると検索結果に使用されている場所、個数を表示します。

・この機能はテキスト検索と似ていますが、[検索結果]パネルのリストに、特定の要素のインスタンスのみが表示される点が異なります。

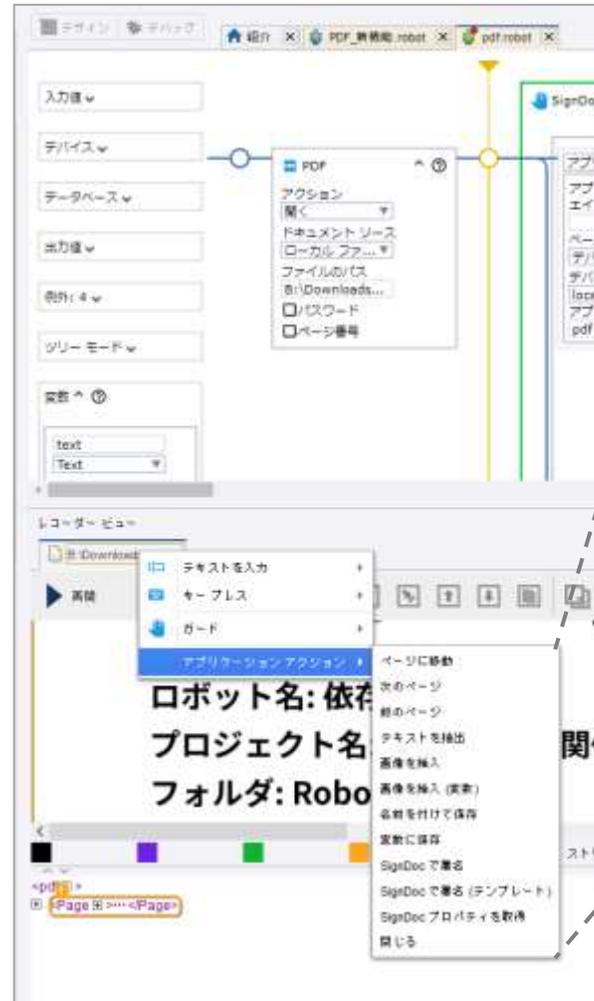


7.「PDF」ステップの機能強化

・「PDF」ステップの機能が強化されました。

・文書に署名する※、画像挿入、変更されたPDFドキュメントを保存する機能が追加されました。

※Kofax社製品「SignDoc」に対応した機能



- ページに移動
- 次のページ
- 前のページ
- テキストを抽出
- 画像を挿入
- 画像を挿入(変数)
- 名前を付けて保存
- 変数に保存
- SignDocで署名
- SignDocで署名(テンプレート)
- SignDocプロパティを取得
- 閉じる

ステップに追加された機能

8.「画像の抽出」ステップの機能強化

・DAロボットによって開かれた任意のアプリケーションで「画像の抽出」ステップを使用できます。

ファインダー機能強化については、
次項「9.ファインダーの機能強化」をご参照ください。



ファインダー機能強化により詳細なテキスト検索を実行できます。

9.ファインダーの機能強化(1/5)

・v11.1で[テキスト一致]に正規表現が使用できるようになりましたが、v11.3では指定したコンポーネントでより詳細なテキスト検索を実行できます。

①子孫のないテキスト

選択した1つのノード要素内のテキストを検索します。
ネストされた要素または子孫要素は無視されます。

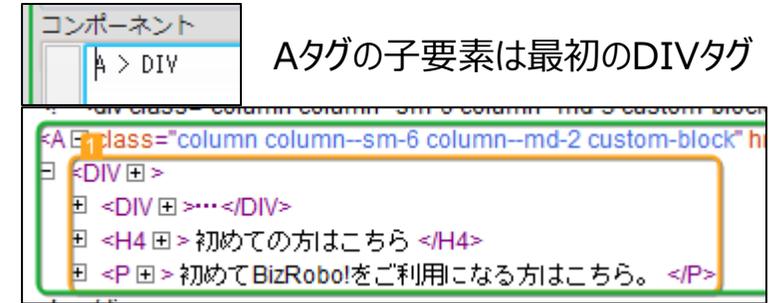
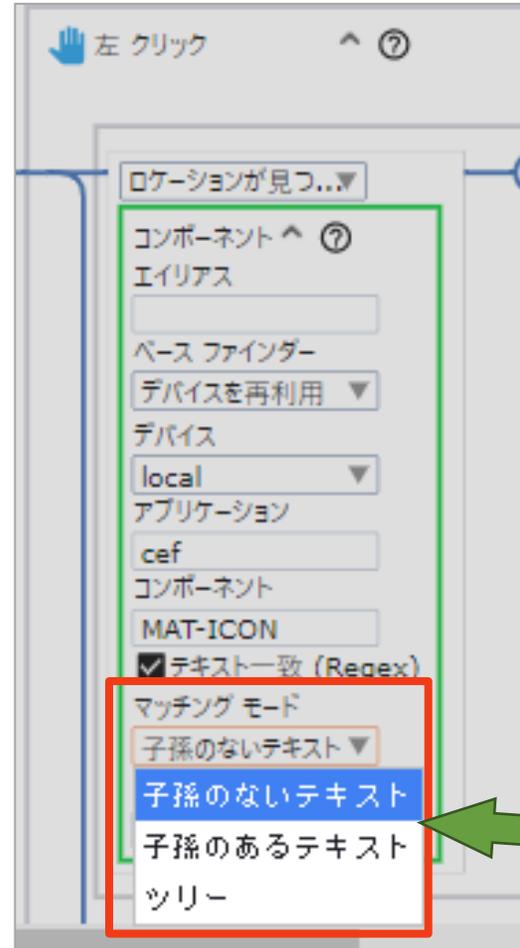
②子孫のあるテキスト

選択したノードとそのすべての子孫要素(すべてネストされた要素)でテキストを検索します。

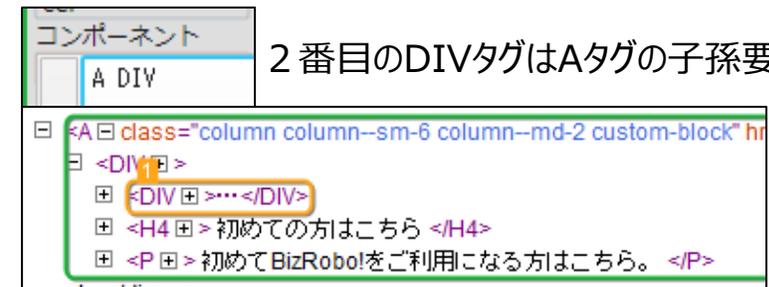
③ツリー

アプリケーションツリーをXMLに変換し、タグと属性を含む選択したノードで全文検索を実行します。

※ 子要素は対象要素の直下の要素になります。子孫要素はネストされた要素を含む対象要素の配下に含まれるすべての要素です。子要素は子孫要素に含まれています。



Aタグの子要素は最初のDIVタグ



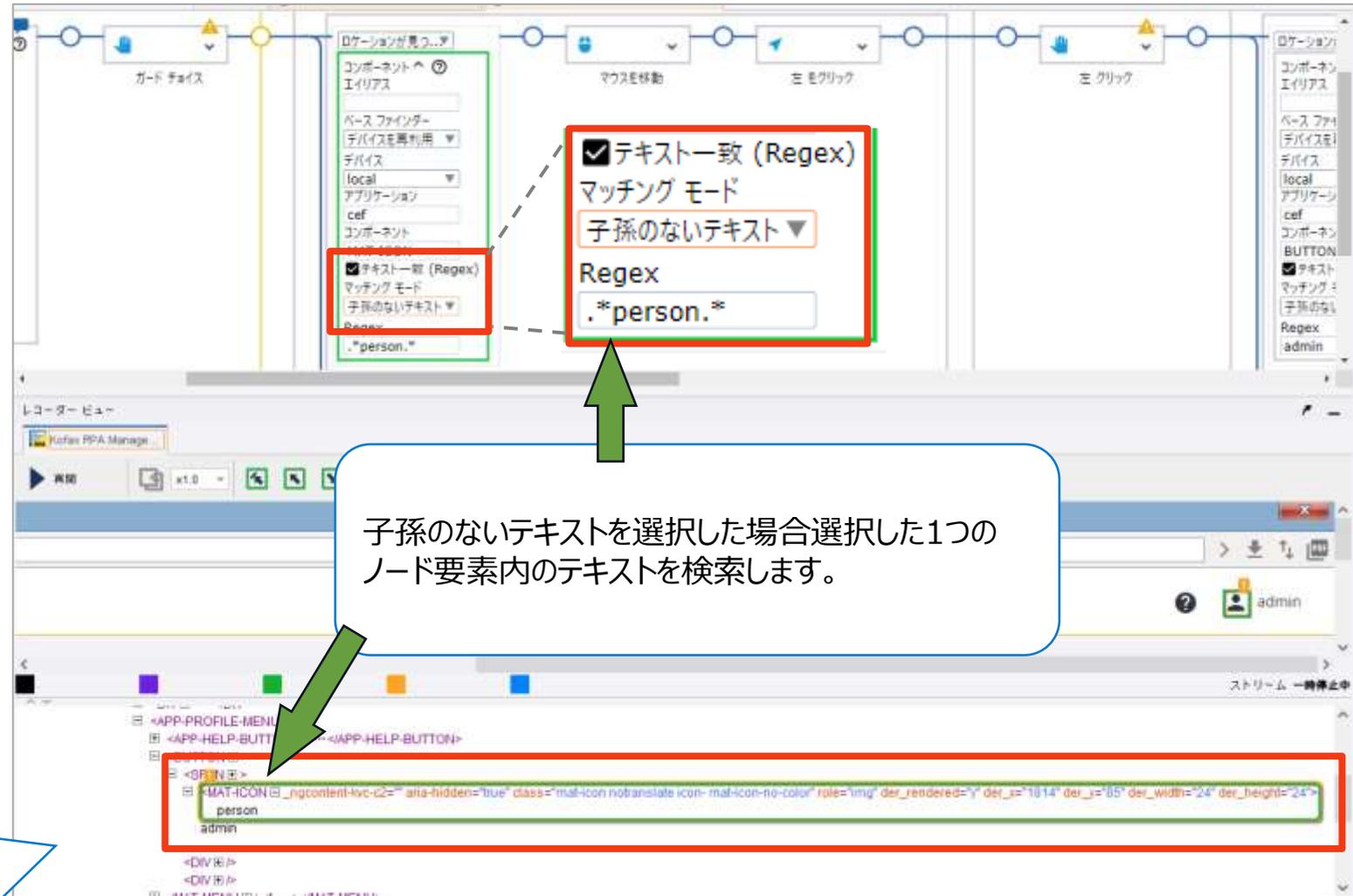
2番目のDIVタグはAタグの子孫要素

ファインダー機能強化により詳細なテキスト検索を実行できます。

9.ファインダーの機能強化(2/5)

・子孫のないテキスト：選択した1つのノード要素内のテキストを検索します。ネストされた要素または子孫要素は無視されます。

(既存機能)



コンポーネント：「MAT-ICON」
マッチングモード：子孫のないテキスト

「MAT-ICON」が複数ある場合、
テキスト"person"を指定することで特定可能

9. ファインダーの機能強化(3/5)

・子孫のあるテキスト：選択したノードとそのすべての子孫要素でテキストを検索します。

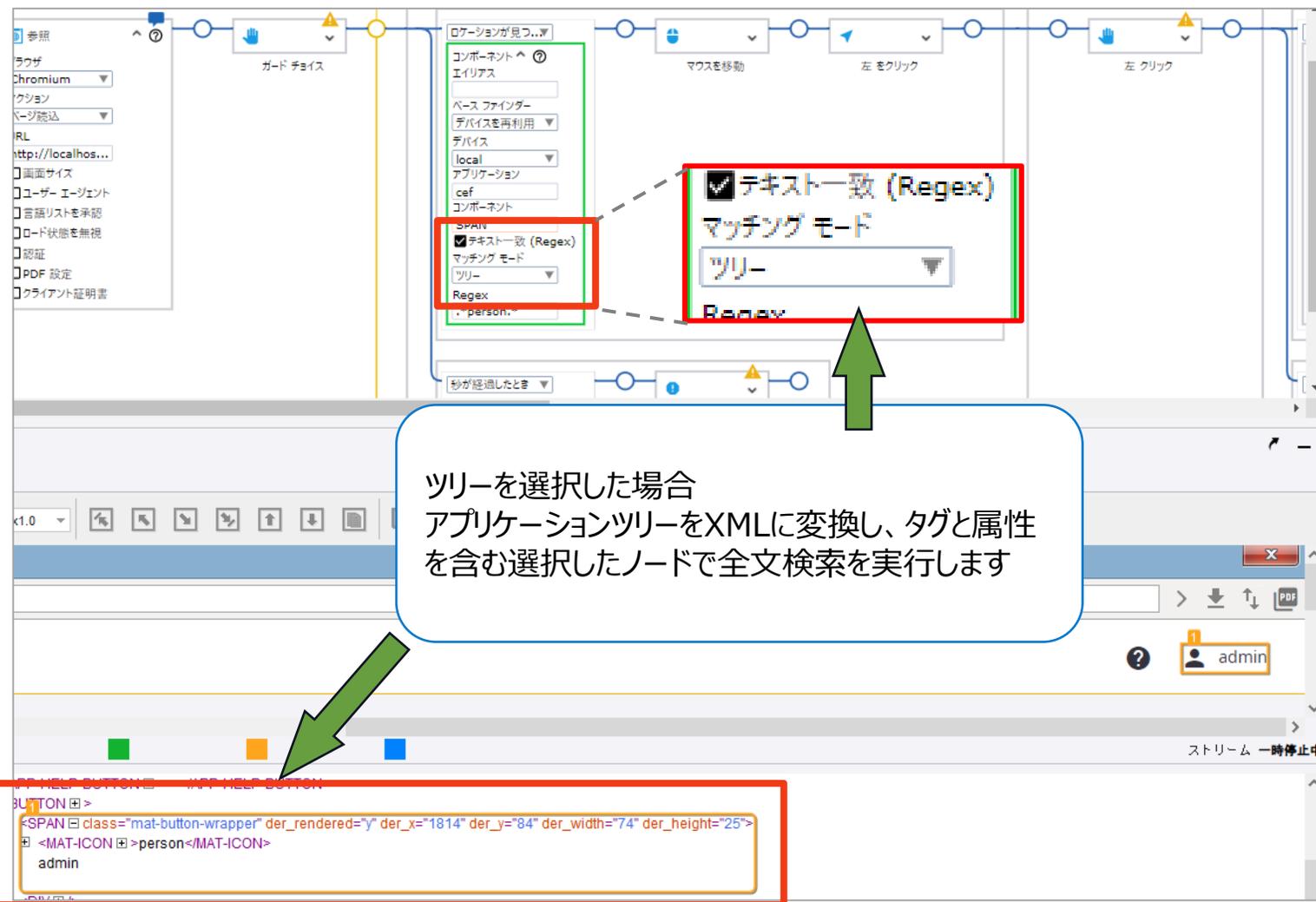
子孫のあるテキストを選択した場合選択したノードとそのすべての子孫要素でテキストを検索します

コンポーネント：「SPAN」
マッチングモード：子孫のあるテキスト

「SPAN (テキスト"admin")」が複数ある場合、子孫要素「MAT-ICON」のテキスト"person"で特定できるようになります

9. ファインダーの機能強化(4/5)

・ツリー：アプリケーションツリーをXMLに変換し、タグと属性を含む選択したノードで全文検索を実行します。



9.ファインダーの機能強化(5/5)

・ファジー画像検索

指定した画像の類似した画像を設定できるようになりました。

閾値：設定した画像との差異を設定します。

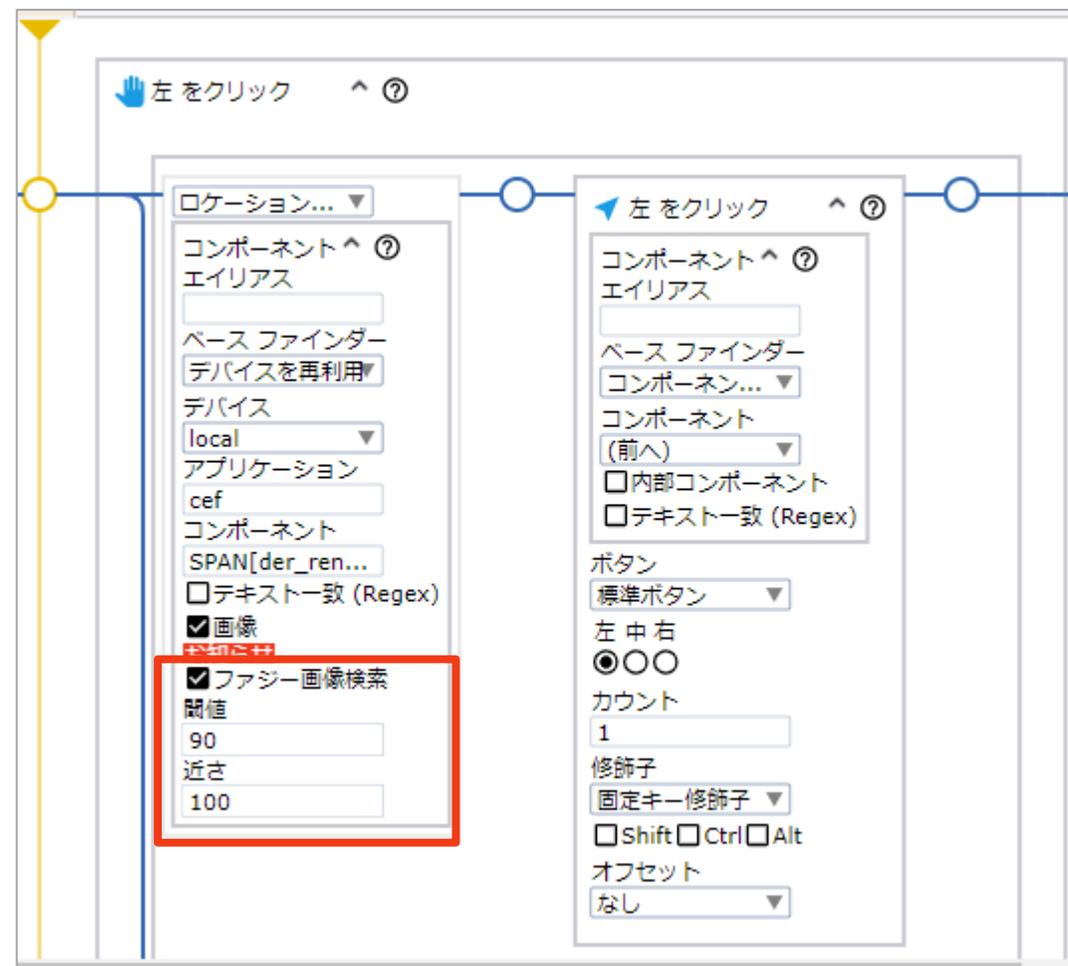
完全一致が100、類似画像は99以下のファインダーで
取得できる数値を指定します。

近さ：一致する複数の画像を許容するパーセンテージを指定します。

100の場合は設定した2つの領域が重複することはありません。

0の場合、設定した画像一致する2つの領域がほぼ完全に重複するようになります。

推奨値は100で基本的に編集する必要はありません。



10.「クラウドAI」ステップ(1/5)

・「クラウドAI」ステップを使用してAWS、Microsoft Azure、およびGoogle Cloudという3つのクラウドサービスプロバイダのAI機能にアクセスできます。

クラウド AI

データ タイプ
テキスト

ソース テキスト
=PDFTXT

プロバイダ
Google Cloud

API キー
=ps

アクション
翻訳

ターゲット言語
ja

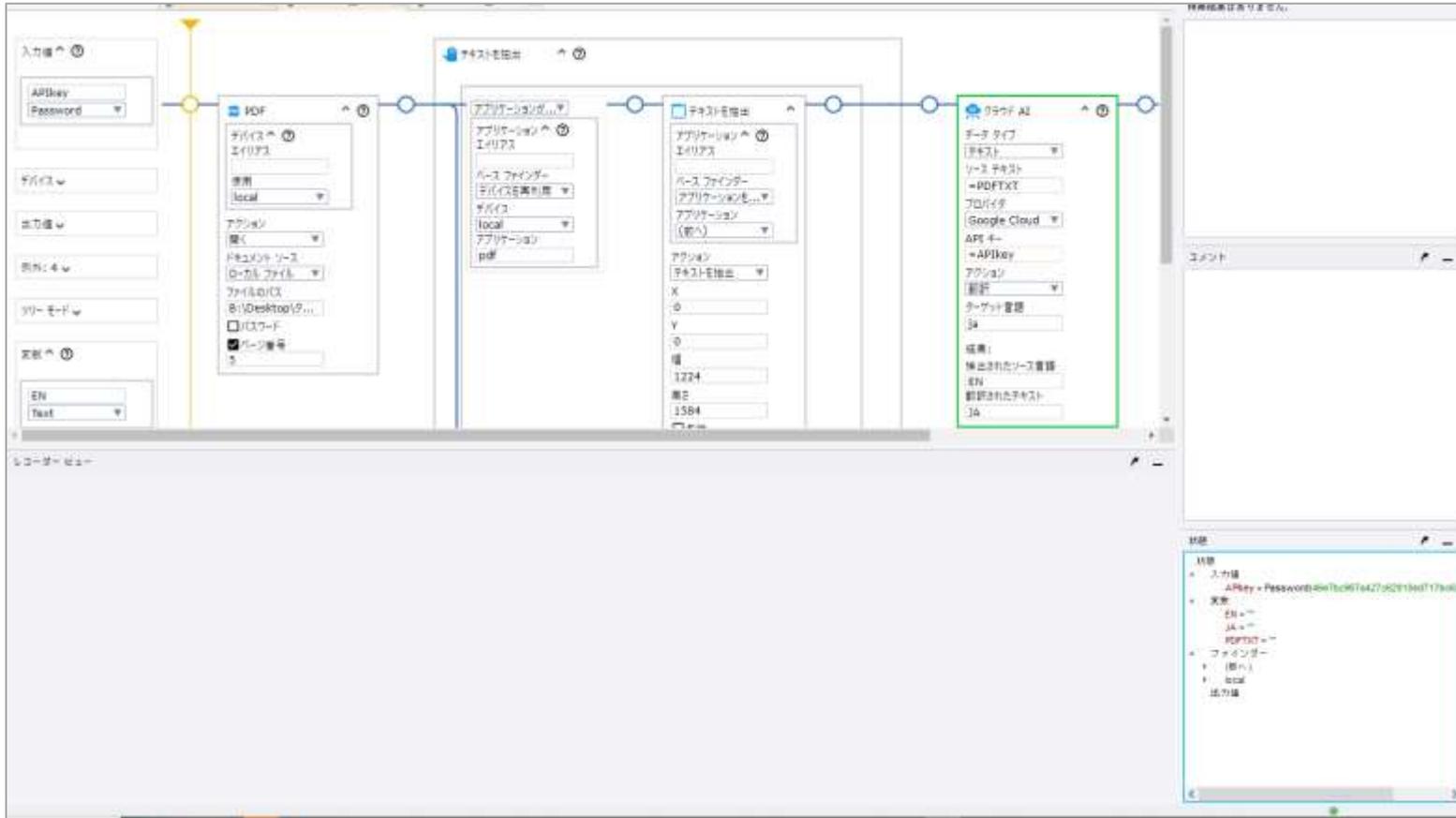
結果:
検出されたソース言語
EN
翻訳されたテキスト
JA

クラウドサービス	画像認識	テキスト翻訳
Amazon Web Service	Amazon Rekognition	Amazon Translate
Azure Cognitive Services	Computer Vision (画像の分析のみ)	Translatorサービス
Google Cloud	Cloud Vision API	Cloud Translation

10.「クラウドAI」ステップ(2/5)

・例としてGoogle CloudのTranslation APIを使用して、PDF内の英文を日本語に変換します。

- ①DevelopersGuide_EN.pdfの5枚目を開く。
- ②テキストを抽出して変数(PDFTEXT)に格納する。
- ③「クラウドAI」ステップで翻訳して日本語訳を変数(JA)に格納する。
- ④リターンステップでDesign Studioに日本語訳の変数(JA)を渡す。



10.「クラウドAI」ステップ(3/5)

① DevelopersGuide_EN.pdfの5枚目を開く。

①PDFを読み込み5ページ目を開く

The screenshot displays the RoboServer workflow editor. The workflow consists of several steps: '入力値' (Input Values), 'PDF', 'アプリケーション' (Application), 'テキストを抽出' (Extract Text), and 'クラウド AI' (Cloud AI). The 'PDF' step is highlighted with a red box, and its configuration is shown in a pop-up window. The configuration includes: 'デバイス' (Device) set to 'local', 'アクション' (Action) set to '開く' (Open), 'ドキュメントソース' (Document Source) set to 'ローカルファイル' (Local File), 'ファイルのパス' (File Path) set to 'B:\Desktop\7...', and 'ページ番号' (Page Number) set to '5'. A green arrow points from the 'PDF' step to a PDF viewer window at the bottom of the screen. The viewer shows the 'Preface' page of a document, with the text: 'Robots are executed on RoboServer through an API (Java or .Net). You may use the API directly in your own application or indirectly when you execute robots using Management Console.' The viewer also shows 'Page 5 of 5' at the bottom.

10.「クラウドAI」ステップ(4/5)

②テキストを抽出して変数(PDFTEXT)に格納する。

②テキストを抽出して変数(PDFTEXT)に格納する

The screenshot displays a workflow automation interface. A red box highlights the 'Text Extraction' step, which is configured with 'pdf' as the file type and 'local' as the storage location. A green arrow points from this step to the 'Cloud AI' step, which is also highlighted with a red box. The 'Cloud AI' step is configured with 'Google Cloud' as the provider and 'PDFTEXT' as the output variable. The 'Cloud AI' step is also highlighted with a red box, and its output is shown in a preview window. The preview window displays the text extracted from the PDF, which is the 'Preface' section of a document. The text is as follows:

```
Preface

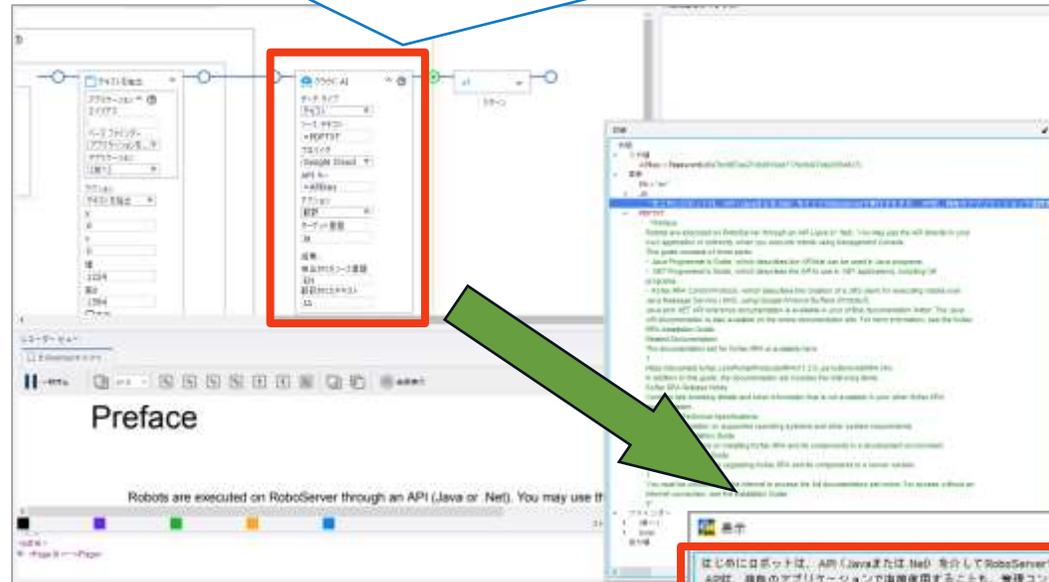
Robots are executed on RoboServer through an API (Java or .Net). You may use the
```

10.「クラウドAI」ステップ(5/5)

③「クラウドAI」ステップで翻訳して日本語訳を変数(JA)に格納する。

④リターンステップでDesign Studioに日本語訳の変数(JA)を渡す。

③「クラウドAI」ステップで翻訳して日本語訳を変数(JA)に格納する



④DSに変数(JA)を渡す



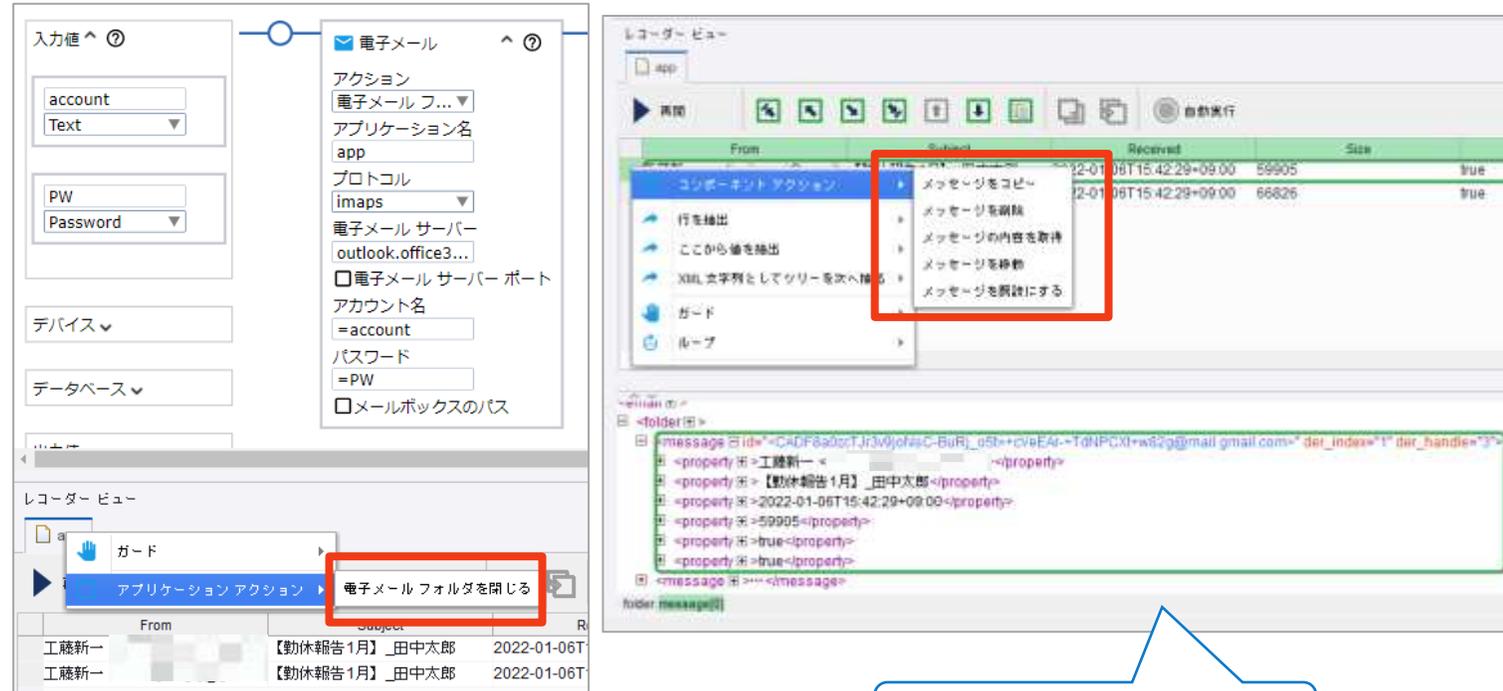
機能のより詳細な解説や活用事例などは動画で解説していますので、こちらも併せてご覧ください。

・『クラウドAI ステップ』

(Youtubeの『BizRobo! TV』チャンネル)

11.「電子メール」ステップ(1/3)

- ・「電子メール」ステップはEメールサーバー上のフォルダを開いてツリーに表示することにより、Eメールにアクセスできます。
- ・レコーダビューにはテーブルとして送信者、件名、受信済み、サイズ、添付ファイルあり、既読の情報が一覧で表示されます。「行を抽出」ステップで表示される情報をまとめてタイプファイルに格納できます。
- ・電子メールのコピー、削除、コンテンツの取得、移動ができます。(v11.1にリリースした「Extract from Email」ステップと併用することで、添付ファイルの取得も可能です。)
- ・受信トレイはアプリケーションツリーに表示されます。サブフォルダは表示されませんが、アプリケーションアクションで個別に開くことができます。
- ・ツリーには、メッセージごとに、受信者と「cc」のアドレスおよび送信者が一覧表示されます。



アプリケーション アクション

コンポーネント アクション

11.「電子メール」ステップ(2/3)

・電子メールステップを実行すると読み込みが完了するまでキャンセルができません。

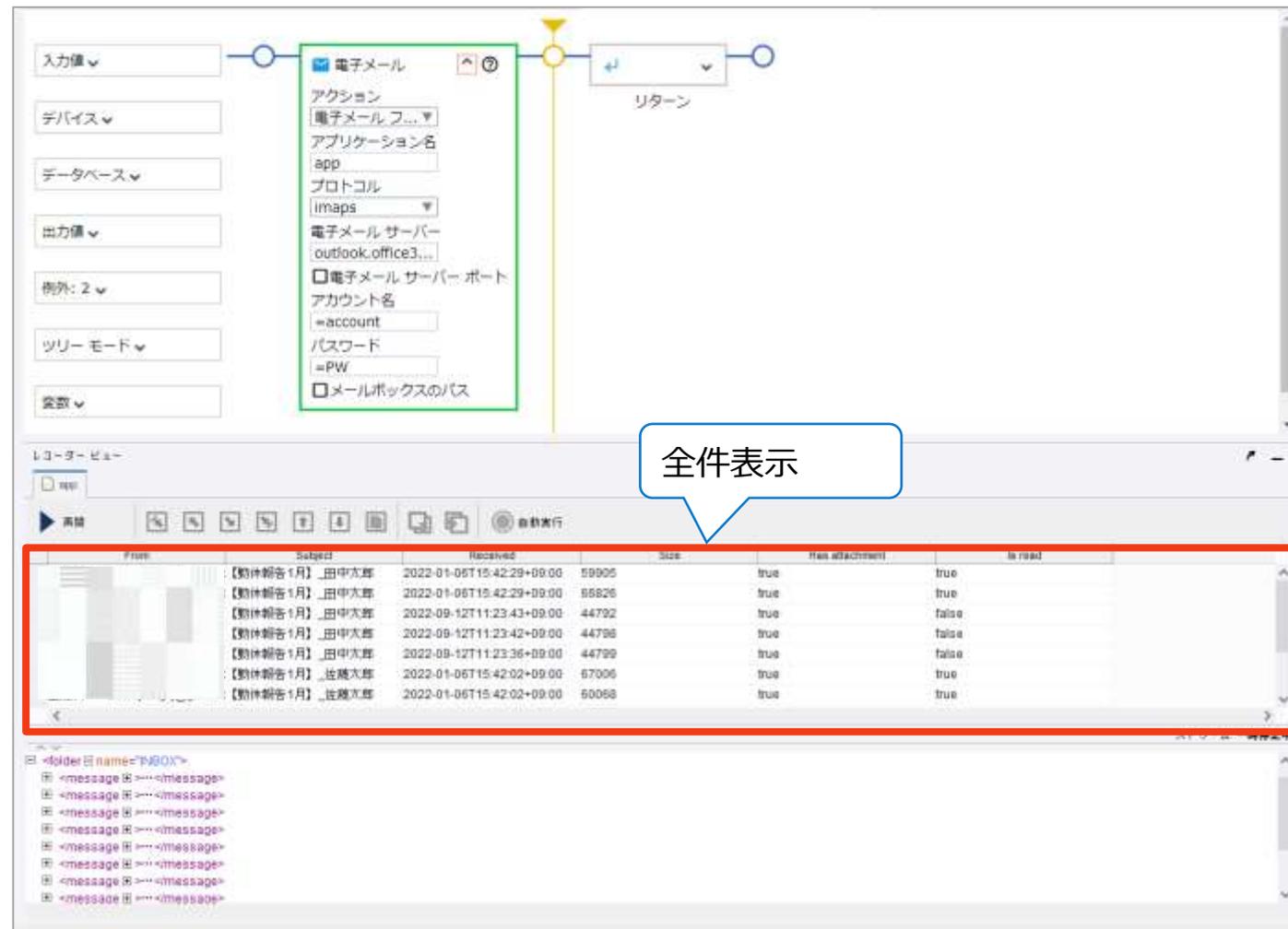
対象フォルダのデータ量を考慮してご利用ください。

アクセス対象の受信トレイに格納されるメール数によって、「電子メール」ステップでのアクセス(レコーダービューに全件表示まで)所要時間は以下になります。

・すべてのメールは同じように設定されています：

メールサイズ：107KB

添付ファイル有無：有



メール数	所要時間 (秒)
100	9
500	27
1000	77

11.「電子メール」ステップ(3/3)

・DAロボットで取得したText変数をDesign Studioに出力して「Extract from Email」ステップでロードすることでメッセージを取得できます。

The screenshot displays a workflow in Design Studio with the following steps: Call 電子メールステップDA, Extract from Email, カレントウィンドウ設定, Extract D Small, and Convert Variables. Below the workflow, an application window titled 'アプリケーション' shows an email interface. The email header includes:

- Date: Tue, 22 Jun 2021 22:30:47 -0500 (CDT)
- From: RPAテクノロジーズ株式会社 カスタマーインスパイア事業部
- To: [Redacted]
- Message-ID: [Redacted]
- Subject: 【いよいよ明日開催！】BizRobo!CAMP!!AWARD2021

The email body contains the following text:

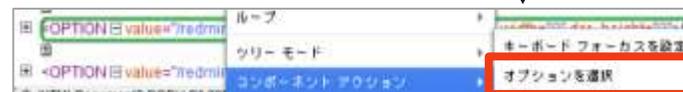
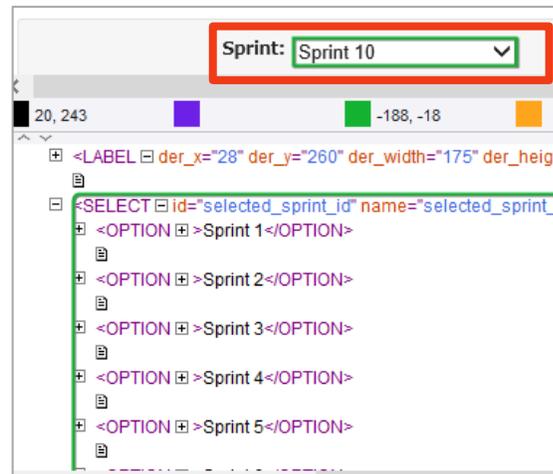
満足度93%超えのBizRobo!CAMP!!の表彰イベント
BizRobo!CAMP!!AWARD2021 明日開催!!

The body also features the RPA TECHNOLOGIES logo and a large graphic with the text: 満足度93%超えのBizRobo!CAMP!!の表彰イベント

12.組み込みChromiumの改善(1/5)

・Chromiumでブラウザを開いた場合、メニューから単一のオプションまたは複数のオプションを選択できるようになりました。

「オプション」とは、HTML文の<select>タグ内で使用し、メニューの選択肢を作成する要素です。



ドロップダウンのオプションを
右クリック>コンポーネントアクション
>オプションを選択を押下します

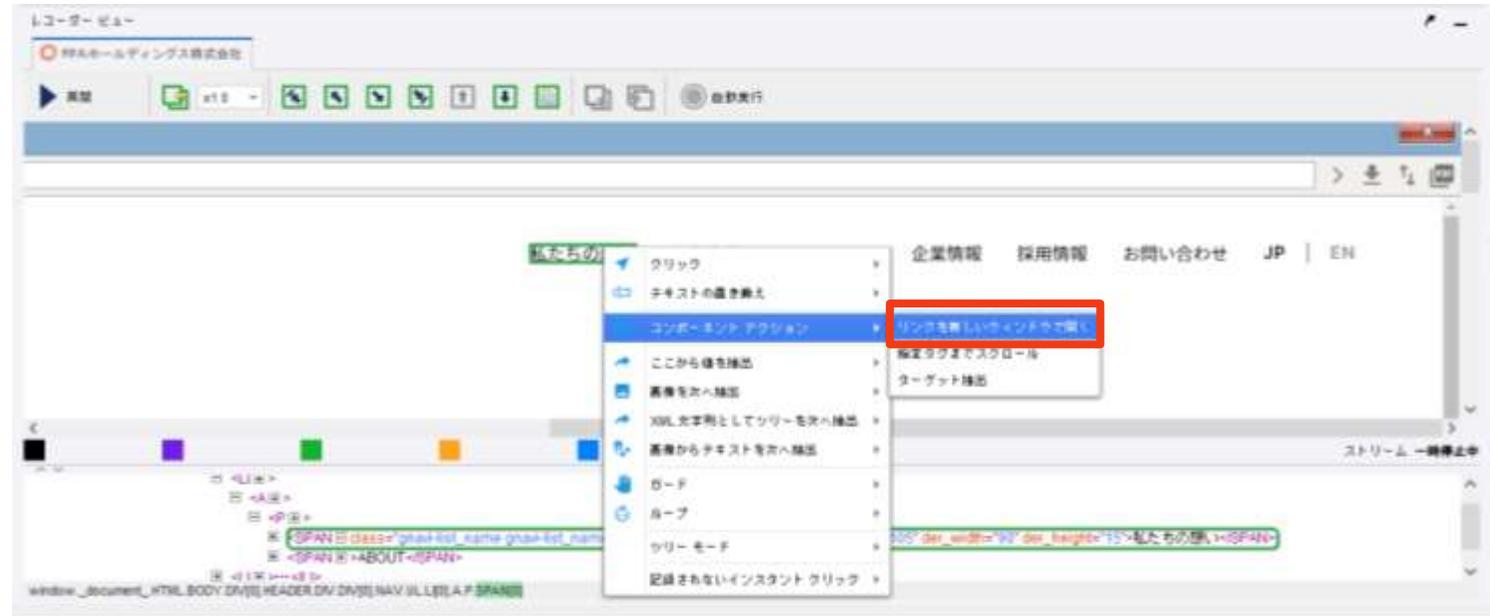


ロボットを実行すると選択したオプションが
表示されます

12.組み込みChromiumの改善(2/5)

・組み込みChromiumブラウザで開いた場合、
選択したリンクをレコーダービューの新しいタブで開くことができます。

新しいタブで開くことにより明示的に閉じない限り、
繰り返し処理を回しても情報が保持されます。



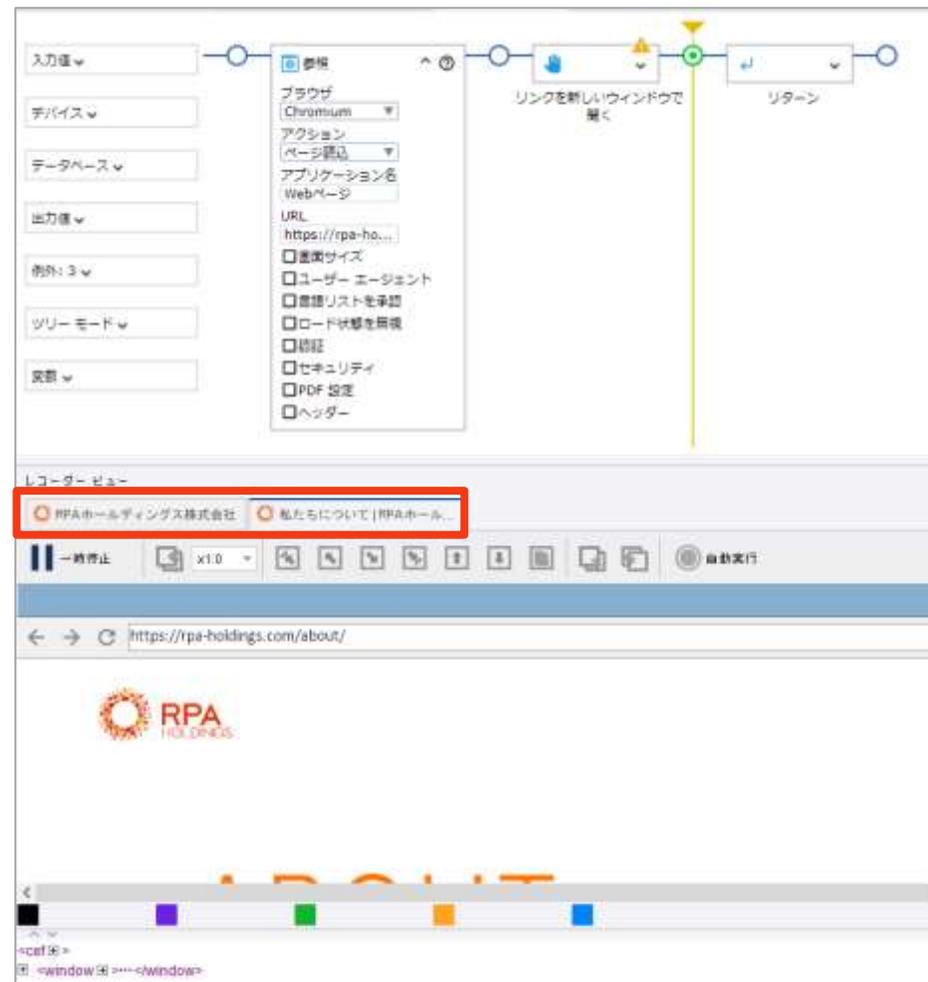
(次のページに続く)

12.組み込みChromiumの改善(3/5)

(前のページから続く)



ロボットを実行すると選択したリンクが新しいタブで開かれます



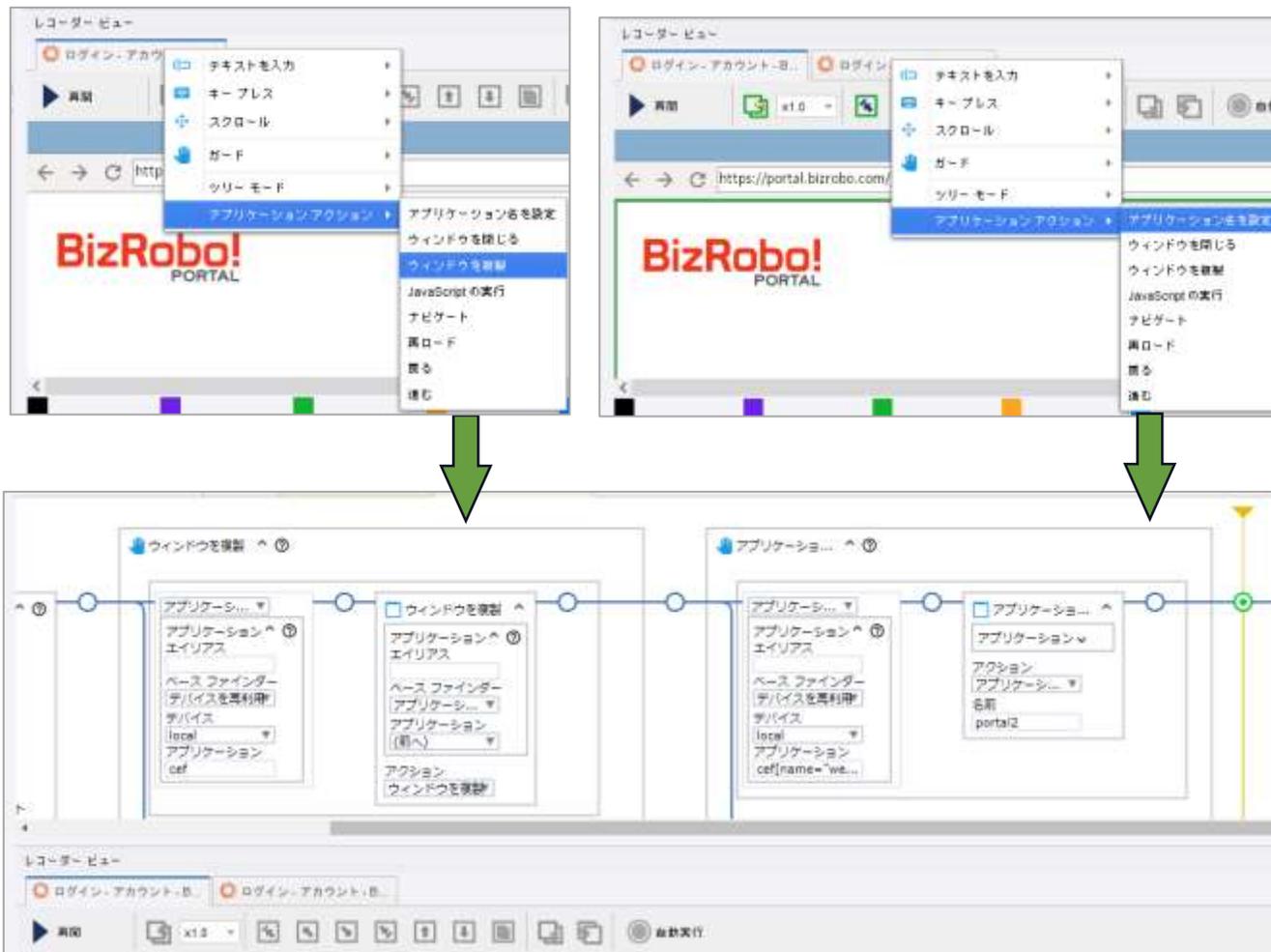
12.組み込みChromiumの改善(4/5)

「ウィンドウを複製」ステップ

Chromiumで開いたWebサイトを新しいタブで開くことができます。アプリケーション/ページの状態は保持されます。

「アプリケーション名を設定」ステップ

タブで開かれたアプリケーションに名前を付けることができます。アプリケーションを識別し、信頼性の高いファインダーを作成するのに役立ちます。

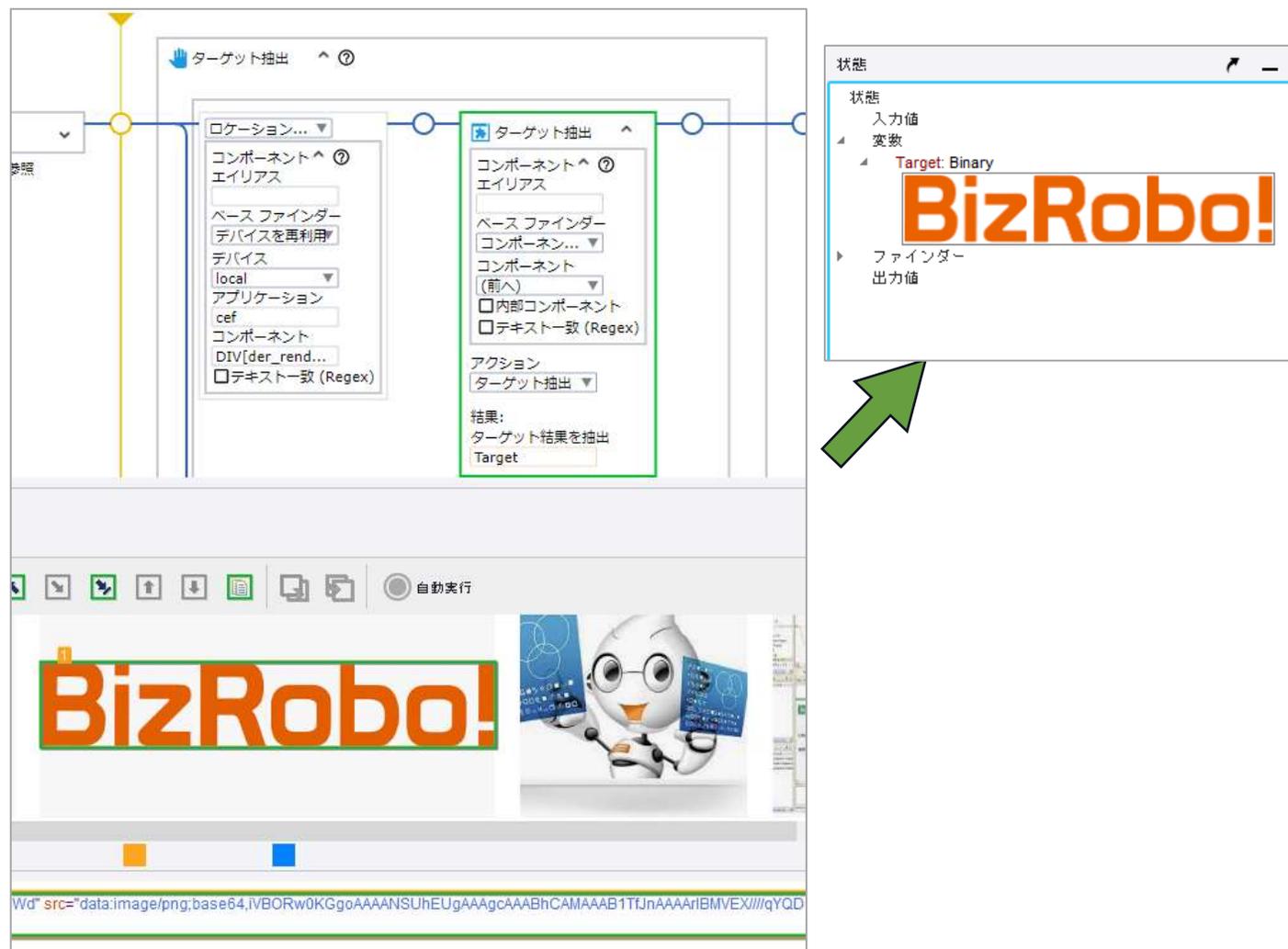


12.組み込みChromiumの改善(5/5)

「ターゲットを抽出」ステップ

HTML文のデータURL値を持つhref属性のアンカー要素から、バイナリ変数にバイナリ、画像、PDFを抽出できます。

抽出したPDFファイルは「PDF」ステップを使用してレコーダビューに表示することもできます。



13. Built in Excelの改善(1/4)

・組み込みExcel (Built In Excel) では「検索」と「次の検索」「表としてフォーマット」「オフセット」が追加されました。

・「検索」は[検索対象]のキーワードを[ターゲット]で指定した範囲内を検索します。検索結果のセルの選択が可能になり、セル座標から他のアクションが容易になります。

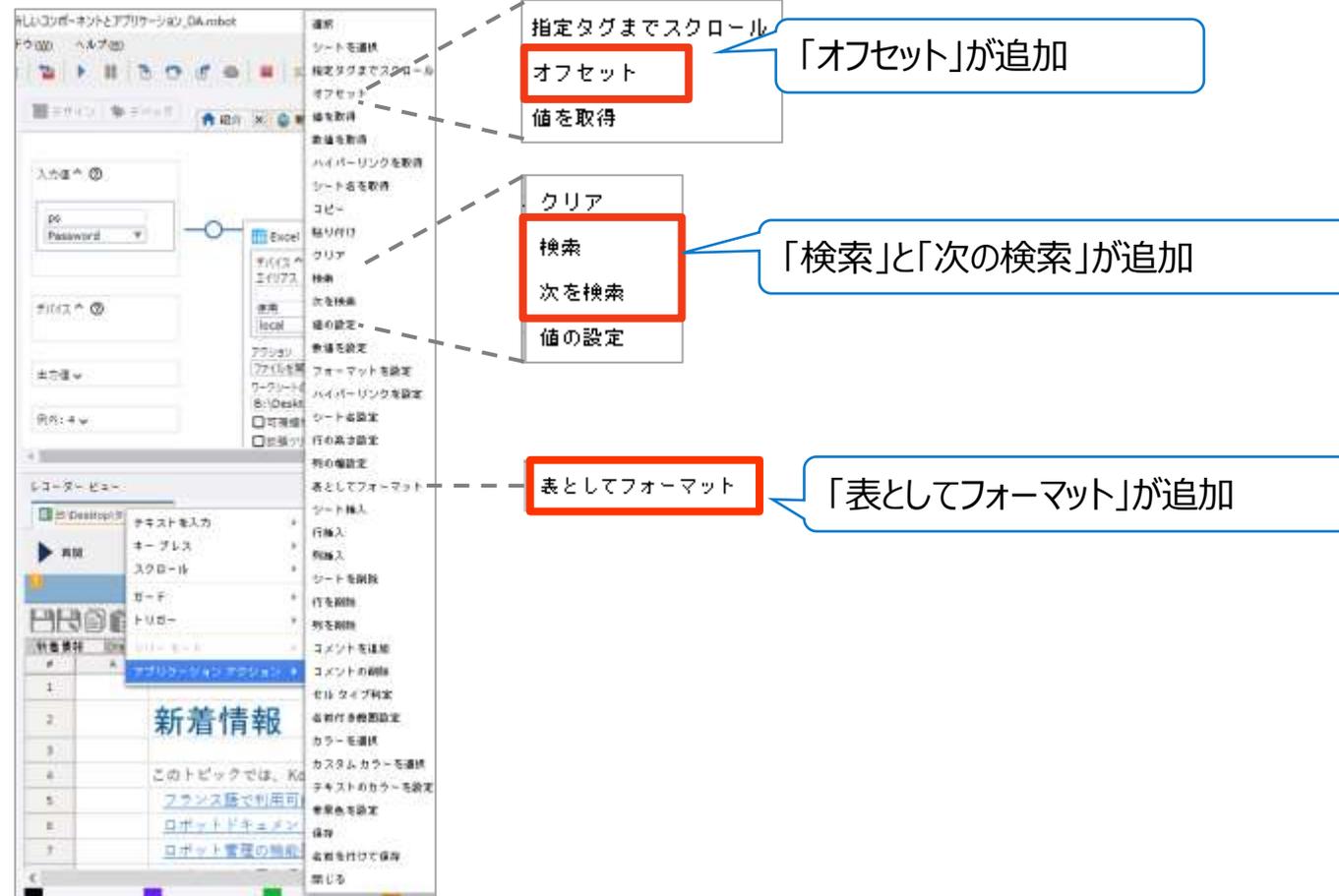
また、検索したセル座標をText変数にも格納できます。

・「次の検索」は「検索」の検索対象の次に該当するセル値を検索します。また、セルの選択、セル座標の変数への格納もできます。

・「表としてフォーマット」は範囲を指定して、フォーマットテーブルを作成することにより表の見栄えを良くすることができます。

オプションの合計行を選択すると最終行に集計行が追記され合計値が表示されます。

・「オフセット」は指定した行数、列数移動できます。



13. Built in Excelの改善(2/4)

オフセット	カーソルまたは選択範囲を、指定した行数および列数だけ移動します。
検索	<p>指定したスコープで新しい検索を開始します。</p> <ul style="list-style-type: none">•[検索対象]:検索するテキストを入力•[大文字と小文字を区別する]:大文字と小文字を区別して検索を実行する場合に選択•[セル全体に一致]:セルの内容全体を検索対象のテキストと照合する場合に選択•[検索条件]:行または列で検索する場合に選択•[ファイルの場所]:数式、結果、またはコメントを検索する場合に選択•[後に開始]:検索を開始するセルを指定•[ターゲット]と[範囲]:検索範囲を指定•[結果を選択]:検出されたセルを選択 <p>このオプションが有効で、セルがデバイスツリーに含まれている場合は、カーソルもこのセルに設定されます。 このオプションを使用すると、選択範囲を適用して、検出されたセルに他のアクション操作を実行できます。 変数[結果]には、検出されたセルの場所が含まれます。 アクションが失敗した場合、変数には空の文字列が設定されます。</p>
次を検索	<p>直前に開始した検索アクションを続行します。[結果を選択]を選択した場合は、検出されたセルが選択されます。 このオプションが有効で、セルがデバイスツリーに含まれている場合は、カーソルもこのセルに設定されます。 このオプションを使用すると、選択範囲を適用して、検出されたセルに他のアクション操作を実行できます。 変数[結果]には、検出されたセルの場所が含まれます。アクションが失敗した場合、変数には空の文字列が設定されます。</p>
表として フォーマット	<p>指定した範囲をテーブルに変換します。このアクションは、要求されたテーブルスタイルを使用して、 選択したテーブルスタイルオプションを適用します。</p> <p>[テーブルにはヘッダーがあります]オプションに対して[推測]オプションを使用すると、 ヒューリスティクスを使用してテーブルにヘッダーがあるかどうかを判断するようExcelに指示することができます。</p> <p>注 テーブルスタイルに視覚的な手がかりがない場合、選択したテーブルスタイルオプションが表示されない場合があります。 このステップのオプションは、Excelのリボンの[テーブルツール]タブと同じであり、同一のデフォルト設定を使用します。 詳細については、Microsoft Excelのドキュメントを参照してください。</p>

13.Built in Excelの改善(3/4)

「検索」は[検索対象]のキーワードを[ターゲット]で指定した範囲内を検索します。検索結果のセルの選択が可能になり、セル座標から他のアクションが容易になります。

また、検索したセル座標をText変数にも格納できます。

[検索対象]：検索するテキストを入力します。

[大文字と小文字を区別する]：大文字と小文字を区別します。

[セル全体に一致]：セルの内容全体を検索対象のテキストと照合する場合に選択します。

[検索条件]：行または列で検索する場合に選択します。

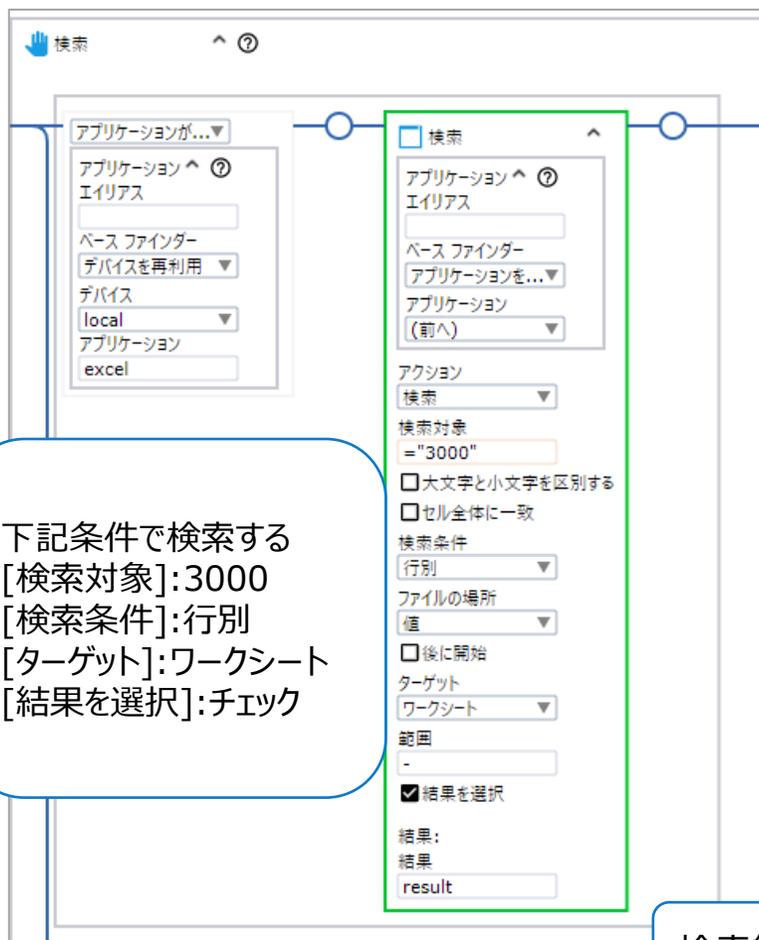
[ファイルの場所]：数式、結果、またはコメントを検索する場合に選択します。

[後に開始]：検索を開始するセルを指定します。

[ターゲット]と[範囲]：検索範囲を指定します。

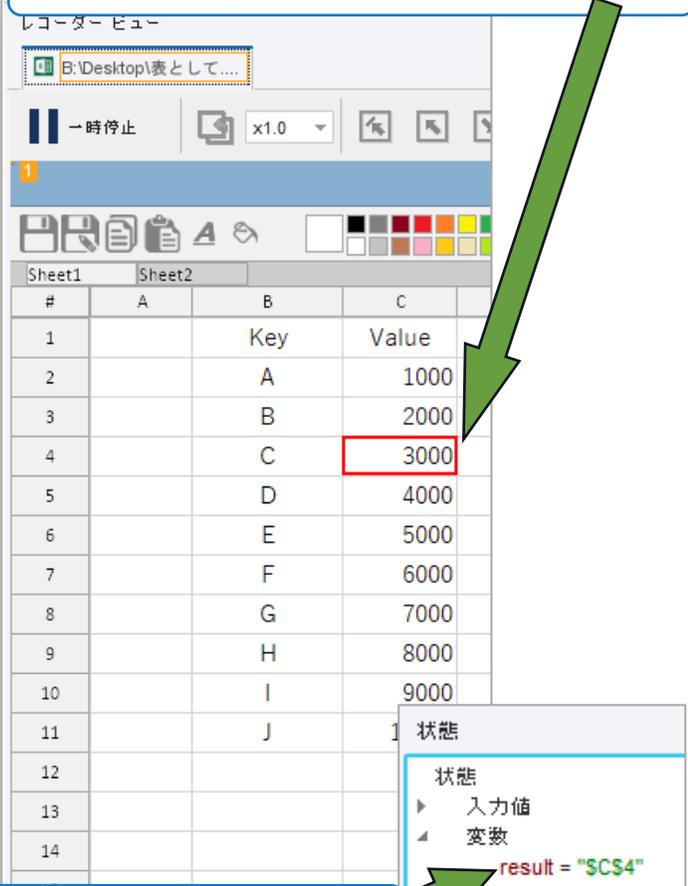
[結果を選択]：検出されたセルを選択します。

[結果]：検索結果のセル座標をText変数に格納します。



下記条件で検索する
[検索対象]:3000
[検索条件]:行別
[ターゲット]:ワークシート
[結果を選択]:チェック

[結果を選択]をチェックするとセルを選択



検索結果はセル座標を変数に格納

13. Built in Excelの改善(4/4)

・指定した範囲をテーブルに変換します。

・[テーブルにはヘッダーがあります]オプションに対して[推測]オプションを使用すると、テーブルにヘッダーがあるかどうかを判断します。

・Excelのリボンの[テーブルツール]タブと同じであり、同一のデフォルト設定を使用します。詳細については、Microsoft Excelのドキュメントを参照してください(Power queryエディタは作成されません)

・テーブルスタイルに手がかりがない場合、選択したテーブルスタイルオプションが表示されない場合があります。

The image shows the 'Table as Format' dialog box in Excel. The 'Table has headers' option is checked, and the 'Guess' option is selected. The 'Table Style' is set to 'TableStyleMed...'. The 'Table Name' is 'Table1'. The 'Table Range' is 'A1:C11'. The 'Table' is shown as a table with columns 'Key' and 'Value' and rows 1-11. The 'Table' is shown as a table with columns 'Key' and 'Value' and rows 1-12, with a '集計' (Total) row at the bottom.

Key	Value
A	1000
B	2000
C	3000
D	4000
E	5000
F	6000
G	7000
H	8000
I	9000
J	10000
集計	55000

機能のより詳細な解説や活用事例などは動画で解説していますので、こちらも併せてご覧ください。

・『 [v11.3 Built in Excel追加機能 part1](#) 』

・『 [v11.3 Built in Excel追加機能 part2](#) 』

(Youtubeの『BizRobo! TV』チャンネル)

14. 参照ステップの追加機能(1/2)

・「参照」ステップでWebページを作成し、新しいブラウザタブで開くステップを追加します。

ベーシックエンジンロボットで元々できた機能がDAロボットでもできるようにになりました。たとえば、Google sheetsコネクタの範囲読込アクションでシートの範囲を読み込んだ後に、DAロボットで直接範囲を表示し、データ抽出やデータ書き込みが行えます。今まではベーシックエンジンロボットへ読み込んだ範囲を返却しないとデータの抽出や書き込みができませんでした。

コンテンツ:新しいページのHTMLコードを指定します。

ページURL:新しいページのURLを指定します。

The screenshot shows a workflow configuration window with a 'Custom Action' step. The 'Action' dropdown is set to 'Page Generation' (ページ生成) and the 'Content' field contains HTML code for a table. Below the configuration, a browser window displays the rendered HTML page, which contains a table with 5 columns (No, B, C, D, E) and 3 rows of data. The table content is as follows:

No	B	C	D	E
18	Action1: 最終行と最終列を取			Output: 最終列, 最終行
19	Action2: 指定した列の最終行			
20	Action3: 指定した行の最終列			

Below the browser view, the raw HTML code is visible, showing the table structure and input fields for the actions.

アクションにページ生成を選択し、コンテンツに記載したHTML文がレコーダビューに表示されます

ロボット内で使用できるページが作成可能。表をHTMLで作成、値の入力、画像の出力が可能

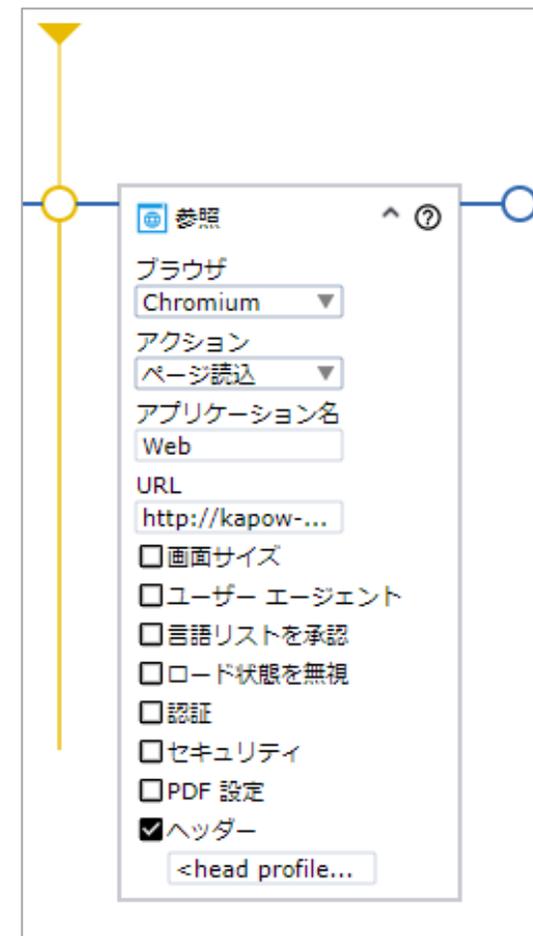
14. 参照ステップの追加機能(2/2)

・証明書エラーを無視

ロボットは提示されたSSL証明書を検証するように構成されています。
[証明書エラーを無視する]オプションを選択すると、発生する可能性のある証明書エラーを無視できます。

・ヘッダー

HTTP要求で送信されるカスタムのページヘッダー(Cookie、認証)をサポートするようになりました。



15.新しいパスワード機能

• DAロボットで使用される式には、テキストをパスワードに変換する新機能password (text : Text) が用意されています。この機能は、DAロボットの開発中にアプリケーションにログインするためにパスワードが必要な場合に役立ちます。

「電子メール」ステップのメールアカウントのパスワード、「クラウドAI」ステップのAPIキーで利用できます。

• ロボットワークフロー内でText変数及びテキストをPassword変数に変換できます。

• 本番環境ではセキュリティ上の理由のためこの機能は使用せず、Password Storeをご利用ください。

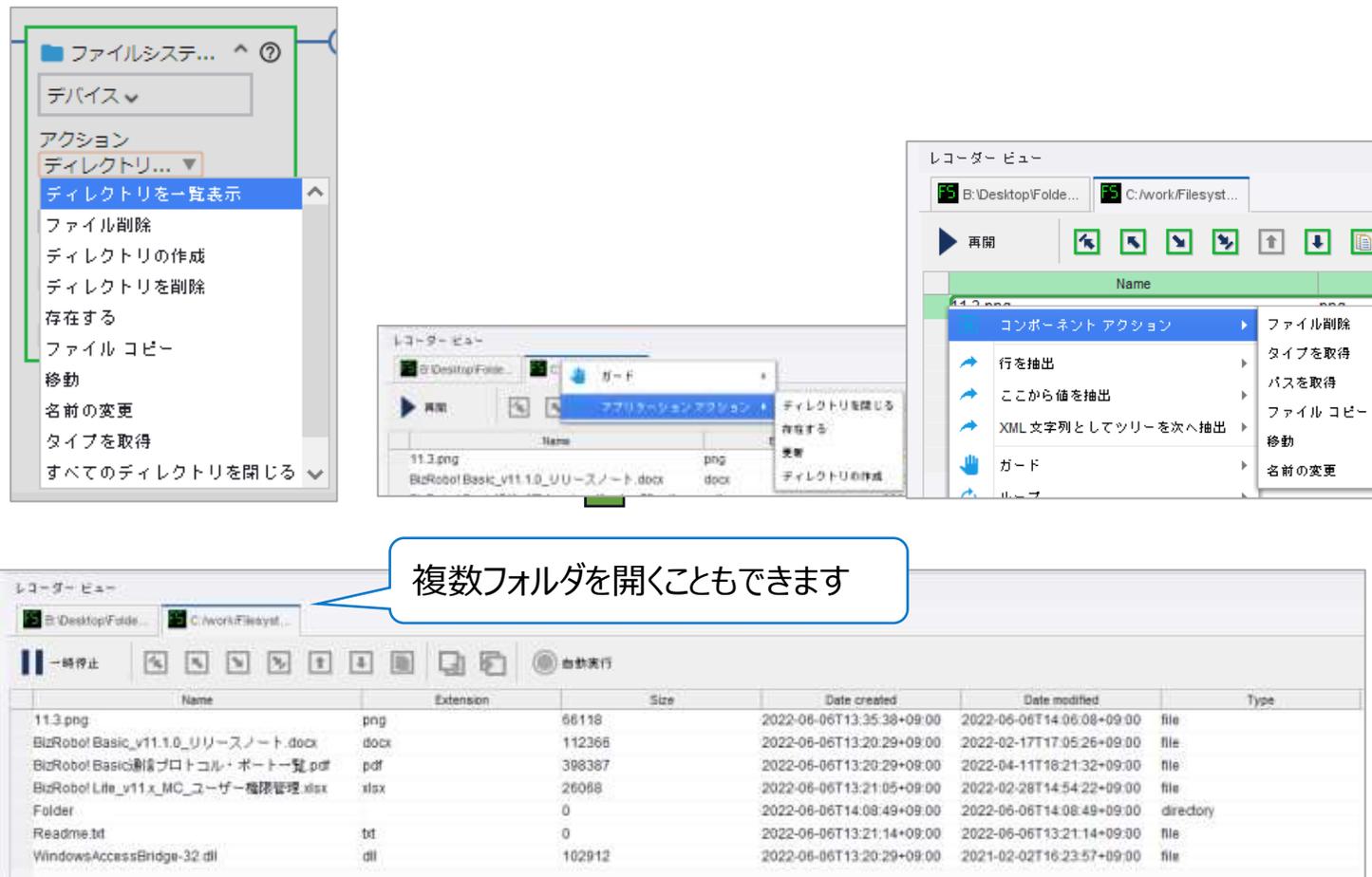
The screenshot shows a workflow editor interface. At the top, a '割り当て' (Assign) step is highlighted with a green box. It shows a variable 'pw_pw' being assigned the value of the expression 'password(pw_txt)'. Below this, the result of the function is displayed as '結果 = Password(476432a3e85a0aa21c23f5abd2975a89b6820d63)'. At the bottom, a '状態' (State) panel shows the state of the workflow. It lists '入力値' (Input) as 'pw_txt = "Apple"', '変数' (Variable) as 'pw_pw = Password(476432a3e85a0aa21c23f5abd2975a89b6820d63)', and 'ファインダー' (Finder) as '出力値' (Output). A green arrow points from the 'pw_txt = "Apple"' line to a callout box that says 'Text変数をPassword変数に変換' (Convert text variable to password variable).

16.ファイルシステムアクションステップ(1/2)

- DAロボットでファイルにアクセス出来るようになりました。
ファイルを扱うDAロボットを共通部品として複数のベーシックエンジンロボットで再利用できます。
- ローカル端末※のディレクトリ、ファイルに直接アクセスまたはロボットファイルシステム(RFS)経由でアクセスできます。

フォルダ、ファイルの存在有無の判定(boolean)、
タイプの取得(dir or File or other)、
全てのディレクトリを閉じる、ディレクトリの表示、追加、削除、
ファイルのコピー、移動、名前の変更、パスの取得

※「ローカル端末」とは、Management Consoleから実行した場合はRoboServerが起動しているサーバーを、Design Studioから実行した場合はDesign Studio端末を指します。
(DAS接続しているリモート端末のファイルは対象外)



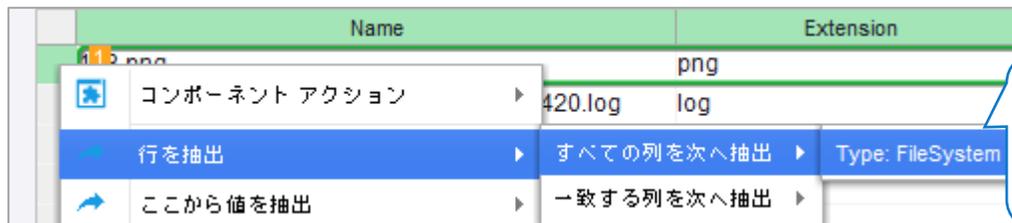
16.ファイルシステムアクションステップ(2/2)

・ファイルシステムアクションでもレコーダービューに表示されたレコード行をタイプファイルに抽出できます。

・タイプファイルの「名前」または「ストレージ名」とレコーダビューに表示される列名は一致させる必要があります。

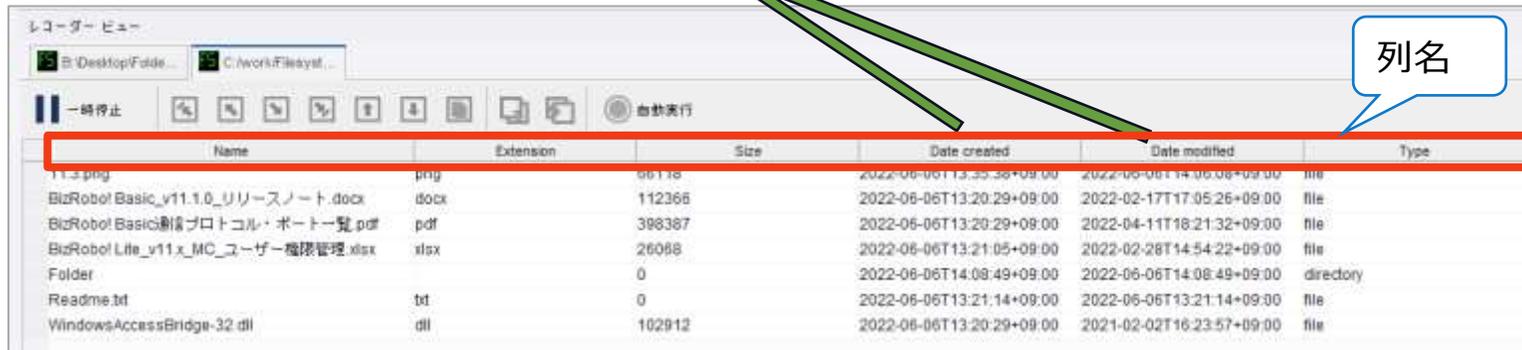
・タイプファイルの「名前」にスペース(" ")は入力できませんが、レコーダビューに表示される列名にスペースがある場合があります。その場合はタイプファイルの詳細タブの「ストレージ名」に列名を設定します。

「名前」にスペースが指定できないため、「ストレージ名」を指定することで認識できる



「行を抽出」ステップはタイプファイルに格納できます

名前	ストレージ名	属性の種類	レコードフィールドタイプ
Name		Short Text	Text
Extension		Short Text	Text
Size		Integer	Integer
Datecreate	Date created	Date	DateTime
Datmodified	Date modified	Date	DateTime
Type		Short Text	Text
path		Short Text	Text



17.DAロボットで変数型（DateTime、Date、Time）の追加(1/2)

• DAロボットでDateTime型、Date型、Time型の変数がサポートされました。

• ベーシックエンジンロボットから入力値としてDateTime型をDAロボットへ渡すことや、DAロボットでDateTime型、Date型、Time型の変数を作成して日付の処理ができます。

• DateTime型をTEXT型へ変換することで、Excelへの入力やファイル名としての出力、SQL文のWhere句に指定するなど利用が可能です。

また、TEXT型をDateTime型に変換することもできます。

入力値 ^ ②

変数1
DateTime

type2
日時

状態

```
状態
├─ 入力値
│   └─ 変数1: DateTime
│       ├── date = 2022-01-01
│       ├── time = 12:00:00.123
│       ├── offset = "+09:00"
│       └─ zoneld = "Asia/Tokyo"
└─ type2: 日時
    ├── datetime1 = 2022-01-02T12:00:00.456+09:00[Asia/Tokyo]
    ├── date1 = 2022-01-02
    └─ time1 = 12:00:00.456
変数
```

変数 ^ ②

datetime1
DateTime

date1
Date

Time1
Time

type_日時
日時

i
Integer

状態

```
状態
├─ 入力値
└─ 変数
    ├── datetime1: DateTime
    │   ├── date = 2022-01-01
    │   ├── time = 11:51:58.7470366
    │   ├── offset = "+09:00"
    │   └─ zoneld = "Asia/Tokyo"
    ├── date1 = 2022-01-01
    ├── Time1 = 11:54:09.5785482
    └─ type_日時: 日時
        ├── datetime1: DateTime
        │   ├── date = 2022-01-03
        │   ├── time = 11:56:07.3285176
        │   ├── offset = "+09:00"
        │   └─ zoneld = "Asia/Tokyo"
        ├── date1 = 2022-01-03
        └─ time1 = 11:56:07.3295179
        i = 159
    ファインダー
    出力値
```

17.DAロボットで変数型（DateTime、Date、Time）の追加(2/2)

・タイプファイルにもDate、Timeが追加され、DAロボットへの入力値、変数に使用できます。

(従来バージョンの属性:DateのレコードフィールドタイプはDateTime型になります)

・タイプファイルはDAロボットの変数として使用でき、出力値としてベーシックエンジンロボットに戻すこともできます。

・DAロボット内で使用できる年月日、時刻を操作する関数も追加されています。

機能のより詳細な解説や活用事例などは動画で解説していますので、こちらを併せてご覧ください。

・『[DAロボットのDate型変数のサポート](#)』
(Youtubeの『BizRobo! TV』チャンネル)

名前	ストレージ名	属性の種類	レコードフィールドタイプ
datetime1		Date	DateTime
date1		Date	Date
time1		Date	Time

type_日時.datetime1.text("yyyy年MM月dd日 (E) HH時mm分ss秒")

結果 = "2022年01月03日 (月) 14時35分12秒"

type_日時.date1.text("yyyy/MM/dd")

結果 = "2022/01/03"

DAロボット内の関数で
TEXT型へ変換できます

type_日時.time1.text("HH:mm:ss.n")

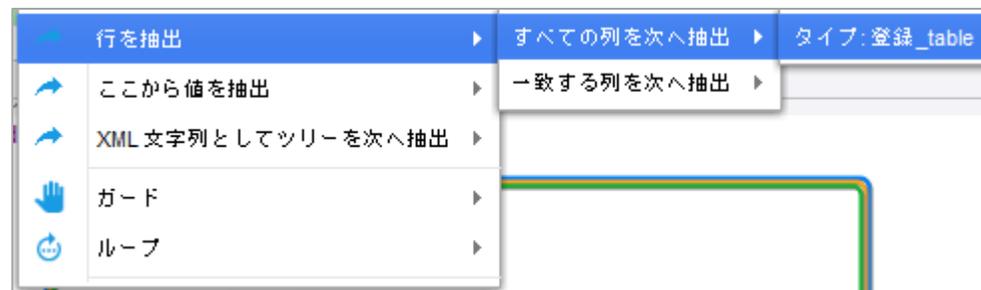
結果 = "14:35:12.433123600"

19.行を抽出するステップ

・「ファイルシステムアクション」ステップ、「電子メール」ステップ、データベース関連のステップでレコーダビューに表示したセル情報を1行まとめてタイプファイルへ抽出することができます。

・「行を抽出」ステップでタイプファイルに抽出するにはタイプファイルの「名前」、「ストレージ名」とテーブルに表示される列名が一致する必要があります。

・タイプファイルの「名前」にスペース(" ")は入力できませんが、レコーダビューに表示される列名にスペースがある場合があります。その場合はタイプファイルの詳細タブの「ストレージ名」に列名を設定します。



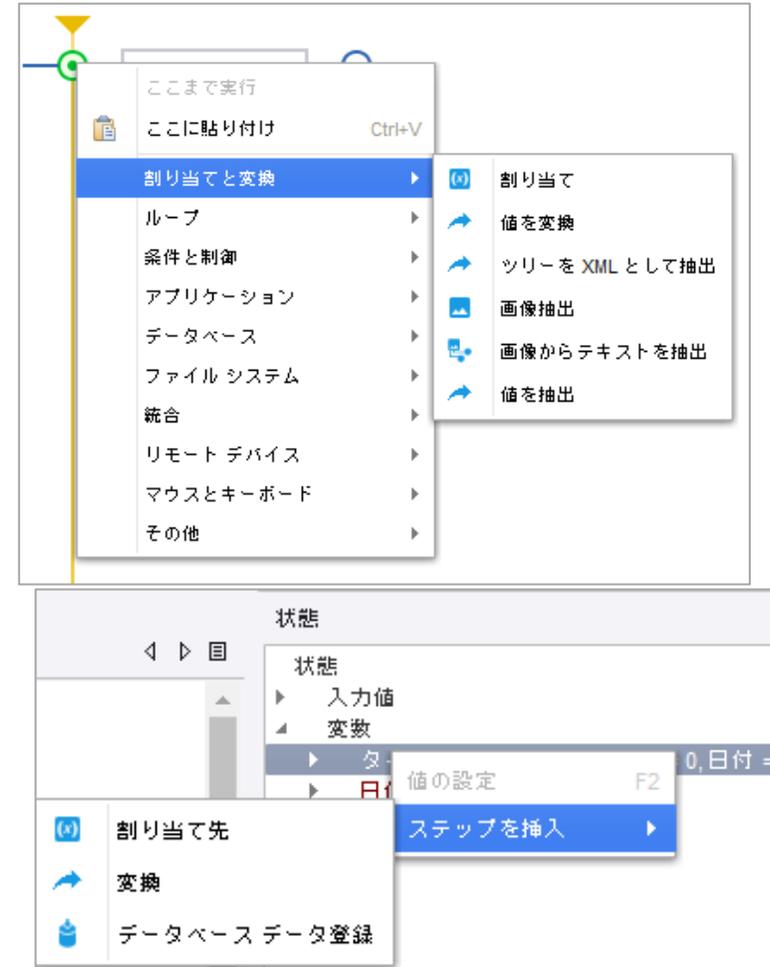
名前	ストレージ名	属性の種類	レコードフィールドタイプ
From		Short Text	Text
Subject		Short Text	Text
Received		Date	DateTime
Size		Integer	Integer
Hasattachment	Has attachment	Boolean	Boolean
isread	Is read	Boolean	Boolean

From	Subject	Received	Size	Has attachment	Is read
コンポーネント アクション	dogマイレポート (2022-05-30T04:03:11+09:00)	126434	false	true	
システムの入力のお願	2022-06-01T07:22:39+09:00	67100	false	true	
11:19:58+09:00	45529	false	true		
-06-06T04:05:34+09:00	168132	false	true		

20.ロボットエディタのコンテキストメニューの改善(1/2)

• DAロボットのステップがカテゴリ別に集約され、各ステップにアイコンが表示され、ステップの選択がしやすくなりました。

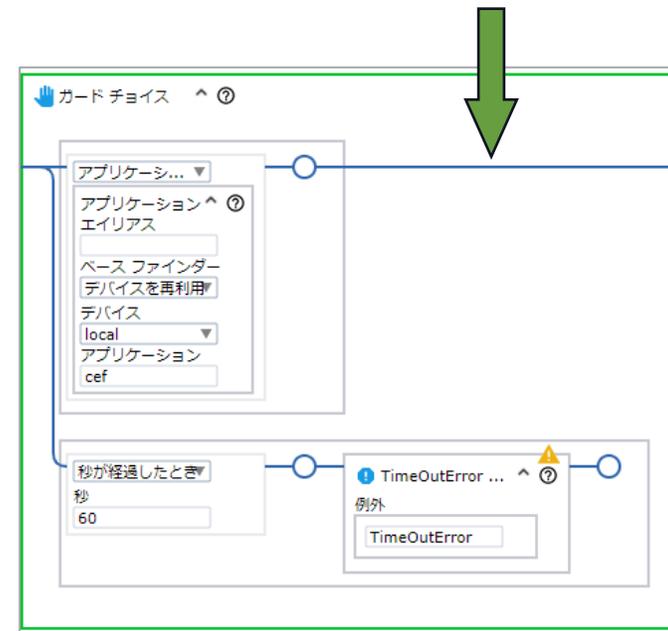
• 特定のステップは状態ビューの変数を右クリック>[ステップを挿入]から直接ステップを追加できます。



20. ロボットエディタのコンテキストメニューの改善(2/2)

・コンポーネント、アプリケーションアクションから追加されるガードチョイスにタイムアウトが含まれるようになりました。

・「クリップボードを設定」ステップが「クリップボードを割り当て」へ名称変更になりました。



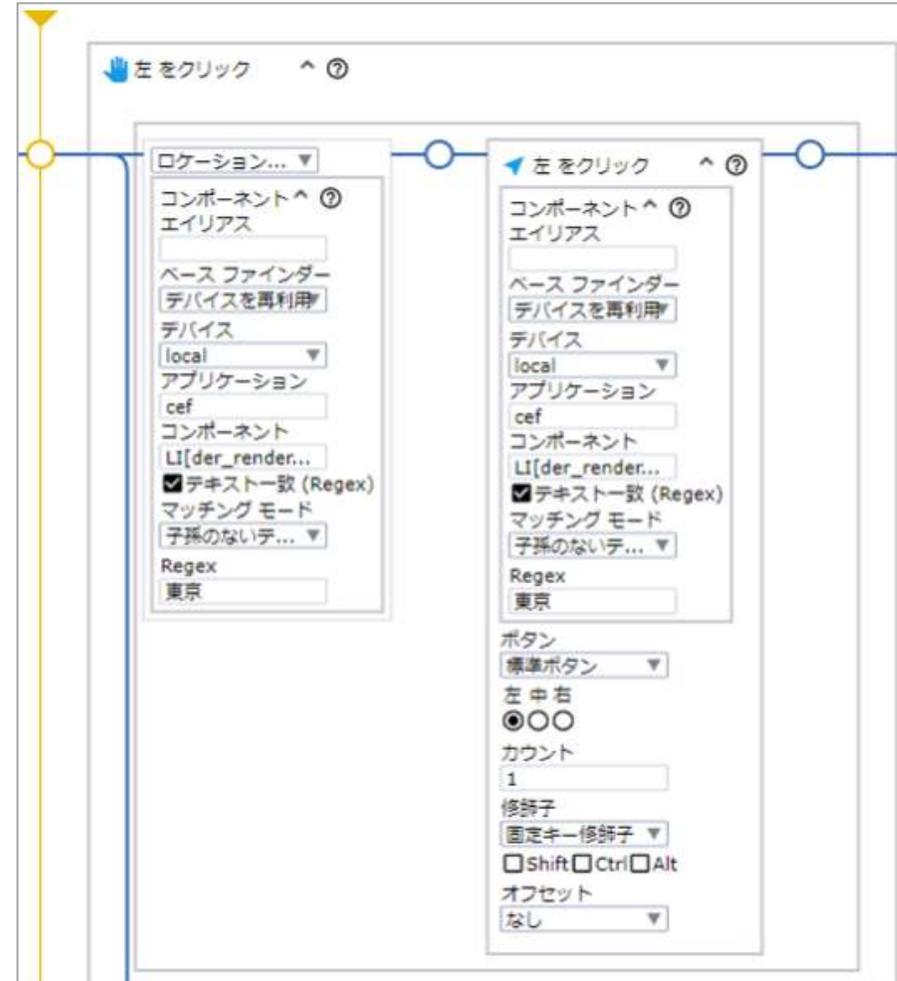
21. クリックステップの変更

• v11.3よりクリックステップが変更になりました。

変更点 (v11.3 クリックステップ新規作成時)

- マウス移動がなくなり、ロケーションの確認とクリックのみになりました。
- ロケーションにて指定するコンポーネントがより詳細になりました。
- クリック自体にベースファインダーとしてデバイスの再利用ができることに伴い、[テキスト一致]が設定できるようになりました。

• 従来バージョンで作成したクリックステップはv11.3でも動作します。

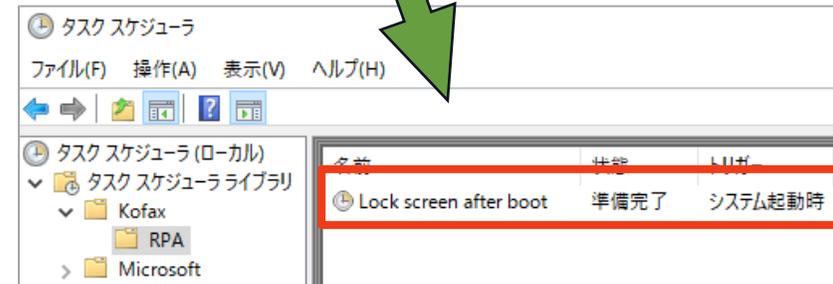
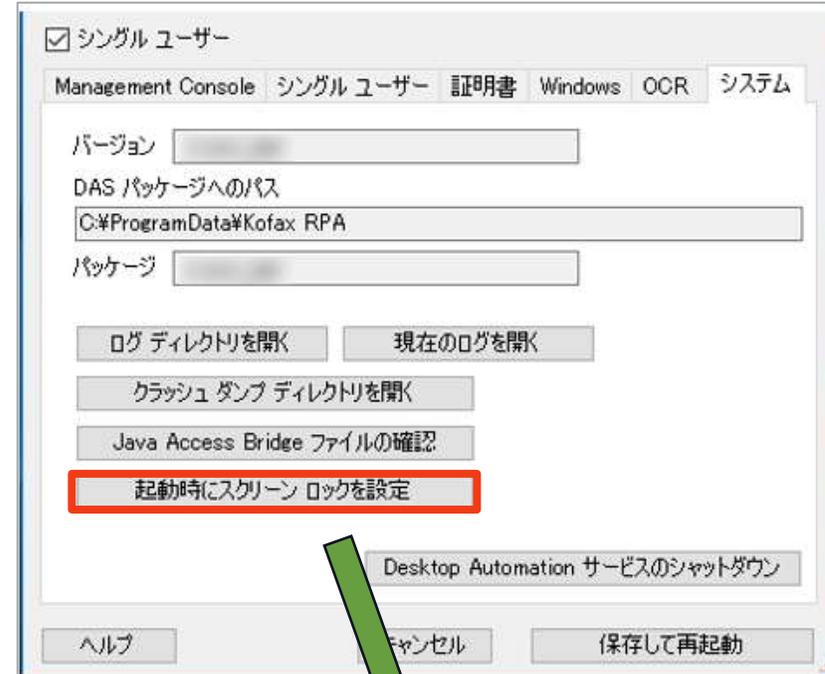


22.DAS設定：端末起動時にスクリーンロック機能を追加

•DASの設定でDASをインストールしているリモート端末の起動時に、リモート端末の画面をスクリーンロックできるようになりました。再起動の頻度が高いリモート端末で役立ちます。

•DAS設定>システムタブ>「起動時にスクリーンロック設定」から管理者権限で認証しタスクスケジューラに端末起動後1分後にスクリーンロックするタスクを作成します。

•作成したタスクはタスクスケジューラから削除できます。管理者権限パスワードを変更した場合はタスクスケジューラから変更できます。



Management Console

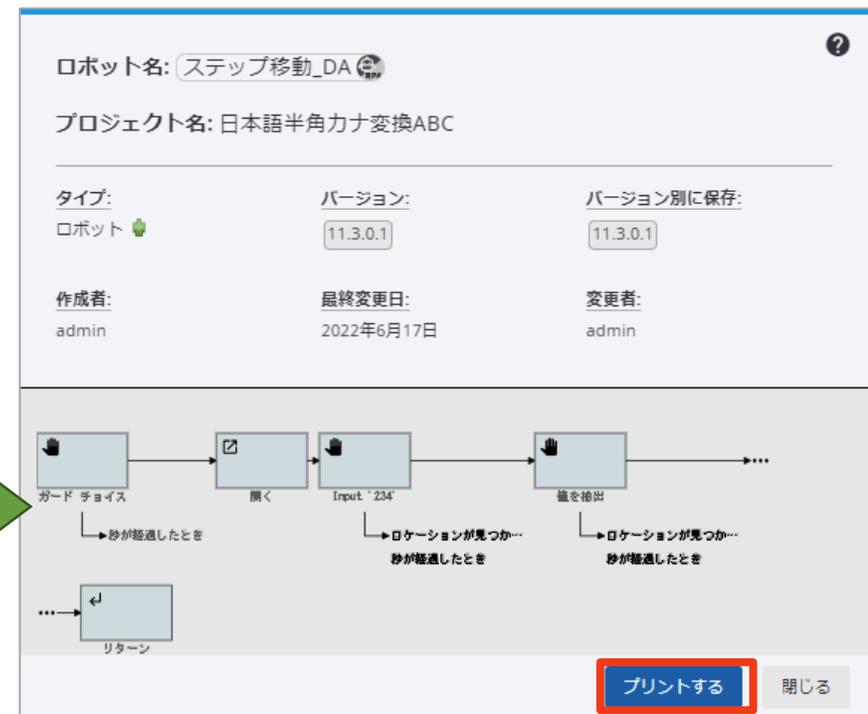
1. ロボットドキュメントを生成する機能
2. cronスケジュールのタイムゾーンを選択する機能
3. マップされたデータベースのみをDesign Studioに送信する機能
4. シングルテナントモードでのOAuthのサポート
5. シングルSAMLログアウト
6. ロボットページから不足しているリソースを直接アップロードする機能
7. テーブルの改良
8. 日付の表示形式が変更
9. LDAP認証とSAML認証を同時に使用する機能
10. Java APIおよび.NET APIでのロボットのキューイングのサポート

1.ロボットドキュメントを生成する機能(1/5)

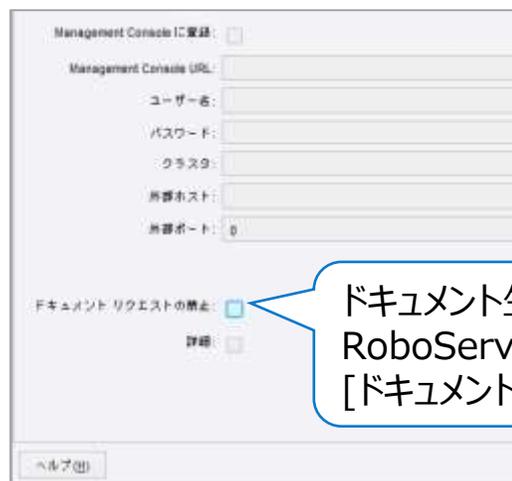
- ロボットの構造や実行するアクションなど、ロボットの概要をドキュメントとして生成できるロボットドキュメント機能が導入されています。
- ドキュメントはロボット単位で生成されます。ベーシックエンジンロボットからDAロボットを呼び出している場合、呼び出しているDAロボット名が表示されます。
- この機能はロボットに関する技術的な詳細を共有する必要がある場合に役立ちます。



ロボットのドキュメントを生成を選択



(次のページに続く)



ドキュメント生成を停止する場合
RoboServer Settingsアプリケーションで
[ドキュメントリクエストの禁止]を選択する

1.ロボットドキュメントを生成する機能(2/5)

・ロボットが実行する一連のアクションや、他のロボット、スニペット、リモートデバイスなどへの依存関係など、ロボットに関する技術的な詳細を共有する必要がある場合に役立ちます。

・複合機、faxを選択する場合は、接続を確立した上で別途端末の設定が必要になります。

・ロボットのドキュメントを生成するには、Management Consoleのバージョンと、この機能が有効になっている、対応するRoboServerが一致する必要があります。

(前のページから続く)

The screenshot shows the BizRobot RPA Management Console interface. The main content area displays details for a robot named 'ステップ移動_DA' (Step Movement_DA) under the project '日本語半角カナ変換ABC' (Japanese Half-width Kana Conversion ABC). The robot's version is 11.3.0.1, and it was created by 'admin' on 2022年6月17日 (June 17, 2022). The interface includes a '印刷' (Print) section with a '送信先' (Destination) dropdown menu set to 'PDF に保存' (Save as PDF). A red box highlights this dropdown. To the right, a '送信先の選択' (Select Destination) dialog is open, showing a search bar and a list of destinations including 'PDF に保存', 'OneNote for Windows 10', 'RICOH MP C6503', 'RICOH MP C6004 JPN RPCS', 'OneNote (Desktop)', 'Microsoft XPS Document Writer', 'Microsoft Print to PDF', 'Fax', and 'CubePDF'. A green arrow points from the '送信先' dropdown to the dialog. A blue callout box at the bottom of the dialog contains the text '送信先を選択可能' (Destination selection possible).

1.ロボットドキュメントを生成する機能(3/5)

・ドキュメントの保存例

右図はPDFに保存の例になります。

PDFは他にMicrosoft Printer to PDF、CubePDFに保存可能です。

PDFに保存

BizRobo! RPA Management Console

ステップ移動_DA

ロボット名: ステップ移動_DA

プロジェクト名: 日本語半角カナ変換ABC

タイプ:	バージョン:	バージョン別に保存:
ロボット	11.3.0.1	11.3.0.1

作成者:	最終更新日:	管理者:
admin	2022年6月17日	admin

Flowchart showing a sequence of actions: コードチェイス, 閉く, Input PDF, 検索実行, リターン.

タイプ	名前	コメント
コードチェイス	コードチェイス	
閉く	閉く	
Input PDF	Input PDF	
検索実行	検索実行	
リターン	リターン	

Input '234' / ロケーションが見つかった場合

タイプ	名前	コメント
-----	----	------

1.ロボットドキュメントを生成する機能(4/5)

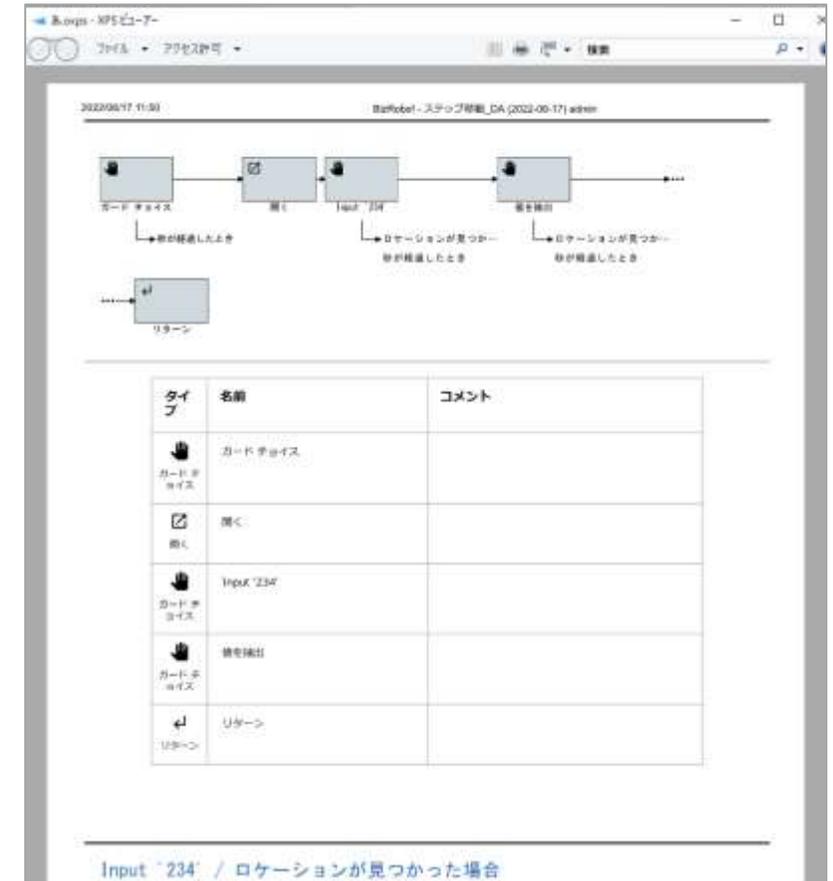
•Onenoteの保存例

•Microsoft XPS Document Writerの保存例

Onenote



Microsoft XPS Document Writer



1.ロボットドキュメントを生成する機能(5/5)

•ドキュメントのコメントはベーシックエンジンロボットの
場合プロパティ>基本>ステップのコメントの表記が
反映されます。

•DAロボットの場、コメントの表記が反映されます。

•1行のコメントが長いとドキュメントを生成した際に
収まらない恐れがありますので適宜改行が必要に
なります。

ベーシックエンジンロボットのコメント

タイプ	名前	コメント
Snippet	Excel読み込む	Excelを読み込む
Call Robot	Call 依存関係_DA ↳ 依存関係_DA	DA_依存関係を表示

プロパティ

基本 ファインダー アクション エラー処理

ステップ名: Call 依存関係_DA

ステップのコメント: DA_依存関係を表示

DAロボットのコメント

タイプ	名前	コメント
Assign	(1) 割り当て	カウント変数を設定
Loop	ループ	繰り返す

コメント
カウント変数を設定

割り当て
変数
Count
エクスプレッション
=Index

ループ

2.cronスケジュールのタイムゾーンを選択する機能

・スケジュールを実行するために、特定のUTCタイムゾーンを選択することができます。

・移行されたスケジュールのタイムゾーンは「サーバーのタイムゾーン」が選択され、影響なく実行できます。

v11.3

基本 詳細 スケジュールされたジョブ

スケジュール名*
Schedule

アクティブ シンプル cron

パターン*
0 0 12 * * ?

開始時間 (ローカル時間)*
12:30

ジョブの優先順位*
中

ジョブのタイムアウト*
10

前処理ロボット

後処理ロボット

サーバーのタイムゾーン

- (UTC -12:00) 国際日付変更線西側
- (UTC -11:00) 協定世界時-11
- (UTC -10:00) アリューシャン列島
- (UTC -10:00) ハワイ
- (UTC -09:30) マルキーズ諸島

キャンセル OK

v11.1

基本 詳細 スケジュールされたジョブ

スケジュール名*
DS

アクティブ シンプル cron

パターン*
0 0 12 * * ?

開始時間 (ローカル時間)*
12:20

2021/6/9

ジョブの優先順位*
中

ジョブのタイムアウト*
10 分

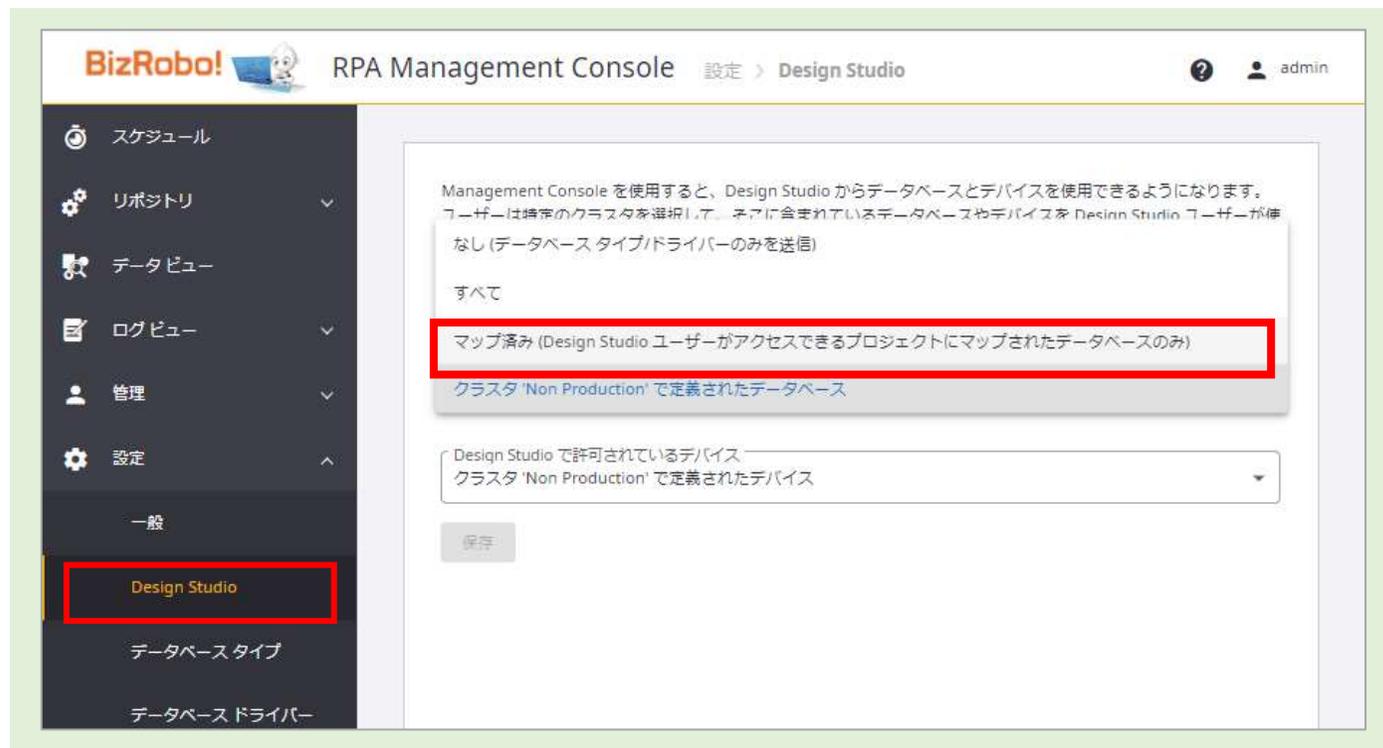
前処理ロボット

後処理ロボット

キャンセル OK

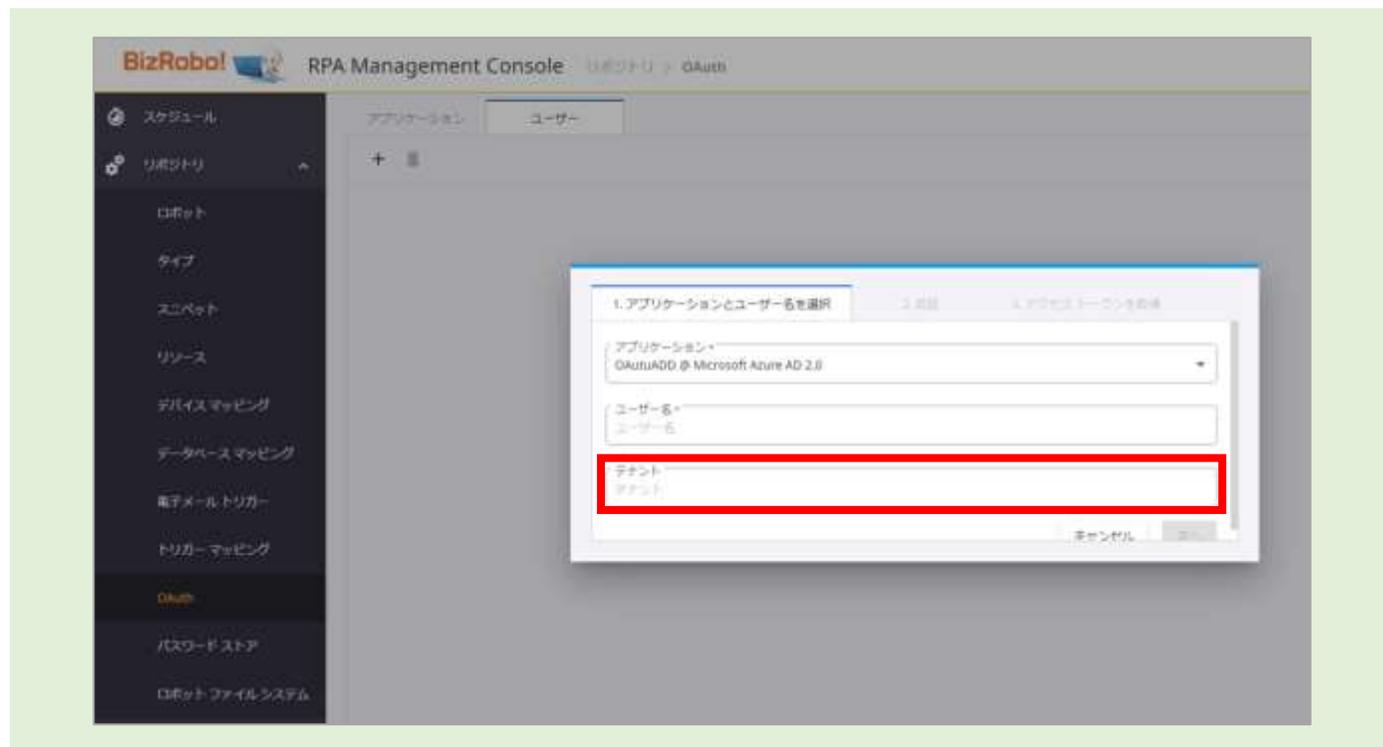
3. マップされたデータベースのみをDesign Studioに送信する機能

・個々のDesign Studioユーザーがアクセスできるプロジェクトにマップされたデータベースを、Design Studioに提供するようにManagement Consoleを構成することができます。



4. シングルテナントモードでのOAuthのサポート

• OAuthアプリケーションがMicrosoft Azure2.0で作成されている場合、アプリケーションにユーザーを追加すると、「テナント」と呼ばれる追加のパラメータが表示されます。テナントIDをこのパラメータに入力により、シングルテナントアプリケーションを操作できるようになりました。



5. シングルSAMLログアウト

•v11.3.0以降、ユーザーがManagement Consoleで[ログアウト]をクリックすると、SAML IDプロバイダからログアウトできるようになりました。



6.ロボットページから不足しているリソースを直接アップロードする機能

・スニペットやタイプなどが不足しているリソースは、ロボットページで赤で強調表示され、不足しているリソースにカーソルを合わせると表示されるメニューから直接アップロードできます。

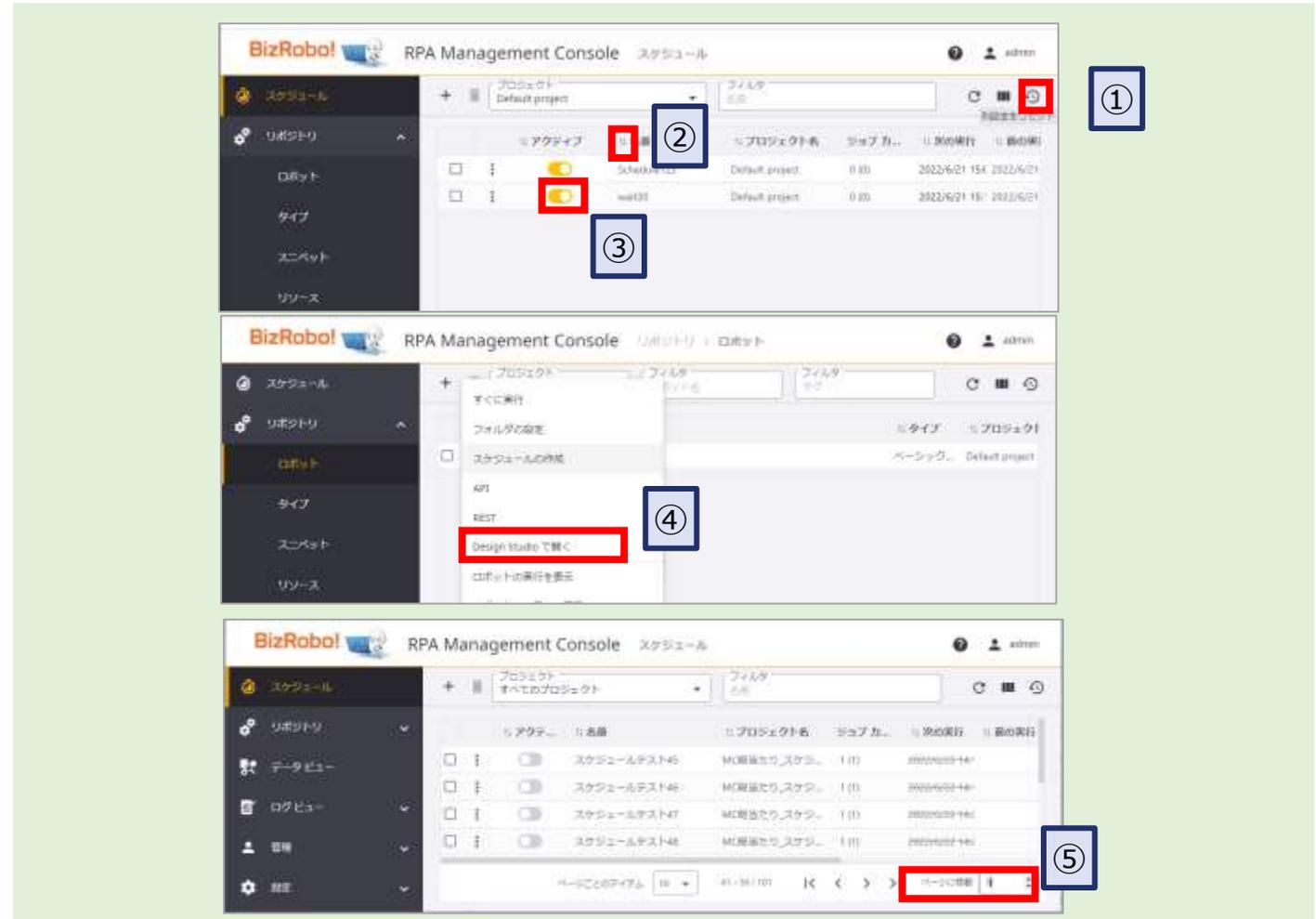


7. テーブルの改良

・Management Consoleの表全体で、使いやすさと効率性を高めるための拡張機能を利用できるようになりました。テーブルのリセットや、ページ間を簡単に移動する機能を持つ新しいボタンが追加されました。

例：

- ①「列設定をリセット」ボタンが追加されました。
- ②並べ替えボタンが追加されました。
- ③スケジュールの「アクティブ」をボタン化しました。
- ④「Design Studioで開く」でDesign Studioへ遷移して、ロボット、タイプ、スニペットを開けます。
- ⑤「ページに移動」選択欄が追加され、指定のページへ移動できます。



8.日付の表示形式が変更

・Management Consoleでの日付の表示形式が変更されました。

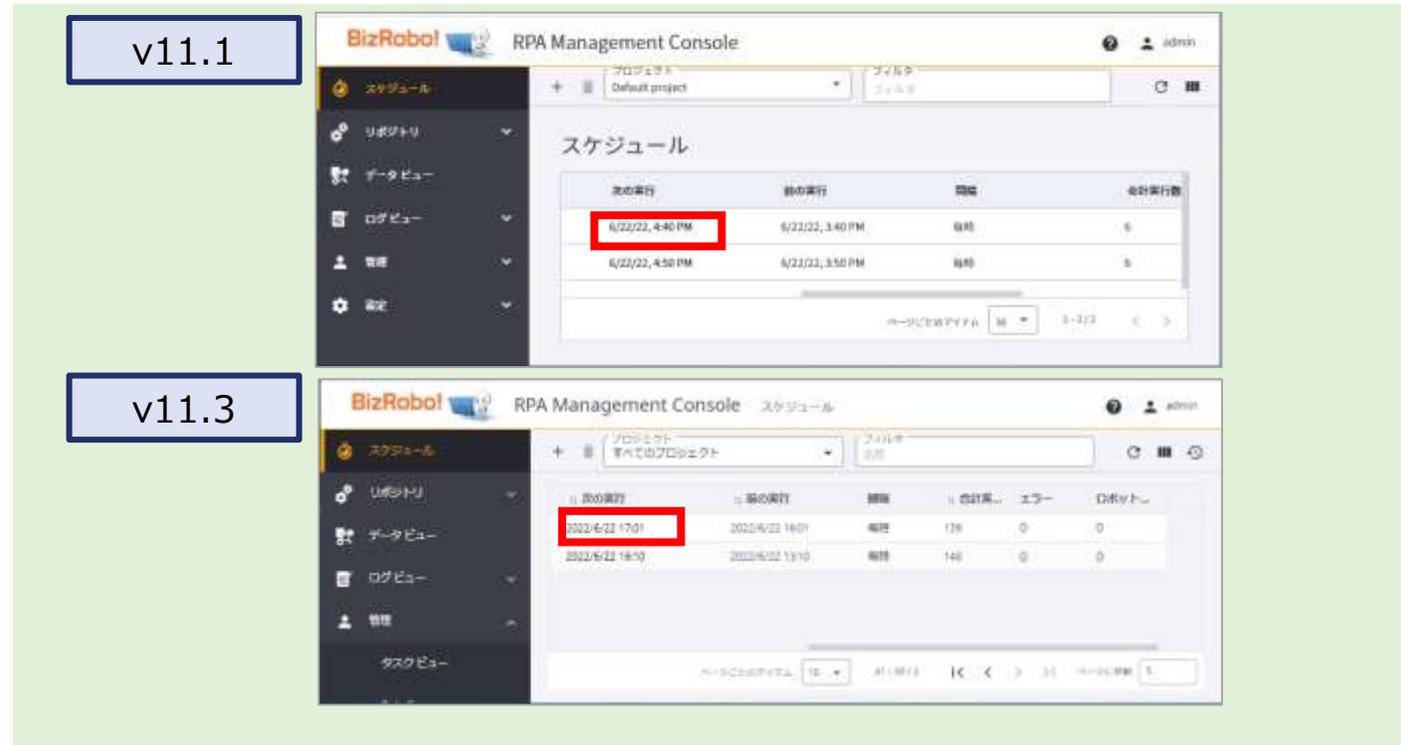
形式 : 「m/dd/yy h:mm tt」から

「yyyy/mm/dd hh:mm」へ変更されました。

例) 2022年6月22日 17時

6/22/22, 5:00 PM

→ 2022/06/22 17:00



9.LDAP認証とSAML認証を同時に使用する機能

・Management Consoleで、LDAP認証とSAML認証を同時に使用できるようになりました。LDAP認証とSAML認証の両方を使用する場合、Management ConsoleへのSSOにはSAMLが使用され、サービスの認証にはLDAPが使用されます。

SAML認証



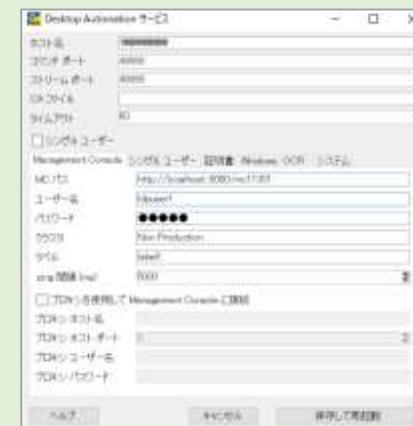
ログイン認証



LDAP認証



サービス認証



10. Java APIおよび.NET APIでのロボットのキューイングのサポート

• Management Consoleで、Java APIと.NET APIでのロボットのキューイングがサポートされるようになりました。

例：Java APIを利用して、実行ロボットの待ちキューの優先度を高に設定します。

例：Java API

Javaソース

```
14 // Builder Delegate
15 //
16 public class QueueRobot {
17 //
18 //
19 // @param args the command line arguments
20 // @throws con.kapowtech.robotuite.api.java.raj.RAJException
21 //
22 public static void main(String[] args) throws RAJException {
23 // TODO code application logic here
24 System.out.println("about to issue this robot");
25 RepositoryHitClientProvider repository = new RepositoryRobotLibrar
26 QueuedRequest request = new QueuedRequest("test/chain_first_robot",
27 request.setPriority(QueuedRequest.Priority.HIGH);
28 RAJResult result = request.execute();
29 }
30 }
31 }
32 }
33 }
```

Java実行

```
c:\java>java -classpath ".;C:\Program Files\Kofax\RPA 11.3.0.2.358\84
YAPI\robotuite-java-api\lib\*" queuerobot.QueueRobot
about to queue this robot
c:\java>
```



名前	ワークフロー	ジョブの名称	優先度	開始日時	入出力	ステータス	属性	作成日時	実行回数
Robot-1	Robot-1	Default project	高	2017/10/10		実行中	QA	2017/10/10	11
Robot-2	Robot-2	Robot-2	標準	2017/10/10		待機	QA	2017/10/10	24

Kapplets

1. スケジュールのサポートが追加されました
2. バックアップファイルによって復元されたスケジュール
3. Kappletsでのクラスタ名の不要化
4. Management ConsoleによるKappletsへのログイン
5. Kappletsは認証にOAuthプロトコルを使用します
6. Kappletsのバックアップ
7. レガシーバージョンからバックアップファイルを復元する
8. 実行優先度とタイムアウトはカスタマイズ可能
9. 出力データを別のロボットに渡す機能

1.スケジュールのサポートが追加されました(1/3)

- Kappletsでスケジュールを管理できる、
[スケジュール]メニュー項目が追加されました。



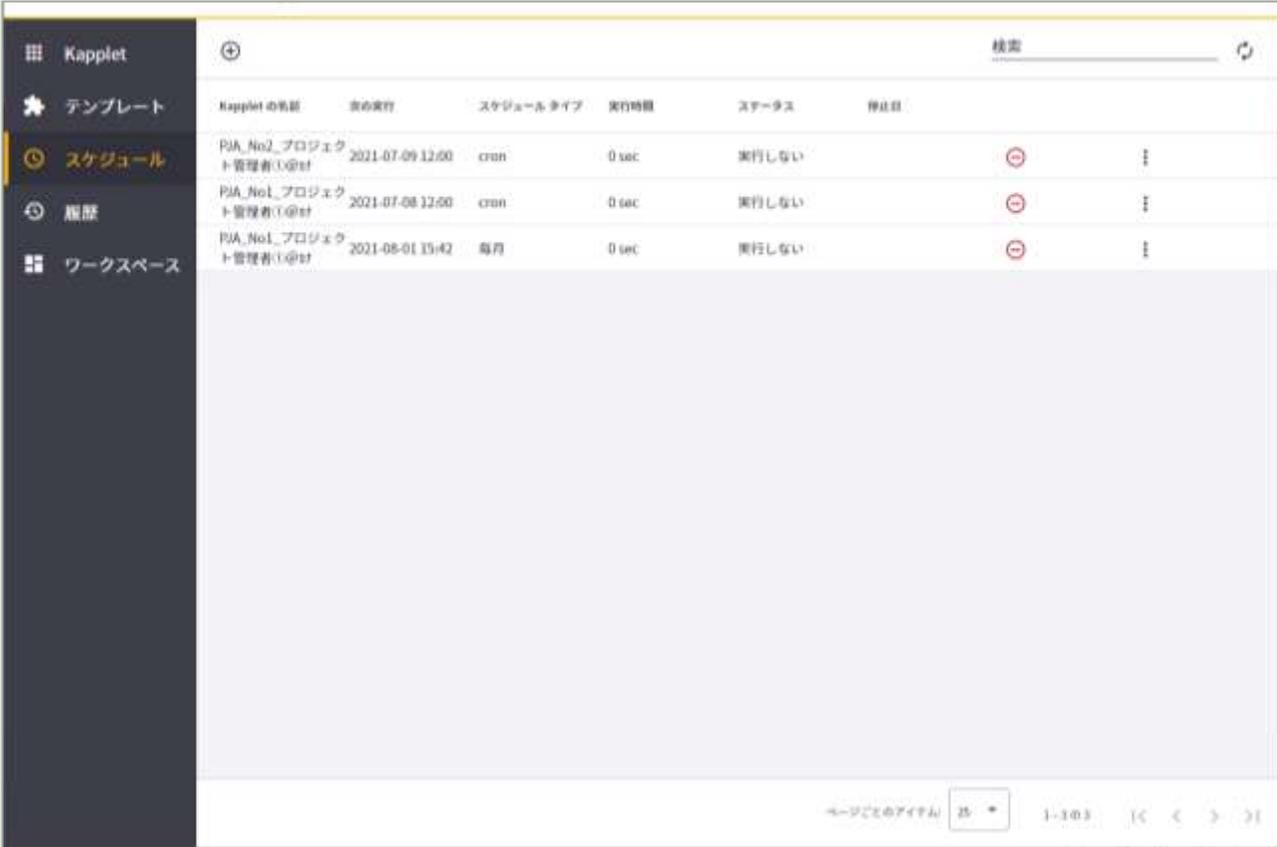
1.スケジュールのサポートが追加されました(2/3)

•Kappletから直接スケジュールを作成することもできます。

The screenshot displays the Kapplet application interface. On the left, a dark sidebar contains navigation items: Kapplet, テンプレート (Template), スケジュール (Schedule), 履歴 (History), ユーザー (User), ユーザーグループ (User Group), ワークスペース (Workspace), and データベース (Database). The main area shows a table with columns for 'アイコン名' (Icon Name), 'サービス名' (Service Name), and '種別' (Type). A context menu is open over the table, with 'スケジュールの作成' (Create Schedule) highlighted in red. A callout box on the right contains the text '各Kappletsからスケジュール作成が可能' (Schedule creation is possible from each Kapplet). Below this, a secondary menu lists options: 編集 (Edit), 除去 (Remove), スケジュールの作成 (Create Schedule), and スケジュールを表示 (Show Schedule). A green arrow points from the 'スケジュールの作成' option in the secondary menu to a modal window titled '新しいスケジュールを作成' (Create New Schedule). This modal window includes a dropdown menu for 'スケジュール中' (In Progress) and a text input field for '実行に失敗した場合' (In case of execution failure), with a 'コメント' (Comment) dropdown below it.

1.スケジュールのサポートが追加されました(3/3)

・スケジュールおよびその結果は、スケジュールの作成を行ったユーザー権限を持つユーザーにのみ表示されます。開発者権限または管理者権限を持つユーザーには、すべてのスケジュールとその結果が表示されます。



Kaplet の名前	次の実行	スケジュールタイプ	実行時間	ステータス	停止日
PIA_No2_プロジェクト ト管理者1@社	2021-07-09 12:00	cron	0 sec	実行しない	
PIA_No1_プロジェクト ト管理者1@社	2021-07-08 12:00	cron	0 sec	実行しない	
PIA_No1_プロジェクト ト管理者1@社	2021-08-01 15:42	毎月	0 sec	実行しない	

2.バックアップファイルによって復元されたスケジュール

•Management Consoleのバックアップファイルをインポートすると、Kappletsでスケジュールを復元できます。

•Kapplets、テンプレート、およびスケジュールが復元されます。すべてのスケジュールは、「cron」スケジュールとして復元されます。

•10.x以前のバージョンのKappletのスケジュールも移行可能です。

「毎日月-金 昼12時に実行」をcronスケジュールとして移行

ClassicKapplets

PJA_NO1_プロジェクト
ト管理者①@か
START PAGE

SCHEDULES

Active Schedule
EVERY DAY, MONDAY-FRIDAY AT 12:00

Kapplets (v11.3)

スケジュールの編集
このスケジュールに関する情報を編集

スケジュール中
cron

パターン
0 0 12 ? * MON-FRI

開始日を選択
2021/07/07

開始日時
14:00

停止日を選択 (選択した日を含む)

実行に失敗した場合
コメント

3.Kappletsでのクラスタ名の不要化

•Kapplets v11.1ではapplication.propertiesでクラスタを指定する必要がありました。

•v11.3ではKappletsの実行にManagement Consoleのプロジェクト(サービスタブ)で指定したクラスターを使用するため、クラスタを指定する必要がなくなりました。

(下記資料の手順が不要になりました)

参考資料

【全般】Kapplets環境構築手順書 (ベーシックパック版)

Tomcat環境における導入手順

3.Tomcatの設定

(3).使用するクラスターの情報を設定する

v11.3

kappletsにてクラスタの指定不要、MC側のサービスクラスターを参照します

プロジェクト 人事システム を編集

サービス

サービスクラスター
Non-Production

application.properties

```
140 #security<
141 kapplets.services.security.privileges.hierarchy.path<
142 #kapplets.execution.threading.settings<
143 kapplets.services.execution.start-pool-size=10<
144 kapplets.services.execution.max-pool-size=100<
145 kapplets.services.execution.keep-alive-idle=120<
146 kapplets.services.execution.task-queue-limit=1000<
147 <
148 <
```

(3).使用するクラスターの情報を設定する

以下の設定内容を、Kapplets が使用するクラスター名に書き換えます。

編集文字列 kapplets.services.execution.cluster-name=[クラスター名]

application.properties

```
140 #security<
141 kapplets.services.security.privileges.hierarchy.path=classpath:data/privileges.hierarchy<
142 #kapplets.execution.threading.settings<
143 kapplets.services.execution.start-pool-size=10<
144 kapplets.services.execution.max-pool-size=100<
145 kapplets.services.execution.keep-alive-idle=120<
146 kapplets.services.execution.task-queue-limit=1000<
147 kapplets.services.execution.cluster-name=Non-Production<
148 <
```

v11.1

4.Management ConsoleによるKappletsへのログイン

v11.3からKappletsへのログインがManagement Consoleのログインページ経由になりました。

•Kappletsを開くと、Management Consoleのログインページにリダイレクトされます。ユーザー情報を入力し、[ログイン]をクリックすると、自動的にリダイレクトされ、Kappletsにログインします。

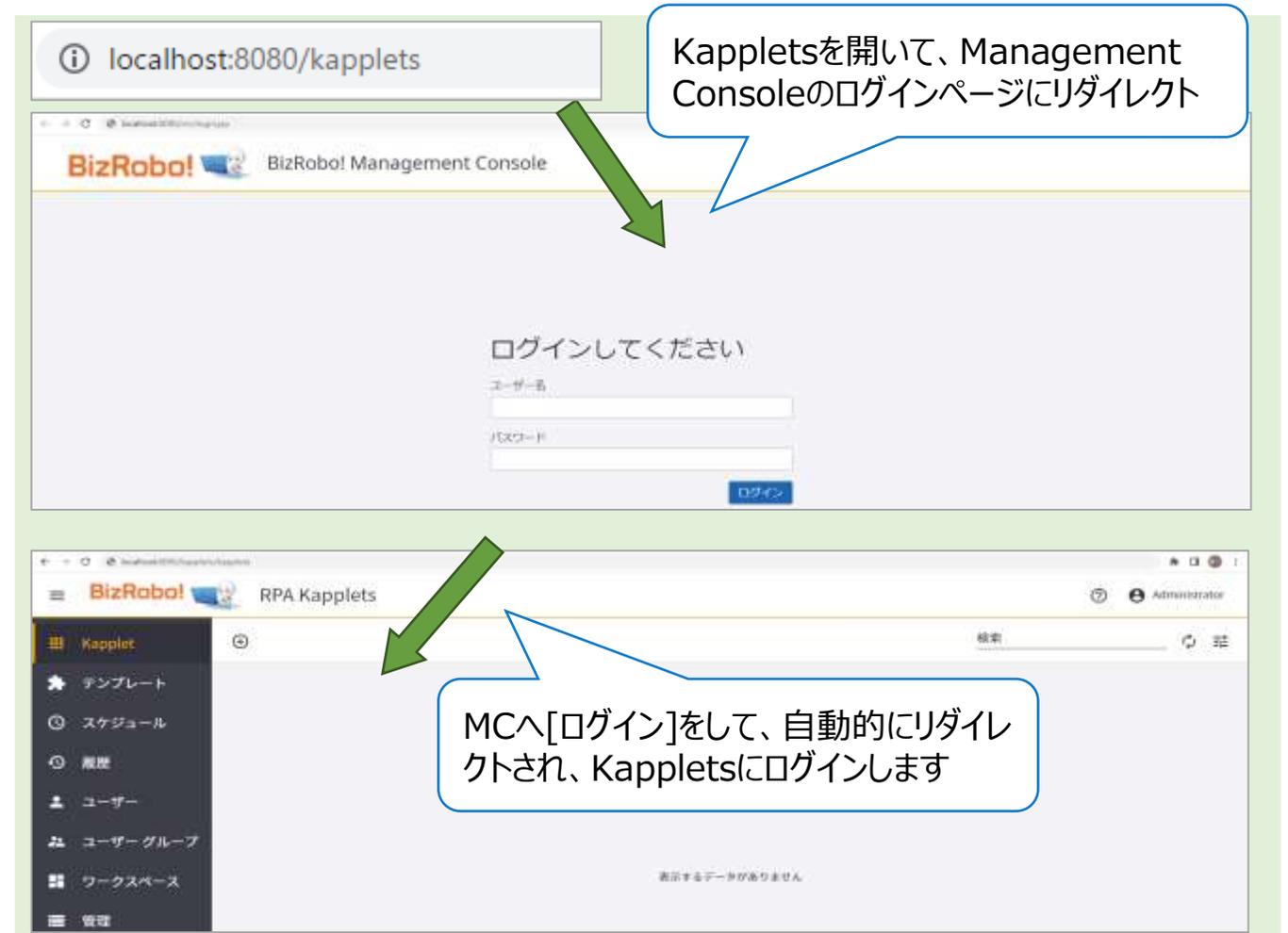
•Management Consoleにすでにログイン済みの場合には、Kappletsを開くと、自動的にKappletsにログインします。

※注

KappletsのOAuthクライアントシークレットと、Management Consoleに設定されている最新クライアントシークレットは完全一致に設定する必要があります。

最新になっていない場合、Kappletsにログインする際にOAuthクライアントシークレットを入力するメッセージが表示されます。

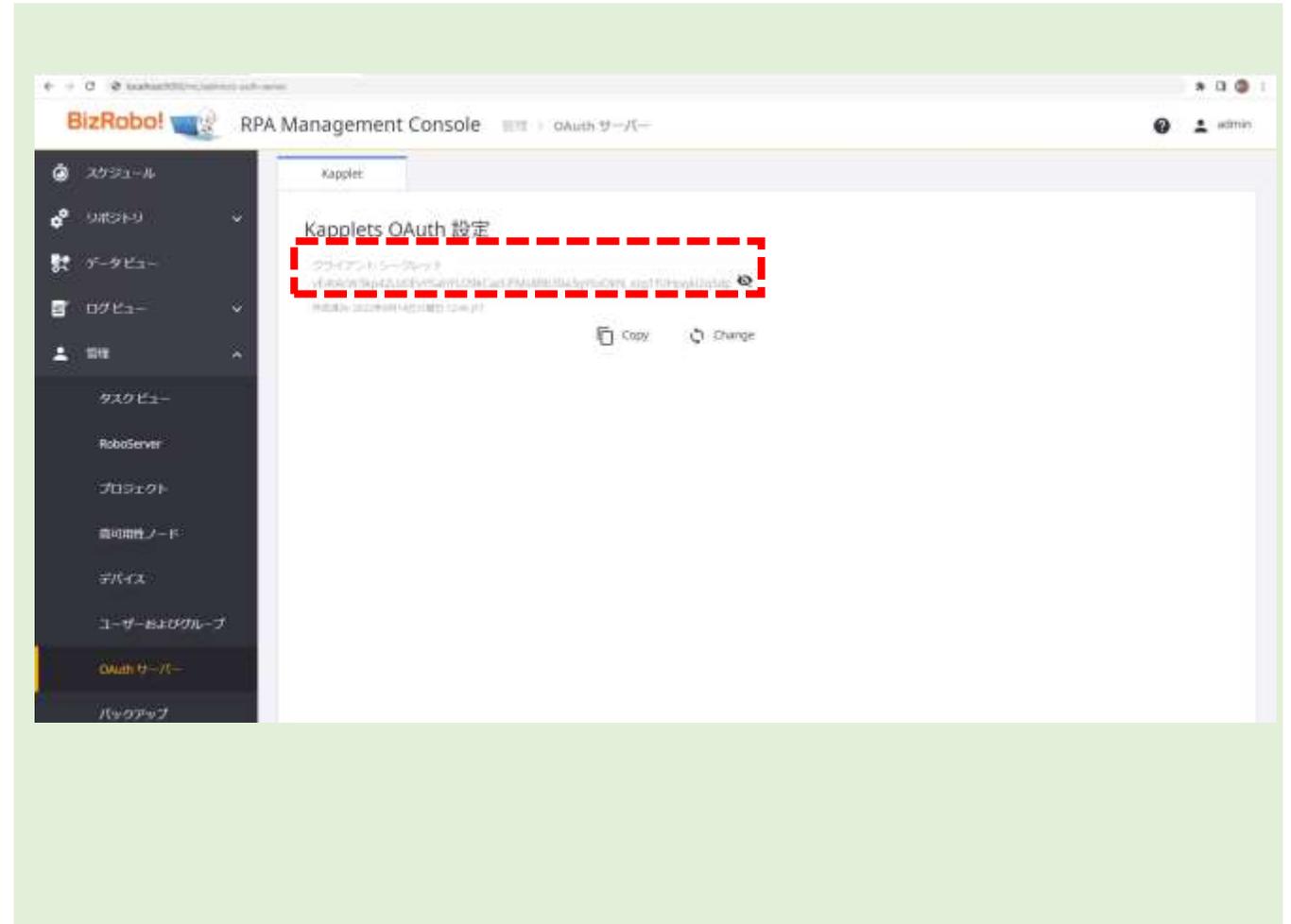
次項の「Kappletsは認証にOAuthプロトコルを使用します」をご参照ください。



5.Kappletsは認証にOAuthプロトコルを使用します(1/2)

セキュリティと利便性向上のため、v11.3からKappletsは認証にOAuthプロトコルを使用します。認証メカニズムが機能するには、クライアントシークレットが必要です。

- Management Consoleの[OAuthサーバー]にて、Kappletsユーザー認証に使用するOAuthクライアントシークレットを指定します。



5. Kappletsは認証にOAuthプロトコルを使用します(2/2)

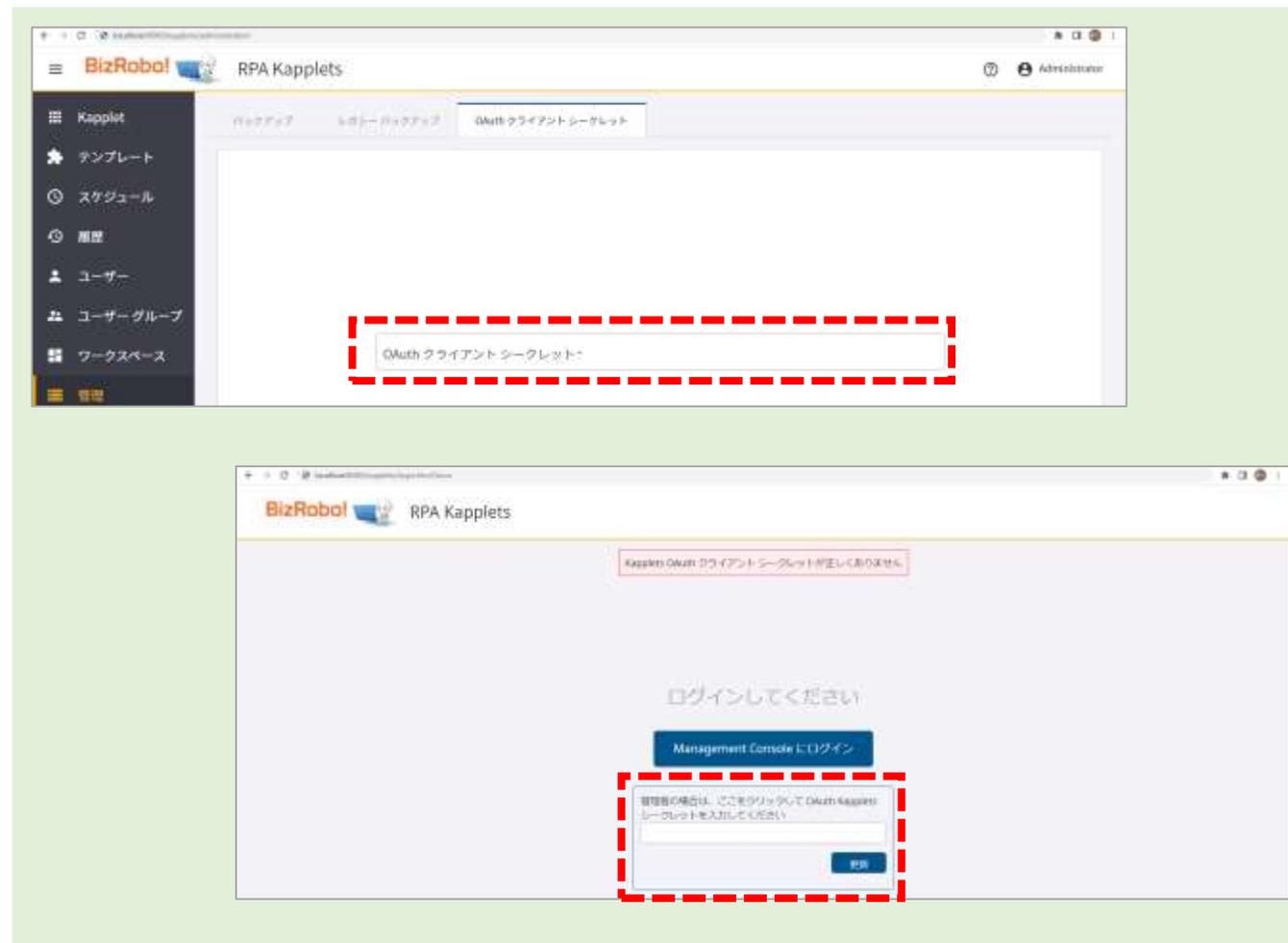
• Kappletsにクライアントシークレット未適用、またはManagement Consoleでクライアントシークレットが変更された場合は、管理者が(新しい)トークンを手動でコピーしKappletsに貼り付けます。

• この貼り付けは、Kappletsの[OAuthクライアントシークレット]タブ、またはログイン時の専用フィールドで行います。

※注

KappletsのOAuthクライアントシークレットと、Management Consoleに設定されている最新クライアントシークレットは完全一致に設定する必要があります。

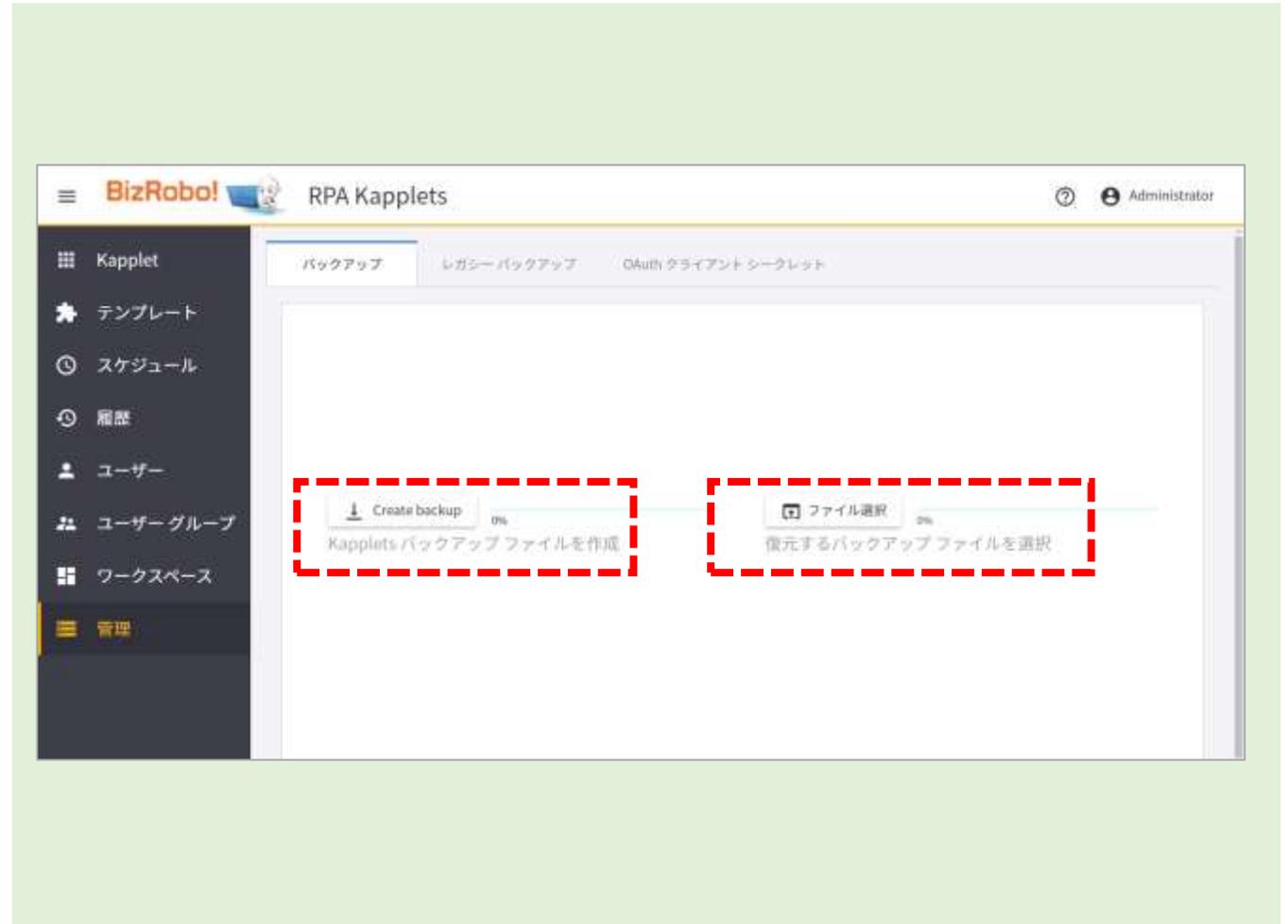
最新になっていない場合、KappletsにManagement Consoleのデータが転送されません。



6.Kappletsのバックアップ

・v11.3以降Kappletsはバックアップ、及びこのバックアップファイルを使ったKappletsの復元ができるようになりました。

・バックアップには、Kapplet、テンプレート、スケジュール、ユーザーとグループ、およびワークスペースが含まれますが、Kappletsの履歴は含まれません。

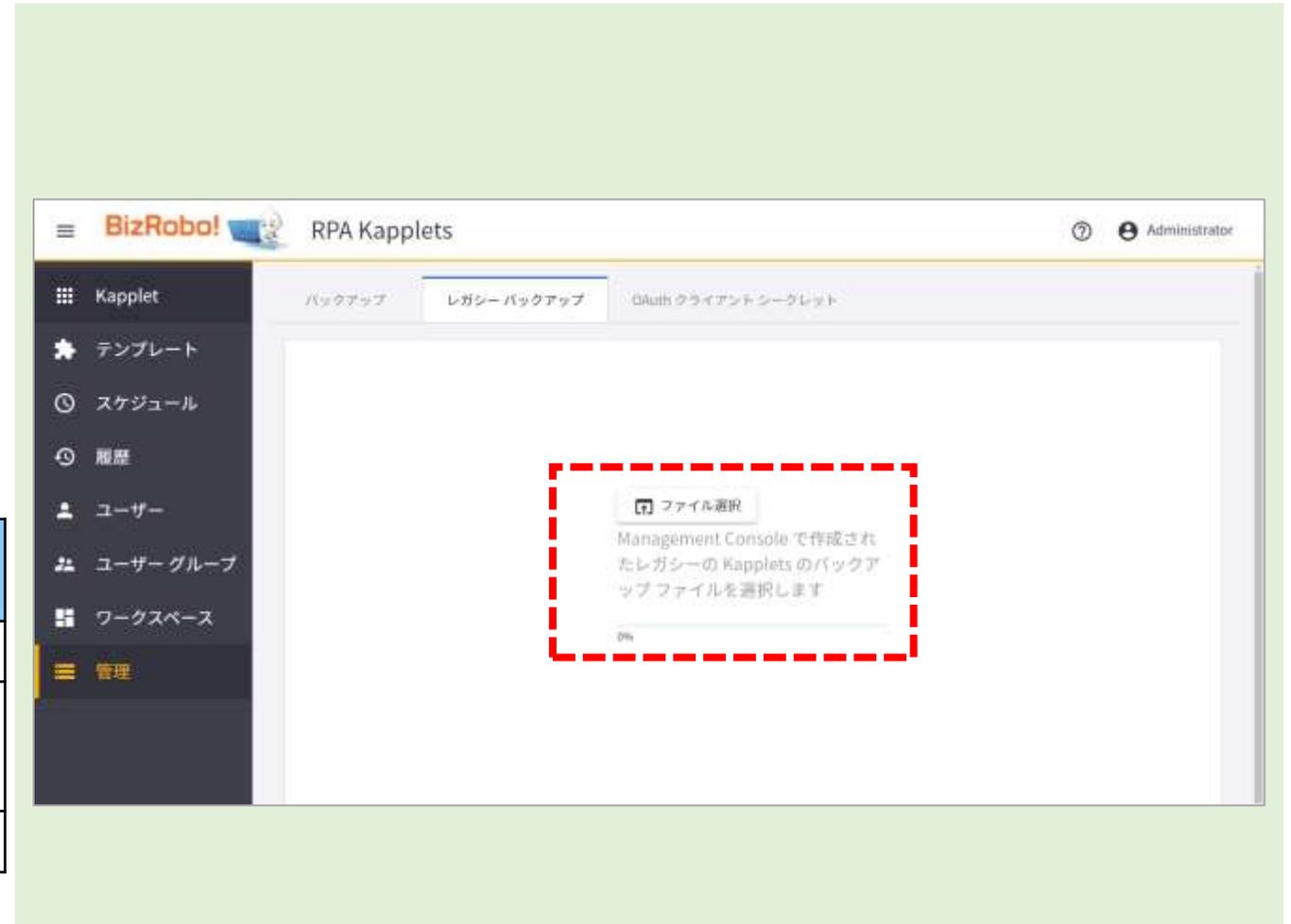


7.レガシーバージョンからバックアップファイルを復元する

・レガシーバージョンのKapplets(v10.7以前のバージョン)で作成されたバックアップファイルをv11.3へ復元する場合に使用します。

・各バージョンのKappletsをv11.3.Xへ復元する方法は以下の表をご参照ください。

バックアップ元バージョン	復元先バージョン	復元方法	備考
v10.7以前	v11.3.X	レガシーバックアップ	
v11.1.X	v11.3.X	Kappletsデータベースからの復元	[[全般]SynchRoid Kapplets利用手順書]参照
v11.3.X	v11.3.X	バックアップ	



8. 実行優先度とタイムアウトはカスタマイズ可能

・Kappletsよりロボットを実行キューに投入した場合の実行優先度とタイムアウト時間をカスタマイズできるようになりました。

※このカスタマイズはKapplet実行すべてに共通する設定となります。

実行優先度の既定値は「MEDIUM」になります。

```
application.properties
139
140 kapplets.services.execution.await-termination=true
141 kapplets.services.execution.await-termination-timeout=60
142
143 # Kapplet execution priority and timeout settings
144 # Default priority is MEDIUM
145 # Timeout is set in seconds, default is 600
146 kapplets.services.execution.request.priority = HIGH
147 kapplets.services.execution.request.timeout = 600
148
```

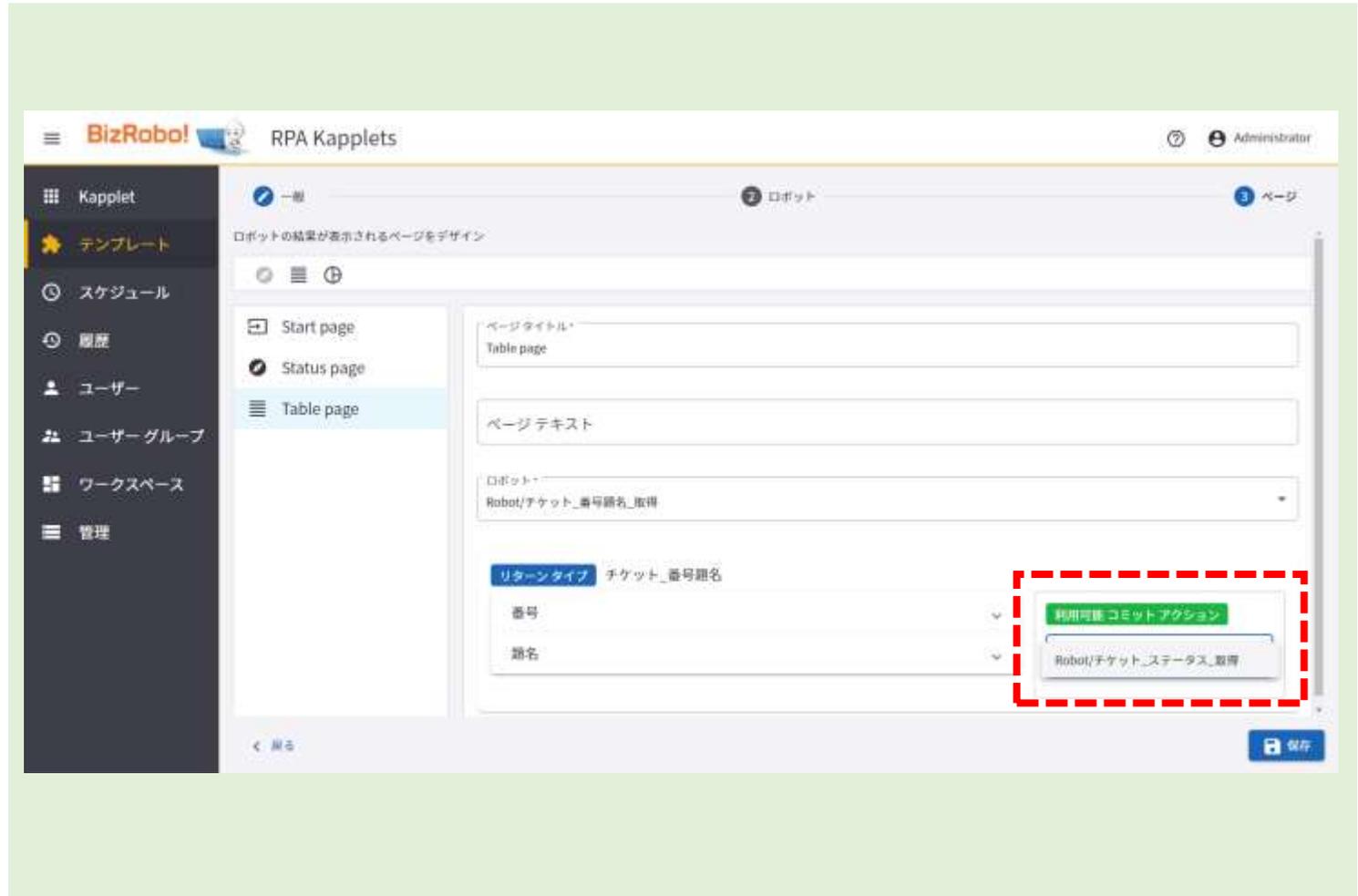
名前	スケジ...	プロジェク...	ステータ...	開始のステータ...	...	優先度	満期
Execute robot ロボッ...	ロボットAB	Default project	実行中	2022/6/16 10:43		中	
Execute robot ロボッ...	ロボットCD	Default project	処理待ち	2022/6/16 10:43		中	588
Execute robot ロボッ...	ロボットAB	Default project	実行中	2022/6/16 10:43		中	
Execute robot ロボッ...	ロボットCD	Default project	処理待ち	2022/6/16 10:43		中	588
Execute robot LongTi...	NA	Default project	処理待ち	2022/6/16 10:43		最大	592

9.出力データを別のロボットに渡す機能(1/2)

・2つのロボットを連続で使用するとき、メインロボットの出力データを2つ目のサブロボットの入力データとして使用できます。入力タイプと出力タイプは一致している必要があります。新しいテンプレートを作成するか既存のテンプレートを編集して、テーブル[ページ]でステップ、コミットアクションから2つ目のサブロボットを選択します。

※注

この機能は旧バージョンのv10.xにおけるClassicKappletsにはありましたが、v11.1では利用できませんでした。v11.3からのNewKappletでは同様な機能が使えるようになりました。

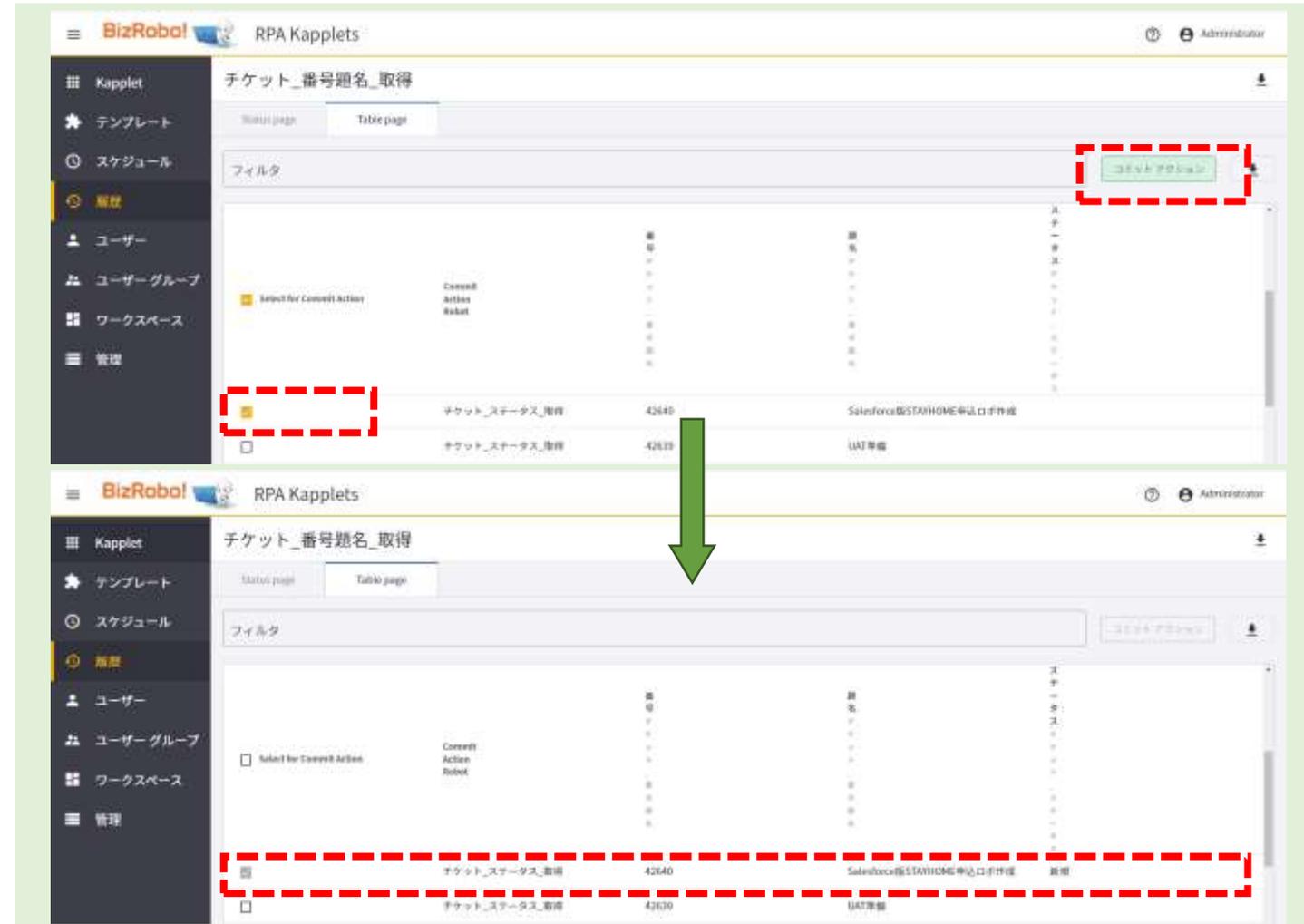


9.出力データを別のロボットに渡す機能(2/2)

・メインロボットの実行が終了すると、[履歴]ページに移動します。[テーブル ページ]タブで、前段で設定したロボットのリストが確認できます。[コミット アクション用に選択]チェックボックスをオンにして、コミット対象となるロボットを選択します。テーブルの右上隅にある[コミット アクション]ボタンがアクティブになったら、それをクリックして実行結果を確認できます。

※注

コミット対象となるサブロボットの実行は 1 回のみ、実行後結果はキープされ、同様な内容で 2 回実行することはできません。



備考

1.一部の製品コンポーネントの32ビットサポートの終了

次の製品パッケージコンポーネントは、64ビットプラットフォームにのみインストールできます。

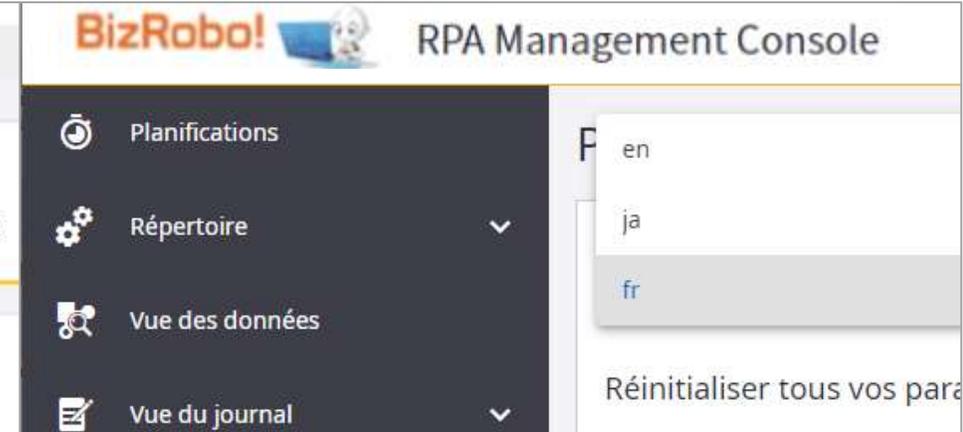
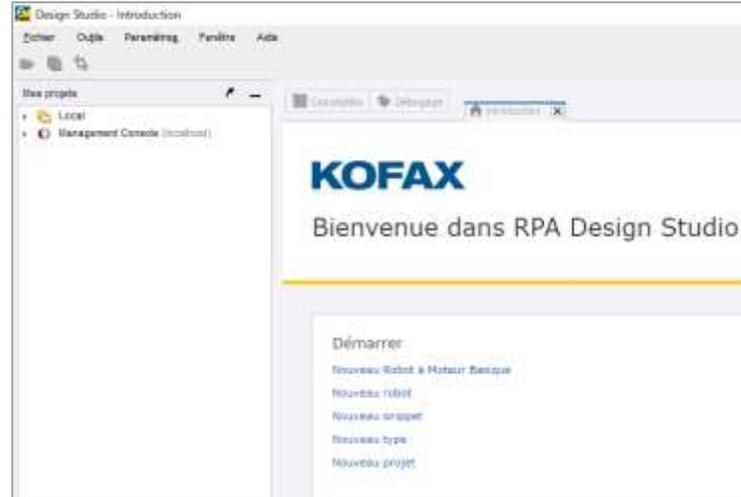
SynchRoid_Basic_11.3.0.x.msi

SynchRoid_Basic_DesignStudio-11.3.0.x.msi

SynchRoid_Basic_DesktopAutomation-11.3.0.x.msi

2.製品とドキュメントがフランス語で利用可能

•v11.3以降、製品とドキュメントセット全体がフランス語で利用可能です。



Management ConsoleおよびDesign Studioに対して、命名規則がドキュメントに追加されました。

参考リンク

https://docshield.kofax.com/RPA/ja_JA/11.3.0_5cdzhlgb3t/help/rpa_help/help_main/designstudio/c_namingpolicy.html

アジェンダ

- 11.3.0.2について
- 不具合解決した事象
- 新機能について
- 11.3.0.2への移行と顧客への影響**
- 11.3.0.2の既知の事象について

バージョンアップ時のロボットへの影響 (1/5)

v11.3.0.2にバージョンアップする場合、下位バージョンで作成したロボットへの影響が判明している事象は下記の通りです。

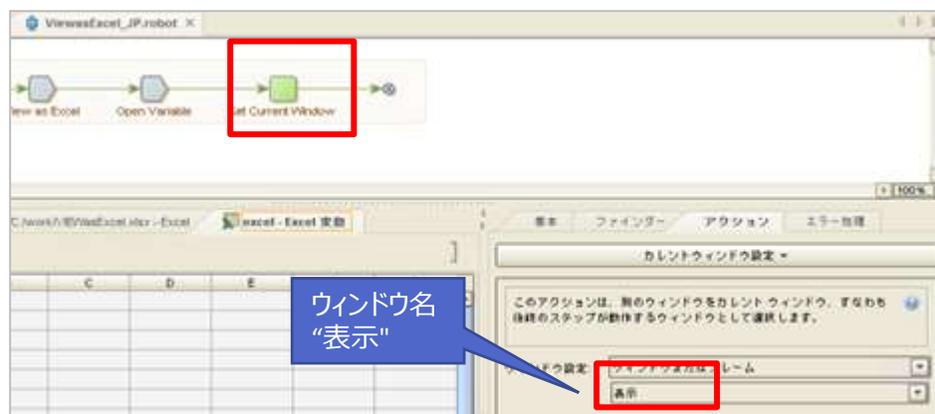
各事象の詳細については、次頁以降を参照ください。

項番	移行元バージョン	v11.3.0.2にバージョンアップ時の事象	対応方法
1	v10.3.0.2 v10.3.0.7 v10.4.0.4 v10.7.0.9	読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行った際に、「Set Current Window」ステップのウィンドウ名称がv11.3では「View」と表示されます。 v10.3.xからv10.7.xの日本語版DSでは「表示」となっているため、対象のバージョンのロボットをv11.3.0.2に移行した場合エラーとなります。	移行元または、移行先バージョンで、読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行う場合は、ウィンドウ名のリストの「表示」を「View」に変更します。
2	v10.3.0.2	DS内で新規Excelを開くとシート名が“シート”で指定しているためエラーとなります。	ファインダーでExcelのシート名に「シート」を設定している場合は、「sheet」に変更します。
3	v10.3.0.2	「Set Current Window」ステップにてウィンドウ設定に「名前がありません」が指定されているためエラーとなります。	「Set Current Window」ステップにてウィンドウ設定に「名前がありません」を設定している場合は、「Unnamed」に変更します。
4	v10.3.0.2 v10.3.0.7 v10.4.0.4 v10.7.0.9	v11.3ではDSのロボットの設定 > 基本タブのデフォルトオプションの設定において「SSL証明書を検証」にデフォルトでチェックがオンの状態となります。 このチェックがオンの場合は、「ターゲット抽出(Extract target)」、「REST Webサービス呼出(Call REST Web Service)」、「SOAP Webサービス呼出(Call SOAP Web Service)」のステップをロボットで実行した時に、エラーが発生する場合があります。	下記どちらかの対応でエラーが回避できます。 ・クライアントにクライアント証明書をインストールします。 ・ロボット設定の「SSL証明書を検証」のチェックをオフに変更します。

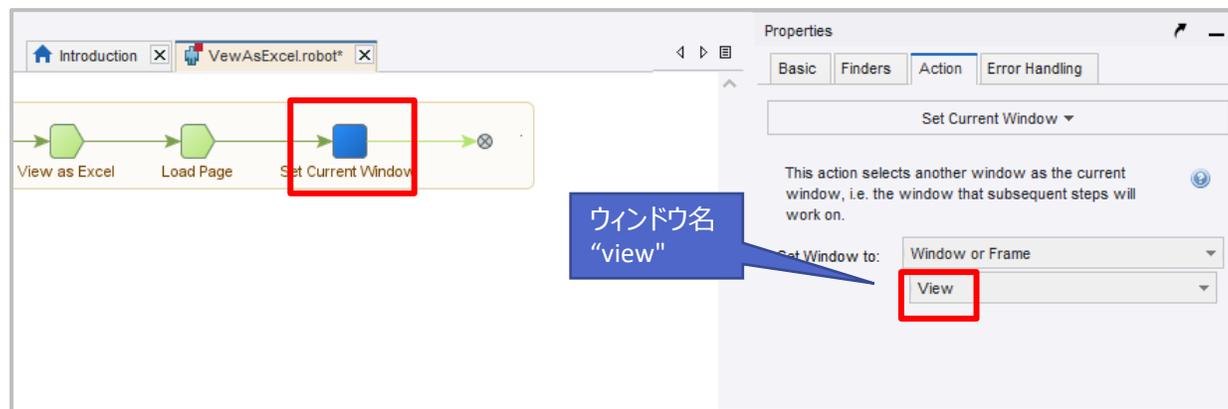
バージョンアップ時のロボットへの影響 (2/5)

項番	件名	詳細
1	View As Excelに対して行った「Set Current Window」(カレントウィンドウ設定) ステップにてエラー	読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行った際に、ウィンドウ名称はv10.3.xからv10.7.xの日本語版DSでは「表示」となりますが、v11.3では「View」となり異なるため、ロボットを実行するとエラーになります。

v10.3.x ~ v10.7.x



v11.3.0.2

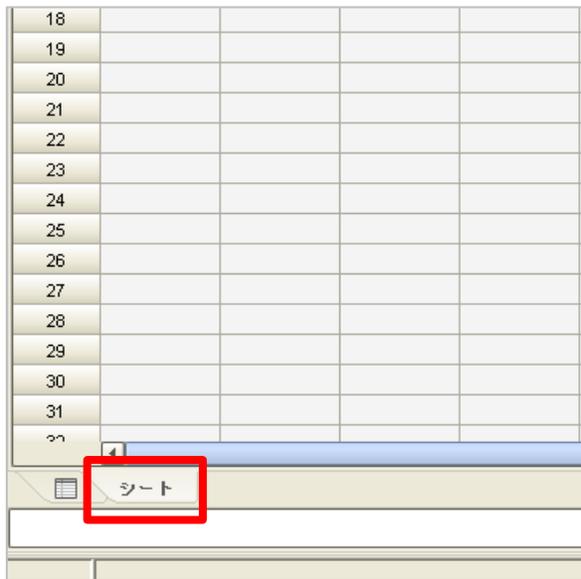


対応方法 ウィンドウ名のリストから「表示」を「View」に変更します。

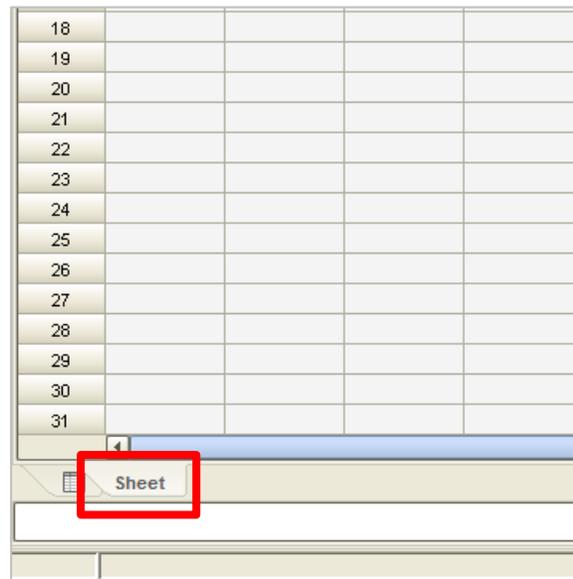
バージョンアップ時のロボットへの影響 (3/5)

項番	件名	詳細
2	セルのコンテンツ設定(Set Content of Cell)ステップにてエラー	v10.3.0.2のDS内で新規Excelを開くとシート名が“シート”となりますが、v10.3.0.7以降のバージョンはシート名が“Sheet”となり異なるため、ロボットを実行すると設定先のシートが特定できずエラーとなります。

v10.3.0.2



v10.3.0.7以降

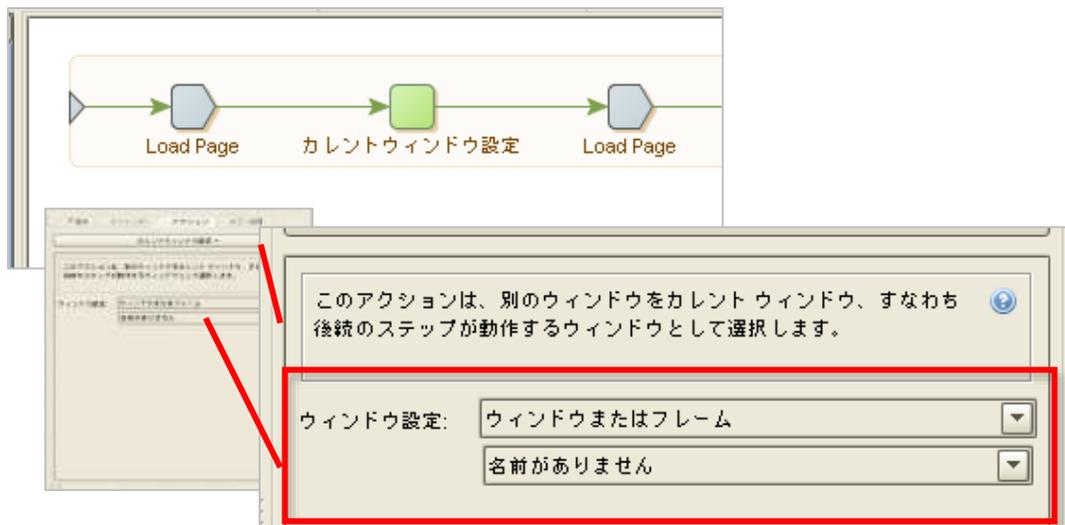


対応方法	ファインダーに設定しているシート名を“Sheet”に変更します。
------	----------------------------------

バージョンアップ時のロボットへの影響 (4/5)

項番	件名	詳細
3	カレントウィンドウ設定(Set Current Window)ステップにてエラー	Load Page アクションの前段に Set Current Window アクションが自動で生成されます。v10.3.0.2ではウィンドウ設定に「名前がありません」が設定されますが、v10.3.0.7以降のバージョンでは「Unnamed」と設定され異なるため、ロボット実行するとエラーとなります。

v10.3.0.2



v10.3.0.7以降



対応方法 カレントウィンドウ設定のウィンドウ設定を“名前がありません”を正しいウィンドウ名に変更します。

バージョンアップ時のロボットへの影響 (5/5)

項番	件名	詳細
4	ターゲット抽出(Extract target)、REST Webサービス呼出(Call REST Web Service)、SOAP Webサービス呼出(Call SOAP Web Service)ステップにてエラー	DSのロボットの設定 > 基本タブのデフォルトオプションの設定において「SSL証明書を検証」がデフォルトでチェックがオンになっています。このチェックがオンの場合は、クライアント側にインストールされているクライアント証明書を使用してサーバと認証が行われます。そのためクライアントに証明書がインストールされていない場合エラーとなることがあります。

v11.3.0.2



対応方法	DSにクライアント証明書のインストール、もしくはロボットの設定「SSL証明書を検証」のチェックをオフに変更します。
------	---

アジェンダ

- 11.3.0.2について
- 不具合解決した事象
- 新機能について
- 11.3.0.2への移行と顧客への影響
- 11.3.0.2の既知の事象について**

未解消事象があるものの、回避策適用によりの影響は軽微

	対象	事象	影響度	解消	回避策
1	MC	ログビューのフィルター設定に時間を設定することができません。	中	未決	無し
2	MC	リポジットリ> デバイスマッピングで、名前に全角数字は利用できません。 ただし、移行元バックアップファイルにデバイスマッピング名称に全角数字が含まれている場合は、v11.3.0.2で復元して継続して利用できます。	小	未決	無し
3	MC	過去に作成したスケジュールを編集する場合、開始日付を現在日付以降を設定しないと、OKボタンを押せません。	小	未決	有り
4	MC	リポジットリ> タイプにてフィルタに2バイト文字を設定した後に、更新ボタンを押下すると「表示するデータがありません」と表示されます。 また、フィルタに2バイト文字を設定した状態で別のタブに移動後にタイプに戻った場合、フィルタに設定していた値が文字化けします。正常な状態に戻すには、フィルタをクリアしてください。 スニペット、デバイスマッピング、データベースマッピングでも同事象が発生します。	小	未決	有り

※詳細はAppendixの「既知の事象について」をご確認ください

※記載している事象以外の不具合については、今後RPAT社のナレッジポータルにすべて掲載される予定です。

※KOFAXのリリースノートに掲載されているものは記載していません。

詳細はリリースノートをご確認ください。

https://docshield.kofax.com/RPA/ja_JA/11.3.0_5cdzhlgb3t/help/rpa_rn/rpa_releasenotes/c_ab_outthisrelease.html

未解消事象があるものの、回避策適用によりの影響は軽微

対象	事象	影響度	解消	回避策
5 Kapplets	ライセンスの上限ユーザー数を超えるユーザー数があるバックアップデータをKappletsで復元する場合、スーパーユーザー（管理者）でもユーザー数制限のためKappletsにログインできなくなります。 今後、移行時にはKappletsのユーザー数制限のないライセンスが発行される予定です。 v10.xからのバージョンアップのお客様についてはライセンスの切り替えが必要となります。	中	未決	有り
6 Kapplets	Kappletsではロボット実行後にキャンセルボタンが存在しますが、キャンセルボタン押下すると、Kappletsの画面上ではロボットが正常に停止したように見えているにも関わらず、実際にはロボットは停止していません。 そのため、Kappletsで実行したロボットを停止する場合は、MC側にて停止する必要があります。	中	未決	有り
7 Kapplets	Kappletsのスケジュールで実行に失敗した場合に「スケジュールを一時停止」または「スケジュールを停止」を設定している場合でも、ロボット実行失敗後、スケジュールは一時停止、または停止されません。	中	未決	無し
8 Kapplets	Kappletsのユーザー画面で無効にしたユーザーでも、Kappletsにログインできます。 ユーザーをログイン不可にする場合は、MC側でのユーザーの削除もしくは権限の制限での対処が必要です。	中	未決	有り
9 Kapplets	履歴のTablePageを表示する際、テンプレートでフィールドラベルに2バイト文字を設定した場合、TablePageに表示されるフィールド名は一文字ずつ改行されます。 英語表記のフィールド名は正常に表示されます。	小	未決	無し

※詳細はAppendixの「既知の事象について」をご確認ください

※記載している事象以外の不具合については、今後RPAT社のナレッジポータルにすべて掲載される予定です。

※KOFAXのリリースノートに掲載されているものは記載していません。

詳細はリリースノートをご確認ください。

https://docshield.kofax.com/RPA/ja_JA/11.3.0_5cdzhlgb3t/help/rpa_rn/rpa_releasenotes/c_ab_outhisrelease.html

v11.3.0.2の既知の事象 (1/10)

項番1 : ログビューのフィルター設定に時間を設定することができません。

例 : v10.7.0.4

ログビュー

ログを選択

スケジュール実行

エラー > []

スケジュール名 次を含む []

実行 ID > []

プロジェクト名 すべて []

開始 開始: 2020-11-24 00:00:00.000 []

終了: 2020-11-25 23:59:59.000 []

停止 開始: []

終了: []

MC サーバー 次を含む []

警告 > []

ページごとの結果: 40 []

列を増やす リセット 更新

v10.7.0.4では時間の指定が可能

例 : v11.3.0.2

列フィルタ

エラー []

実行 ID []

開始 開始: [] 終了: []

停止 開始: [] 終了: []

MC サーバー []

キュー時間 []

合計時間 []

警告 []

情報 []

スケジュール ID []

結果 []

キャンセル OK

v11.3.0.2では時間の指定は不可

v11.3.0.2の既知の事象 (2/10)

項番2 : MC リポジトリ > デバイスマッピングで名前に全角数字は利用できません。

The screenshot shows the KOFAX RPA Management Console interface. A modal dialog titled "デバイスマッピングの追加" (Add Device Mapping) is open. The "名前*" (Name) field contains "test0 1" and is highlighted with a red box. Below the name field, a red error message reads: "デバイスマッピング名には、文字、数字、またはアンダースコアのみを使用してください。" (Device mapping names can only use letters, numbers, or underscores). The "ラベル*" (Label) field contains "test". A yellow callout box with a red border points to the "test0 1" name, containing the text: "全角数字を含む名前は設定不可" (Names containing full-width numbers cannot be set). The background shows a table of device mappings with columns for name and label.

名前	ラベル
DA	rs10704
rb	rs10704
DA1	Label1

v11.3.0.2の既知の事象 (3/10)

項番3：過去作成したスケジュールを編集する場合、
開始日付を現在日付以降を設定しないとOKボタンは押せません。

The screenshot shows a web form for editing a scheduled job. The form has several fields: 'スケジュール名*' (DS_90秒待機するロボット), 'アクティブ' (unchecked), 'シンプル' (selected), 'cron' (unchecked), '繰り返し間隔*' (1分), '開始時間 (ローカル時間)*' (12:30), '日付を選択*' (2022/8/3), 'ジョブの優先順位*' (中), 'ジョブのタイムアウト*' (10分), '前処理ロボット', and '後処理ロボット'. At the bottom, there are 'キャンセル' and 'OK' buttons. A red box highlights the date field, and another red box highlights the 'OK' button. Two yellow callout boxes provide additional information.

スケジュールの編集を行う場合、日付が過去日になっていると保存ができない

OKボタンは非活性のまま

v11.3.0.2の既知の事象 (4/10)

項番4 : MC リポジトリ > タイプにてフィルタに2バイト文字を設定した後に、更新ボタンを押下すると「表示するデータがありません」と表示されます。

スニペット、デバイスマッピング、データベースマッピングでも同事象が発生します。

更新ボタンを押下

フィルタ「日付」に該当するタイプが表示される

リフォルダ	名前	サイズ	プロジェクト名	最終変更日
バージョンアップ検証/202207/	日付	976 バイト	test project	2022/7/21 16:28

対象データが表示されない

表示するデータがありません

v11.3.0.2の既知の事象 (5/10)

項番4：フィルタに2バイト文字を設定した状態で別のタブに移動後タイプに戻った場合、フィルタに設定していた値は文字化けします。
スニペット、デバイスマッピング、データベースマッピングでも同事象が発生します。



v11.3.0.2の既知の事象 (6/10)

項番5 : Kappletsでは、ライセンスのユーザ数を超えて作成されたユーザはログインできません。

Kappletsのユーザ数制限のないライセンスが発行される予定です。

v10.xからのバージョンアップのお客様についてはライセンスの切り替えが必要になります。

The screenshot shows the KOFAX RPA Kapplets login interface. At the top left, the logo reads "KOFAX RPA Kapplets". The main content area is light gray. In the center, there is a login form with the following elements:

- A red-bordered error message box containing the text: "ライセンスで許容されている一時的ユーザ数の上限に達しました。管理者に連絡してください。"
- The heading "ログインしてください"
- Input fields for "ユーザー名" (Username) and "パスワード" (Password).
- A blue "ログイン" (Login) button.

A yellow speech bubble with a red border points to the error message, containing the text: "ユーザ数の制限を超えている場合、エラーとなりログイン不可"

At the bottom center, the text reads: "Powered by Kofax RPA™ Kapplets 11.3.0.4.488"

v11.3.0.2の既知の事象 (7/10)

項番6 : Kapplet実行中に、「キャンセル」ボタンを押してもロボットの実行はキャンセルされません。

キャンセル

キャンセル押下後、メッセージはロボットを停止したように見える

MCで確認するとロボットは実行中のままとされており、実行はキャンセルされていない

ロボット名	サーバー	プロジェクト名	ロボット URL	開始時間クライア...	実行 ID	現在のス...	ステータス
⋮ 待機	192.168.205.40:5000	Default project	Library:/202009/待機	11/24/20, 5:42 PM	2175f9633c50	Wait	実行中

v11.3.0.2の既知の事象 (8/10)

項番7 : Kappletsのスケジュールで実行に失敗した場合のオプションが設定されません。



失敗時は「スケジュールを一時停止」指定しているが、一時停止状態にならない
※一時停止された場合は青いアイコンが付く

Kappletの名前	ワークスペース	次の実行	スケジュールタイプ	実行時間	ステータス	停止日	所有者
失敗時は「スケジュール一時停止」	test project	2022-08-10 16:59	毎時	0 sec	失敗	2022-08-11	kapuser01[internal]
エラー発生ロボット	test project	Expired	毎時	0 sec	実行しない		admin[internal]
失敗時は「スケジュール停止」	test project	2022-08-10 16:58	毎時	0 sec	失敗	2022-08-11	kapuser01[internal]

失敗時は「スケジュールを停止」指定しているが、停止状態にならない
※停止されていればメニュー「再開」が有効になる

v11.3.0.2の既知の事象 (9/10)

項番8 : Kappletsのユーザー画面で無効にしたユーザーでもKappletsにログインできます。

有効	フルネーム	ユーザー名	電子メール	タイプ	グループ	権限
🔴	-	-	-	Management Console		
🔴	-	-	-	Management Console		
🔴	-	-	-	Management Console		管理者
🔴	-	-	-	Management Console	Kapplet_admin	
🔴	-	-	-	Management Console	kappletuser, Kapplet_admin	
🔴	-	-	-	Management Console	projectadmin, RPA Administrators	

アイコン名前	日時 ↓	状態	作成者
DS_wait	2022/08/09 17:54:47	✓	admin[internal]
エラーテスト	2022/08/09 14:04:00	🔴	admin[internal]
エラーテスト	2022/08/09 13:56:00	🔴	admin[internal]
エラーテスト	2022/08/09 13:49:00	🔴	admin[internal]

v11.3.0.2の既知の事象 (10/10)

項番9：履歴のTablePageを表示する際、テンプレートでフィールドラベルに2バイト文字を設定した場合、TablePageに表示されるフィールド名は一文字ずつ改行されます。



APPENDIX

 SoftBank